

あ か ま え Ⅰ う し こ ざ わ
赤前Ⅰ牛子沢遺跡

—東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う
個人住宅関係発掘調査報告書 2—

2019.3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

本州最東端に位置する岩手県宮古市には、現在約680箇所の遺跡が分布し、縄文時代から現代まで連綿と続く先人達の営みが数多く残されています。市教育委員会ではこれらの遺跡を後世に伝え残していくために周知と保護・保存を行っております。なかでも開発工事等により発掘調査された遺跡については、記録として保存し、さらに出土した土器や石器などは体験学習や企画展示に活用しております。

本発掘調査報告書は、平成23年3月11日の東日本大震災で被災された市民の住宅再建に伴い実施された赤前Ⅰ牛子沢遺跡の発掘調査及び内容確認調査の結果をまとめたものです。本調査区（C区）からは、縄文時代や奈良時代の竪穴住居、さらに中世の竪穴住居も検出され、当該地が各時代における集落跡であったことが分かりました。さらに内容確認調査区（A区・B区）からも縄文時代の竪穴住居が多数検出され、縄文集落の広がりがみえてきました。

赤前地区においては、被災者の住宅再建や道路建設、高台移転などの復興事業を原因とした発掘調査が各所で行われたことにより、新たな発見が相次ぎ、次第に地域の歴史が明らかになってきております。遺跡から出土した歴史的な価値をもつこれらの資料は、未来への道標として、さらには郷土への愛着を深めるものとして活用されることが期待されます。

最後になりましたが、調査にあたりまして御指導、御協力いただきました関係各位に深甚なる謝意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成31年3月

宮古市教育委員会
教育長 伊 藤 晃 二

例 言

1. 本書は東日本大震災復興関連発掘調査事業（個人住宅）に伴う赤前Ⅰ牛子沢遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査主体は宮古市教育委員会（教育長 佐々木敏夫（～平成25年度）、伊藤晃二（平成26年度～））である。本調査・内容確認調査及び本書の執筆・編集は、文化課の長谷川及び盛岡市派遣職員八木光則が担当し、その他、文化課担当職員がこれを補佐した。
3. 調査座標については、公共座標第X系を基準としたものである。座標値は $X = -46,000.000\text{m}$ 、 $Y = +96,000.000\text{m}$ を原点とした。また、図版中は調査用の局地的な座標であることを明示するためにRを冠した。断面図における水準標高は海拔標高を示す。
4. 土色及び土質の観察は『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄編著 2001年度版）を基準とし、図版中において土層観察表で表示した。遺物の観察は全て肉眼観察により行い、遺物観察表としてまとめている。
5. 図版中のスクリーン表示は図版中で定めない限り以下の通りである。
遺構図版 ・  石  焼土  地山
遺物図版 ・  磨石の機能面  土師器の黒色処理  繊維土器
6. 遺構図版の縮尺率は、原則として1/50と1/30、調査区全体図は1/200及び1/100とした。また、各図版のスケール上に縮尺率を明示した。遺物図版の縮尺率は、土器・土製品は1/3、剥片石器は2/3、その他の石器は1/3とした。
7. 復興調査である今回の本調査及び内容確認調査に際し、次の方々から多大なご支援いただいた。記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略）
八木光則（岩手県盛岡市派遣）、金田明大（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）
横山真（株式会社ラング）、千葉史（株式会社ラング）、三井猛（有限会社三井考測）
梅田由子（有限会社三井考測）、山根学（地権者）
8. 第6章自然科学分析は次の機関に依頼した。
炭化材樹種同定 ： 古代の森研究舎
放射性炭素年代測定：パリノ・サーヴェイ株式会社
9. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

目 次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次 表目次

第1章 調査に至る経緯	1
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査体制	
第2章 立地と環境	3
第1節 宮古市の位置と遺跡の環境	
第2節 周辺の遺跡	
第3章 調査の方法	7
第1節 調査方法と調査経過	
第2節 基本層序	
第4章 検出された遺構と遺物（本調査区：C区）	13
第1節 竪穴住居跡	
第2節 土坑・ピット	
第3節 遺構外出土遺物	
第5章 検出された遺構と遺物（内容確認調査区：A区・B区）	57
第1節 竪穴住居跡	
第2節 遺物包含層・A区トレンチ・遺構外出土遺物	
第6章 自然科学分析	84
炭化材樹種同定	
放射性炭素年代測定	
第7章 まとめ	91
引用・参考文献	
報告書抄録	134

図版目次

第1章 調査に至る経緯

第1図 赤前 I 牛子沢遺跡 位置図 (1) 2

第2章 立地と環境

第2図 地形分類図 4

第3図 地質図 5

第4図 周辺の遺跡分布図 6

第3章 調査の方法

第5図 赤前 I 牛子沢遺跡 位置図 (2) 7

第6図 調査区周辺地形図 9

第7図 調査区全体図 10

第8図 本調査区 (C 区) 基本土層図 11

第4章 検出された遺構と遺物 (本調査区)

第9図 1号竪穴住居跡 平面図・断面図 . . 14

第10図 1号竪穴住居跡 ピット断面図 . . . 15

第11図 1号竪穴住居跡 カマド平面図・断面図 16

第12図 1号竪穴住居跡 出土遺物 (1) . . . 17

第13図 1号竪穴住居跡 出土遺物 (2) . . . 17

第14図 1号竪穴住居跡 出土遺物 (3) . . . 18

第15図 1号竪穴住居跡 出土遺物 (4) . . . 19

第16図 2号竪穴住居跡 平面図・断面図 . . 20

第17図 2号竪穴住居跡 ピット断面図 . . . 21

第18図 2号竪穴住居跡 出土遺物 22

第19図 3号竪穴住居跡 平面図・断面図 . . 23

第20図 3号竪穴住居跡 ピット断面図 . . . 25

第21図 3号竪穴住居跡 出土遺物 (1) . . . 26

第22図 3号竪穴住居跡 出土遺物 (2) . . . 27

第23図 4号竪穴住居跡 平面図・断面図 . . 29

第24図 4号竪穴住居跡 ピット断面図 . . . 30

第25図 4号竪穴住居跡 カマド平面図・断面図 31

第26図 4号竪穴住居跡 礫出土状況 32

第27図 4号竪穴住居跡 出土遺物 (1) . . . 33

第28図 4号竪穴住居跡 出土遺物 (2) . . . 34

第29図 5号竪穴住居跡 平面図・断面図 . . 35

第30図 5号竪穴住居跡 炉跡平面図・断面図 36

第31図 5号竪穴住居跡 出土遺物 (1) . . . 37

第32図 5号竪穴住居跡 出土遺物 (2) . . . 38

第33図 5号竪穴住居跡 出土遺物 (3) . . . 38

第34図 5号竪穴住居跡 出土遺物 (4) . . . 39

第35図 6号竪穴住居跡 平面図・断面図 . . 39

第36図 6号竪穴住居跡 出土遺物 (1) . . . 40

第37図 6号竪穴住居跡 出土遺物 (2) . . . 40

第38図 土坑・ピット配置図 41

第39図 土坑 断面図 42

第40図 ピット 断面図 46

第41図 土坑・ピット 出土遺物 (1) . . . 51

第42図 土坑・ピット 出土遺物 (2) . . . 52

第43図 土坑・ピット 出土遺物 (3) . . . 52

第44図 土坑・ピット 出土遺物 (4) . . . 53

第45図 遺構外出土遺物 (1) 54

第46図 遺構外出土遺物 (2) 55

第47図 遺構外出土遺物 (3) 55

第48図 遺構外出土遺物 (4) 56

第5章 検出された遺構と遺物 (内容確認調査区)

第49図 B 区 遺構配置図 58

第50図 B 区 調査区断面図 (1) 59

第51図 B 区 調査区断面図 (2) 60

第52図 B1~3号・B5号・B7号竪穴住居跡 平面図 61

第53図 B1号・B4号・B7号竪穴住居跡 断面図 62

第54図 B1号竪穴住居跡 出土遺物 62

第55図 B4号竪穴住居跡 平面図 64

第56図 B4号竪穴住居跡 土器出土平面図 . . 65

第57図 B4号竪穴住居跡 出土遺物 (1) . . . 65

第58図 B4号竪穴住居跡 出土遺物 (2) . . . 66

第59図 B4号竪穴住居跡 出土遺物 (3) . . . 67

第60図 B4号竪穴住居跡 出土遺物 (4) . . . 67

第61図 B4号竪穴住居跡 出土遺物 (5) . . . 68

第62図 B6号竪穴住居跡 平面図 69

第63図 B区 出土遺物 (1) 70	18 2号竪穴住居跡 ピット堆積状況 (南→) 100
第64図 B区 出土遺物 (2) 71	19 2号竪穴住居跡 壁柱穴 完掘状況 (東→) 101
第65図 B区 出土遺物 (3) 72	20 2号竪穴住居跡 完掘状況 (東→) . . . 101
第66図 B区 出土遺物 (4) 73	21 3号竪穴住居跡 検出状況 (南→) . . . 102
第67図 B区 出土遺物 (5) 74	22 3号竪穴住居跡 堆積状況 (東→) . . . 102
第68図 B区 出土遺物 (6) 75	23 3号竪穴住居跡 堆積状況 (南→) . . . 102
第69図 B区 出土遺物 (7) 76	24 3号竪穴住居跡 床面出土状況 (東→) . 102
第70図 B区 出土遺物 (8) 77	25 3号竪穴住居跡 カマド堆積状況 (南→) 102
第71図 B区 出土遺物 (9) 78	26 3号竪穴住居跡 カマド完掘状況 (東→) 103
第72図 A区 トレンチ平面図・断面図 (1) 79	27 3号竪穴住居跡 完掘状況 (東→) . . . 103
第73図 A区 トレンチ平面図・断面図 (2) 80	28 4号竪穴住居跡 検出状況 (南西→) . . 104
第74図 A区・表採 出土遺物 (1) 81	29 4号竪穴住居跡 堆積状況 (南東→) . . 104
第75図 A区・表採 出土遺物 (2) 82	30 4号竪穴住居跡 炭化材出土状況 (南→) 105
第76図 A区・表採 出土遺物 (3) 83	31 4号竪穴住居跡 炭化材出土状況 (北西→) 105

第7章 まとめ

第77図 4号竪穴住居跡 礫出土状況 92	32 4号竪穴住居跡 炭化材出土状況 (北→) 105
	33 4号竪穴住居跡 炭化材出土状況 (北西→) 105
	34 4号竪穴住居跡 砥石出土状況 (南→) . 105
	35 4号竪穴住居跡 カマド堆積状況 (南→) 105
	36 4号竪穴住居跡 カマド燃焼部状況 (南東→) 105
	37 4号竪穴住居跡 カマド掘方状況 (南東→) 105
	38 4号竪穴住居跡 礫出土状況 (南東→) . 106
	39 4号竪穴住居跡 礫出土状況 (北→) . . 106
	40 4号竪穴住居跡 カマド完掘状況 (南東→) 107
	41 4号竪穴住居跡 完掘状況 (南東→) . . 107
	42 5号竪穴住居跡 検出状況 (東→) . . . 108
	43 5号竪穴住居跡 堆積状況 (南→) . . . 108
	44 5号竪穴住居跡 遺物出土状況 (南→) . 108
	45 5号竪穴住居跡 遺物出土状況 (南→) . 108
	46 5号竪穴住居跡 炉跡堆積状況 (南→) . 108
	47 5号竪穴住居跡 石囲炉 完掘状況 (南→) 109
	48 5号竪穴住居跡 完掘状況 (北→) . . . 109
	49 6号竪穴住居跡 堆積状況 (南→) . . . 110
	50 6号竪穴住居跡 完掘状況 (東→) . . . 110
	51 1号土坑 完掘状況 (北→) 111
	52 2号土坑 完掘状況 (南→) 111
	53 3号土坑 完掘状況 (南→) 111

写真図版目次

1 調査前現況 (南→) 95	37 4号竪穴住居跡 カマド掘方状況 (南東→) 105
2 試掘調査状況 (南→) 95	38 4号竪穴住居跡 礫出土状況 (南東→) . 106
3 本調査区 (C区) 遺構検出状況 (南→) . . 96	39 4号竪穴住居跡 礫出土状況 (北→) . . 106
4 本調査区 (C区) 調査区北壁堆積状況 (南→) 96	40 4号竪穴住居跡 カマド完掘状況 (南東→) 107
5 本調査区・内容確認調査区 発掘風景 (南→) 97	41 4号竪穴住居跡 完掘状況 (南東→) . . 107
6 地中レーダー探査 実験状況 (東→) . . . 97	42 5号竪穴住居跡 検出状況 (東→) . . . 108
7 1号竪穴住居跡 検出状況 (東→) 98	43 5号竪穴住居跡 堆積状況 (南→) . . . 108
8 1号竪穴住居跡 堆積状況 (東→) 98	44 5号竪穴住居跡 遺物出土状況 (南→) . 108
9 1号竪穴住居跡 粘土塊出土状況 (東→) . 98	45 5号竪穴住居跡 遺物出土状況 (南→) . 108
10 1号竪穴住居跡 カマド堆積状況 (東→) 98	46 5号竪穴住居跡 炉跡堆積状況 (南→) . 108
11 1号竪穴住居跡 土師器出土状況 (東→) 98	47 5号竪穴住居跡 石囲炉 完掘状況 (南→) 109
12 1号竪穴住居跡 カマド完掘状況 (東→) 99	48 5号竪穴住居跡 完掘状況 (北→) . . . 109
13 1号竪穴住居跡 完掘状況 (東→) . . . 99	49 6号竪穴住居跡 堆積状況 (南→) . . . 110
14 2号竪穴住居跡 検出状況 (東→) . . . 100	50 6号竪穴住居跡 完掘状況 (東→) . . . 110
15 2号竪穴住居跡 堆積状況 (東→) . . . 100	51 1号土坑 完掘状況 (北→) 111
16 2号竪穴住居跡 張り出し部状況 (東→) 100	52 2号土坑 完掘状況 (南→) 111
17 2号竪穴住居跡 床面出土状況 (東→) . 100	53 3号土坑 完掘状況 (南→) 111

54	4号土坑 完掘状況（南→）	111	87	平成24年5月27日 現地説明会 開催（南→）	122
55	5号土坑 堆積状況（南→）	111	88	平成24年5月27日 現地説明会 開催（南→）	122
56	5号土坑 完掘状況（西→）	111	89	出土遺物	123
57	6号土坑 堆積状況（東→）	111	90	出土遺物	123
58	9号土坑 堆積状況（南→）	111	91	出土遺物	124
59	本調査区（C区） 遺構完掘状況（東→）	112	92	出土遺物	124
60	本調査区（C区） 遺構完掘状況（南→）	112	93	出土遺物	125
61	本調査区（C区） 遺構完掘状況（南→）	113	94	出土遺物	125
62	本調査区（C区） 遺構完掘状況（東→）	113	95	出土遺物	126
63	内容確認調査区（B区） 遺構検出状況（南→）	114	96	出土遺物	126
64	内容確認調査区（B区） 遺構検出状況（北→）	114	97	出土遺物	127
65	内容確認調査区（B区）北部 遺構検出状況（西→）	115	98	出土遺物	127
66	内容確認調査区（B区）北部 遺構検出状況（西→）	115	99	出土遺物	128
67	内容確認調査区（B区） 遺構検出状況（北→）	116	100	出土遺物	128
68	内容確認調査区（B区）B1号～B4号・B6号 竪穴住居跡 検出状況（北→）	116	101	出土遺物	129
69	内容確認調査区（B区） B1号～B3号 竪穴住居跡 検出状況（西→）	117	102	出土遺物	129
70	B3号竪穴住居跡 検出状況（東→）	117	103	出土遺物	130
71	B1号竪穴住居跡 石囲炉 検出状況（北→）	117	104	出土遺物	130
72	B6号竪穴住居跡 検出状況（西→）	117	105	出土遺物	131
73	B6号竪穴住居跡 石囲炉 検出状況（東→）	117	106	出土遺物	131
74	B4号竪穴住居跡 検出状況（東→）	118	107	出土遺物	132
75	B4号竪穴住居跡 縄文土器出土状況（南→）	118	108	出土遺物	132
76	B4号竪穴住居跡 石囲炉検出状況（北東→）	119	109	出土遺物	133
77	B4号竪穴住居跡 石囲炉検出状況（南→）	119	110	出土遺物	133
78	B7号竪穴住居跡 石囲炉検出状況（南→）	120			
79	内容確認調査区（B区） 6トレンチ掘り下げ 状況（東→）	120			
80	B区 6トレンチ堆積状況（南→）	120			
81	B区 6トレンチ堆積状況（南東→）	120			
82	内容確認調査区（B区） 埋め戻し状況（北→）	121			
83	A区 1トレンチ掘り下げ状況（南→）	121			
84	A区 2トレンチ掘り下げ状況（南→）	121			
85	A区 3トレンチ掘り下げ状況（南→）	121			
86	A区 試掘トレンチ掘り下げ状況（南→）	121			

表目次

第1表	赤前I牛子沢遺跡 土器・土製品観察表	88
第2表	赤前I牛子沢遺跡 石器一覧表	90

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

赤前Ⅰ牛子沢遺跡は、岩手県宮古市赤前第3地割に所在し、現況は荒蕪地である。平成23年9月21日に地権者による土地購入に伴い、埋蔵文化財の照会があり、現地を確認の上協議する旨伝えた。その後、平成24年3月13日に現地で工事予定及び建築範囲等の事前協議を行い、平成24年4月2日付で文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘の届出が提出され、平成24年4月2日付教文第2号で岩手県教育委員会に進達している。それを受け岩手県教育委員会では、平成24年4月4日付教生第3-5号で「埋蔵文化財の発掘届出について」通知され、平成24年4月9日付教文第33号で地権者へ伝達している。

試掘調査は平成24年4月6日から開始し、4月13日まで実施した。トレンチによる調査で、竪穴住居跡6棟以上、土坑2基、縄文時代の遺物包含層が検出されたため、平成24年4月13日付教文第58号の試掘調査の結果の中で、本調査が必要である旨の報告を行った。住宅建築により遺構面に到達する範囲については本調査とし、住宅建築範囲の一部と取り付け道路工事の範囲については、掘削が遺構面に到達しないことから、内容確認調査を行うこととした。

平成24年4月16日付教文第59号で本調査の埋蔵文化財計画書を提出し、即日、本調査及び内容確認調査を開始した。調査対象面積約1080㎡の中で、本調査区（C区）は約360㎡、内容確認調査区（A・B区）は約720㎡である。

発掘調査の期間中、発掘調査の成果を地元の方に周知するべく、地権者の了解を得た上で、平成24年5月27日に現地説明会を開催した。当日は午前・午後の2回開催し、合計133人の方が訪れた。この現地説明会は岩手県内の復興調査としては初めての開催であった。ちなみに、本遺跡では復興調査の更なる迅速化を図るために平成24年4月18日・19日、5月24日に奈良文化財研究所等と合同で、三次元デジタル計測・地中レーダー探査の検証実験を行っている。

本調査及び内容確認調査は、平成24年5月31日で終了し、平成24年6月14日付教文第203号で本調査及び内容確認調査の結果について地権者に報告している。

その後、平成24・27年に資料整理を進め、平成30年4月9日から資料整理を再開し、平成31年3月に埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。

第2節 調査体制

<平成24年度 発掘調査>

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 佐々木敏夫

調査総括 竹下将男 宮古市教育委員会文化課長

調査員	高橋憲太郎	〃	文化課副主幹
	八木光則	〃	文化課主査（盛岡市派遣職員）（発掘調査担当）
	鎌田祐二	〃	文化課主査
	加納由美	〃	文化課主任文化財調査員
	布谷義彦	〃	文化課主任文化財調査員
	安原誠	〃	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	〃	文化課主任文化財調査員（発掘調査担当）

江口邦泰	//	文化課埋蔵文化財発掘調査員
阿部豊	//	文化課埋蔵文化財発掘調査員
前川友宏	//	文化課埋蔵文化財調査員
赤沼みちる	//	文化課埋蔵文化財調査員

<平成30年度 資料整理作業>

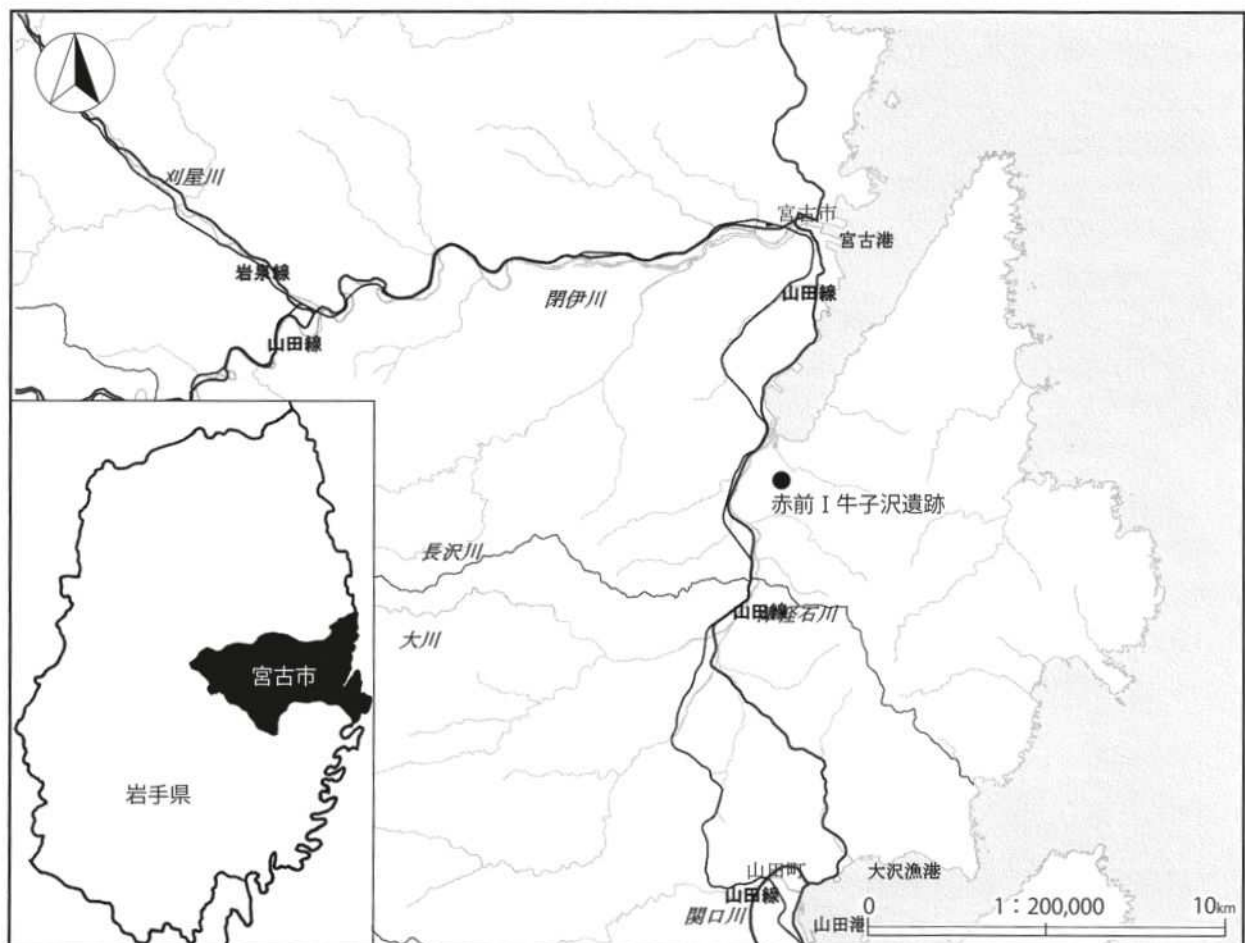
調査主体 宮古市教育委員会 教育長 伊藤晃二

調査総括 高橋憲太郎 宮古市教育委員会文化課長

職員	鎌田祐二	//	文化課埋蔵文化財センター所長
	江口邦泰	//	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	//	文化課主任学芸員（資料整理・報告書作成担当）
	阿部豊	//	文化課埋蔵文化財発掘調査員
	赤沼みちる	//	文化課埋蔵文化財調査員
	鹿島直樹	//	文化課埋蔵文化財発掘調査員

<発掘調査作業員・整理作業員>（50音順）

一関順子 上澤正嗣 上野律子 大下義文 木村常男 木村洋一 坂本晃 崎尾由美子
 佐々木亨 佐藤重信 田中千賀子 鳥居義文 豊島敏男 中屋悦子 野崎秀人 三浦功
 三浦純子 山崎日日雄 山根保行



第1図 赤前I牛子沢遺跡 位置図（1）

第2章 立地と環境

第1節 宮古市の位置と遺跡の環境

岩手県宮古市は岩手県沿岸部のほぼ中央に位置し、西は盛岡市、北は岩泉町、南は花巻市・遠野市・山田町と隣接し、東は太平洋に面している。市域の総面積は約1,259.15km²、人口約56,000人の漁業と観光の都市である。

市域の西側は標高1,917mの早池峰山を最高峰とする北上山地の山々が連なり、一方、東側は太平洋を望み、特に北東方向に突き出す重茂半島の鮎ヶ崎は本州における最東端となっている。三陸復興国立公園に指定されている宮古市の海岸には国指定名勝「浄土ヶ浜」や国指定名勝「崎山の蠟燭岩」「崎山の潮吹穴」などがあり、岩手県随一の景勝地が点在している。また西側の山間部は早池峰国立公園に指定されており、国指定特別天然記念物「早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落」や国指定天然記念物「アカエゾマツの自生南限地」など、自然豊かな景観をみることができる。

赤前Ⅰ牛子沢遺跡は岩手県宮古市赤前第3地割地内に所在し、南西方向に内湾する宮古湾の最奥部に位置している。今回の調査地点は、西面する丘陵裾部に立地し、標高は約16mである。後世の土地利用により段状の地形が形成されていたが、試掘調査の結果、埋蔵文化財の残存が確認された。ちなみに、東日本大震災の大津波は当該地の西側を通る道路まで到達しているが、赤前Ⅰ牛子沢遺跡の分布範囲内の浸水はみられなかった。

第2節 周辺の遺跡

赤前Ⅰ牛子沢遺跡の立地する赤前地区には多数の遺跡が分布している。さらに、現在の住宅地とも重複しているため発掘調査履歴も多く、大きく東日本大震災以前・以後の2つの時期に分けられる。

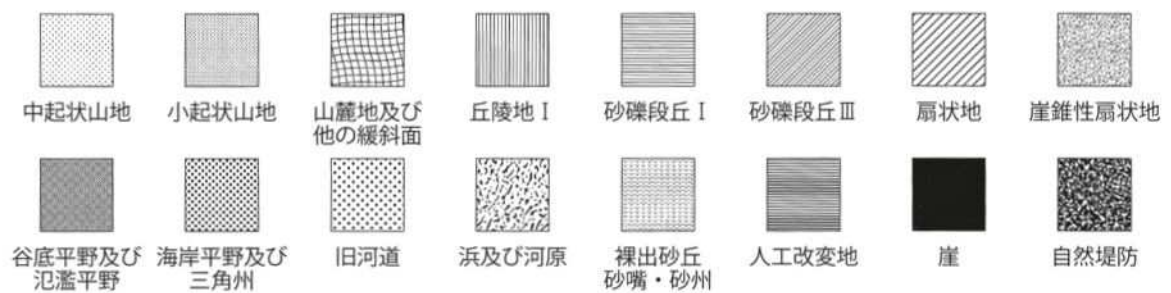
東日本大震災以前の発掘調査では、昭和54年の赤前Ⅲ遺跡の調査がまず挙げられる。赤前小学校の建築に伴う調査で、平安時代後半期の竪穴住居跡が検出されている。平成5～7年には道路建設に伴い小堀内Ⅲ遺跡・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡・赤前Ⅴ柳沢遺跡・赤前Ⅳ八枚田遺跡・赤前Ⅲ遺跡の調査が行われ、縄文時代前期の遺物包含層のほか、古代の竪穴住居跡が多数見つかっている。特に鉄生産に関連する鍛冶炉が数多く発見され、古代（奈良時代・平安時代）の生業の一端がうかがえる。平成4年には赤前Ⅰ牛子沢遺跡の第1次調査が行われ、35基の土壙跡が検出されている。12世紀末～13世紀代の同安窯産の青磁片の他、渥美産と考えられる陶器片が出土していることが特筆される。

東日本大震災以後は、主に被災者の住宅再建や高台移転事業、道路建設事業に伴う大規模な調査が数多く実施された。平成25年に（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターで発掘調査された赤前Ⅲ遺跡では縄文時代前期の「ロングハウス」ともいわれる大型の竪穴住居跡が見つかっている。被災者の住宅再建に伴う赤前Ⅳ八枚田遺跡では、平安時代の竪穴住居跡の埋土中からイソシジミ・イガイなどの貝殻が集中する地点が確認された。同じく被災者の住宅再建に伴う赤前Ⅴ柳沢遺跡の調査では平安時代の竪穴住居跡から墨書土器が出土している。

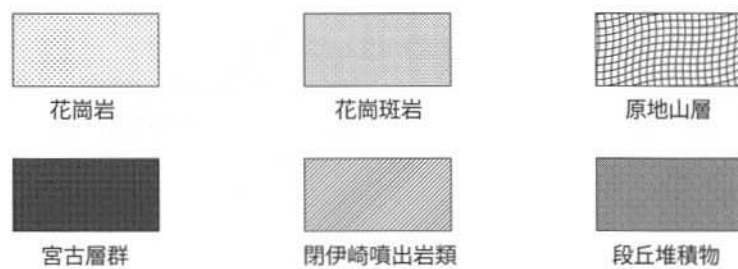
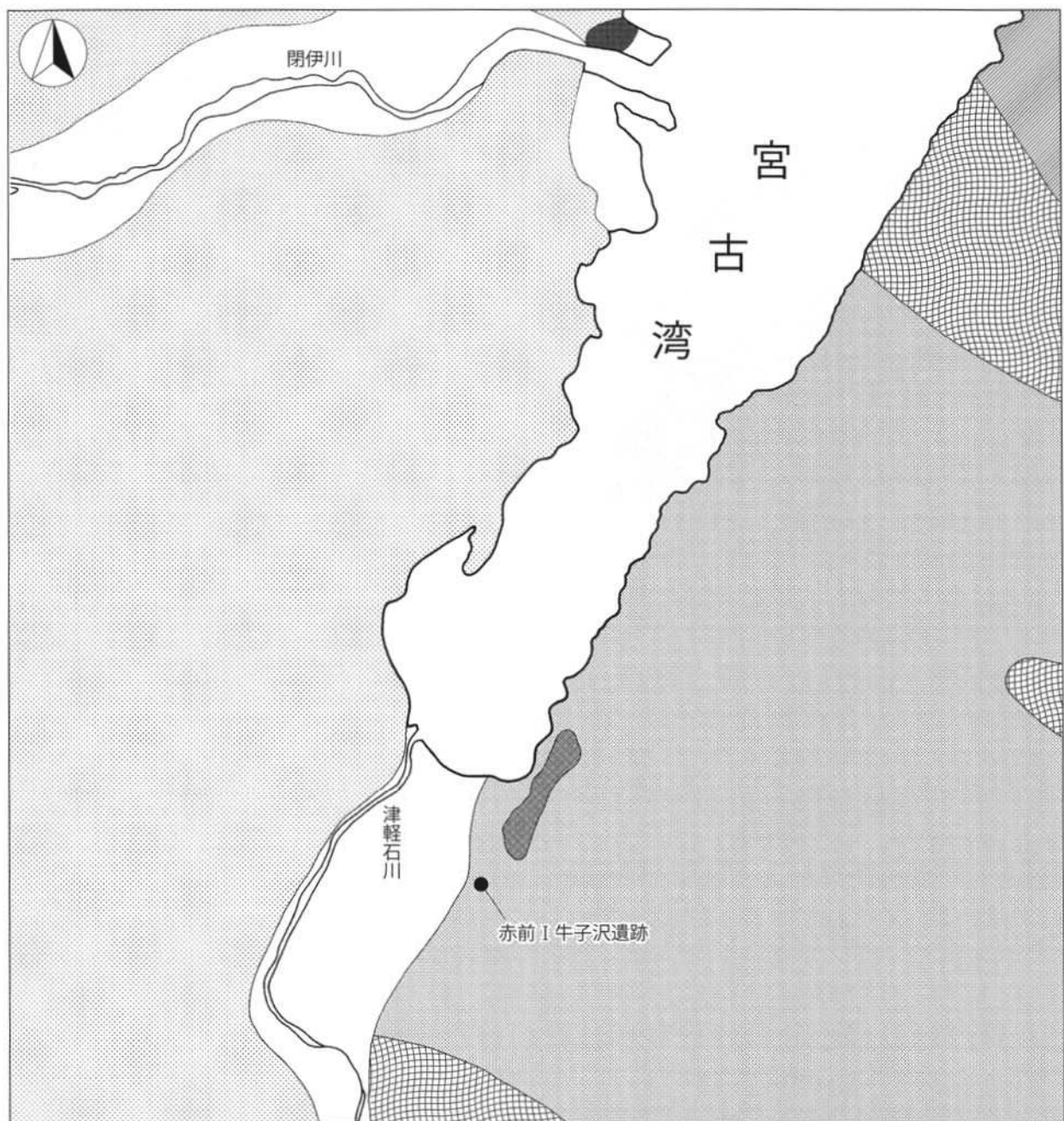
赤前地区は、津軽石川の河口を望む丘陵地に位置しているため、津軽石川を挟んで西側の津軽石地区と同様、縄文時代以降の人々の生活には適した環境を有していたと考えられている。



0 1 : 25,000 1km



第2図 地形分類図



第3図 地質図



番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	赤前Ⅰ牛子沢遺跡	縄文	17	山崎館	中世
2	久保田遺跡	縄文・古代	18	沼里館	中世
3	藤畑遺跡	縄文・古代	19	沼里遺跡	縄文・奈良
4	小堀内Ⅰ遺跡	縄文・弥生・奈良	20	根井沢穴田Ⅰ遺跡	縄文・古代
5	小堀内Ⅱ遺跡	縄文	21	根井沢穴田Ⅱ遺跡	縄文
6	小堀内Ⅲ遺跡	縄文・奈良	22	根井沢穴田Ⅲ遺跡	縄文
7	赤前Ⅵ釜屋ヶ沢遺跡	縄文・古代	23	根井沢穴田Ⅳ遺跡	縄文
8	赤前Ⅴ柳沢遺跡	縄文・古代	24	根井沢穴田Ⅴ遺跡	縄文
9	赤前Ⅳ八枚田遺跡	縄文・平安	25	根井沢日影Ⅰ遺跡	縄文
10	赤前Ⅲ遺跡	縄文・平安	26	根井沢日影Ⅱ遺跡	縄文
11	赤前館	中世	27	高平館	中世
12	金浜Ⅳ遺跡	縄文	28	弘川館	中世
13	金浜Ⅴ遺跡	縄文	29	弘川Ⅰ遺跡	縄文・奈良
14	馬越Ⅰ遺跡	縄文・古代	30	弘川Ⅱ遺跡	縄文・古代
15	馬越Ⅱ遺跡	古代	31	弘川Ⅲ遺跡	縄文・古代
16	津軽石大森遺跡	縄文	32	荷竹日向Ⅰ遺跡	縄文・古代

第4図 周辺の遺跡分布図

け

20

2

于是



本報告書に掲載されている遺物は、整理作業の中で設定した基準に基づき選別したものである。その選別の基準は以下のとおりである。

a. 土器・土製品類

土器の総数は、11,269点を測る。その中で、①口縁部や底部が良好に残存しているもの、②概ね破片の大きさが5 cm以上のもの、③時期決定できる特徴的な文様をもつものを抽出し、図化した。図化した遺物は計88点である。

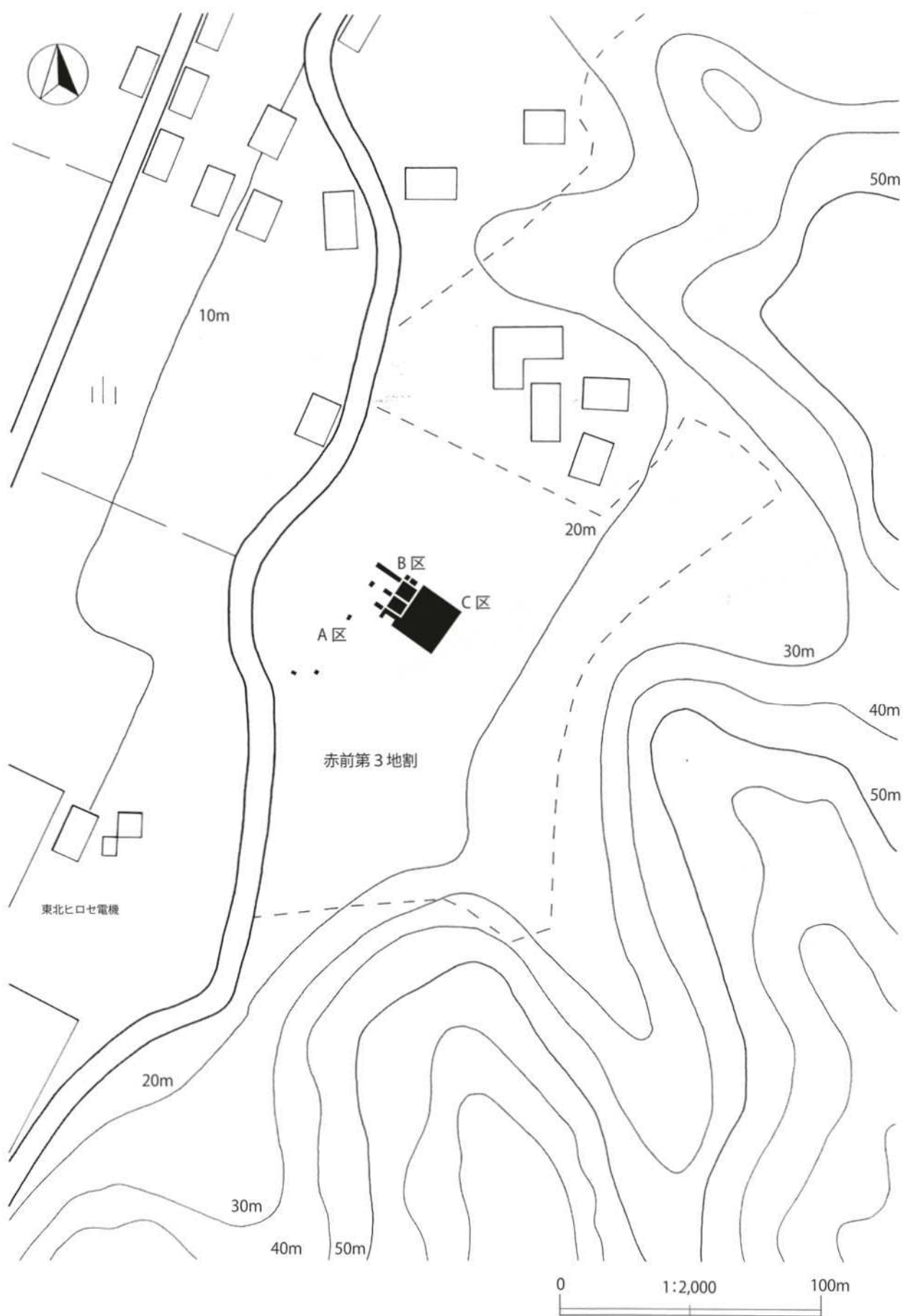
b. 石器類

石器類は71点、重量37,711 g 出土し、全点について図化した。

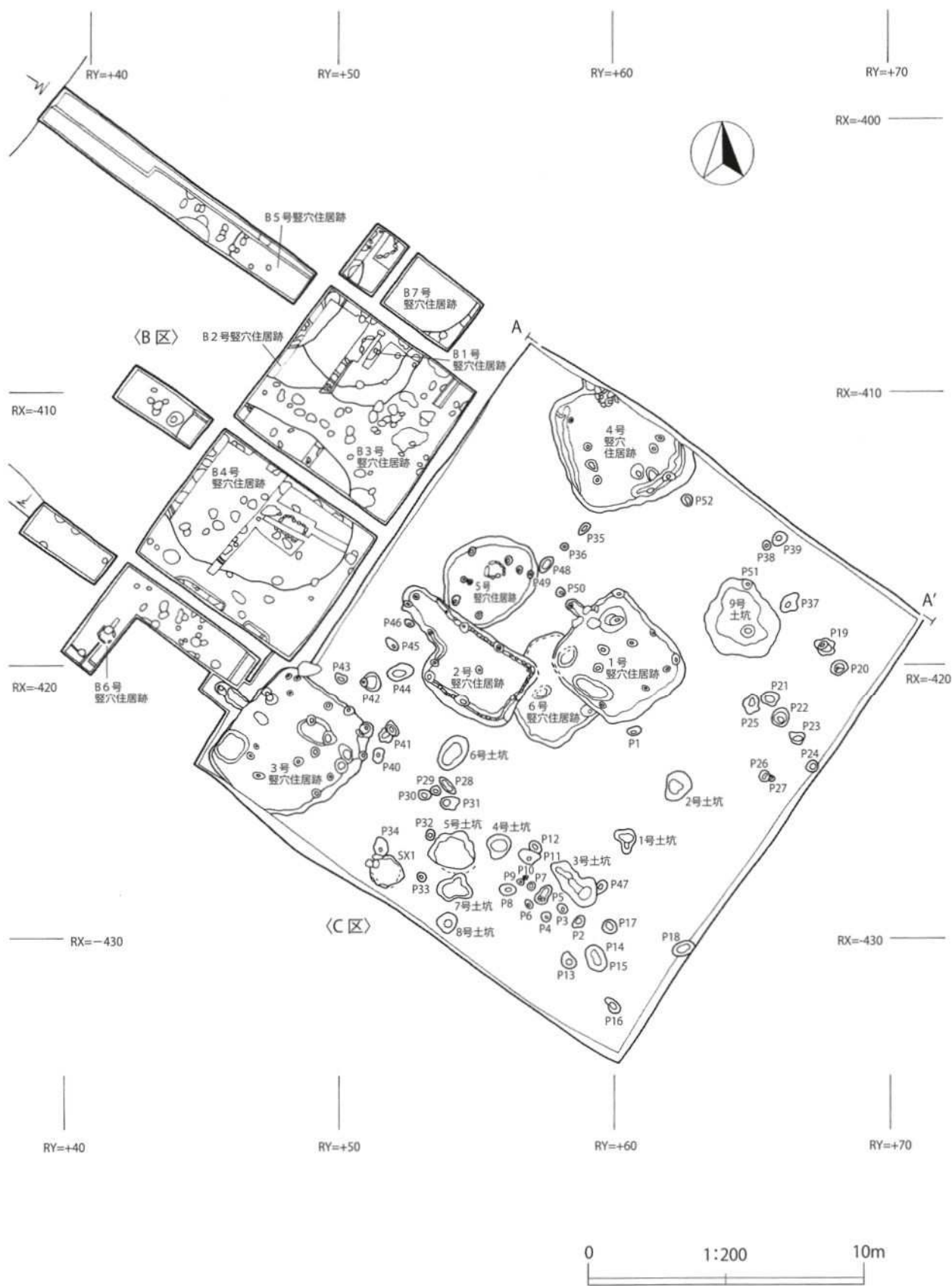
調査経過

平成24年

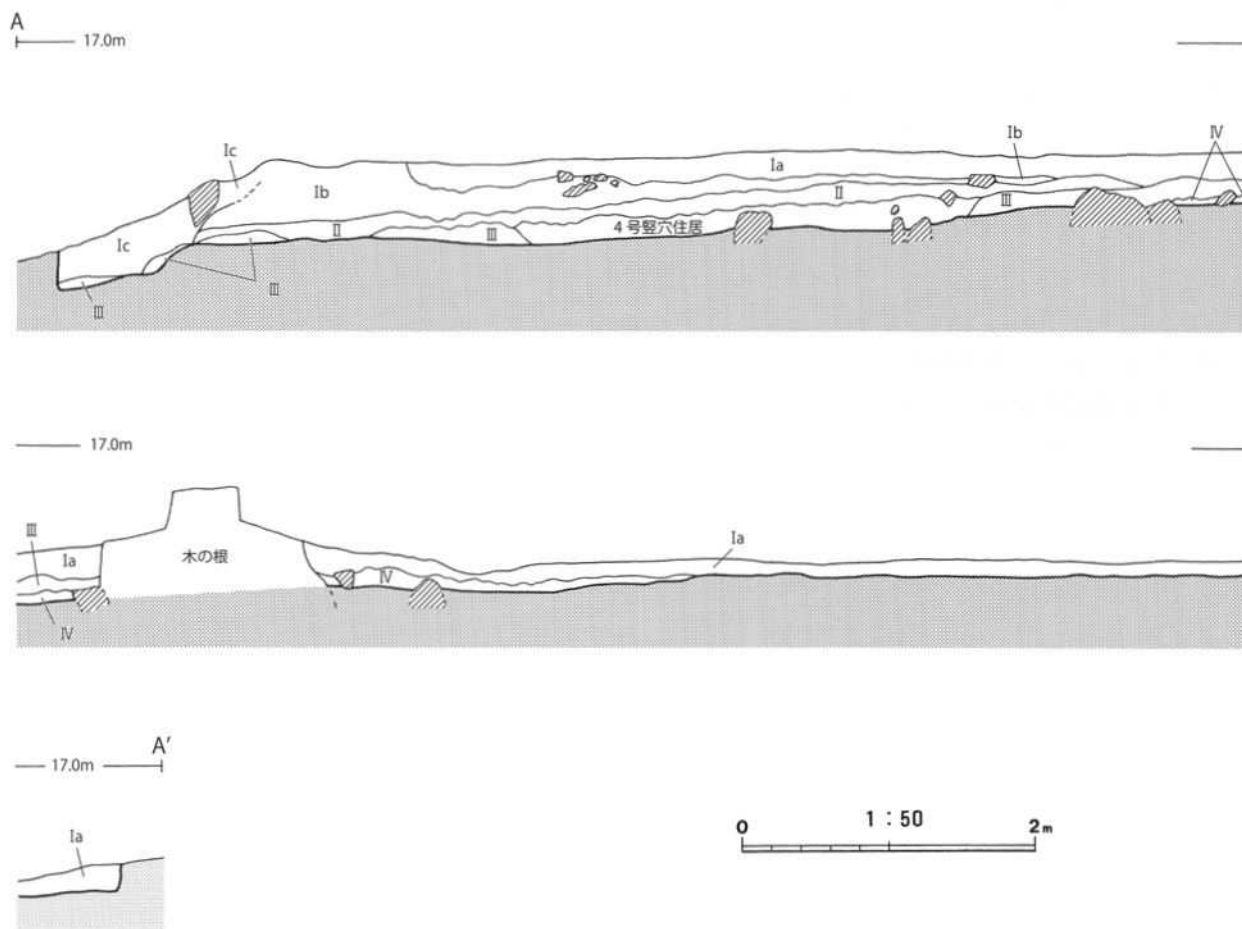
- 4月6日 調査範囲の確認と調査前現況の写真撮影を行った。試掘トレンチを設定し、一部掘り下げを行った。
- 4月10日 試掘トレンチ内において、遺構のプランを検出した。縄文土器が出土。
- 4月13日 試掘調査終了。レベル移動など本調査に向けて事前準備を行った。
- 4月16日 本調査及び内容確認調査開始。重機で本調査区（C区）内の表土剥ぎを行い、順次遺構検出を行った。
- 4月18日 奈良文化財研究所金田氏・（株）ラング・（有）三井考測による地中レーダー探査実験を行った。
- 4月19日 地中レーダー探査実験及び3Dデジタル計測を行った。
- 4月20日 1号竪穴住居跡の精査を開始した。本調査区（C区）北壁の断面図を作成した。
- 4月24日 内容確認調査区（B区）の遺構検出面で遺構の詳細を確認した。
- 4月25日 内容確認調査区（B区）のB4号竪穴住居跡の中央部にサブトレンチを設定し、遺構の堆積土や床面、遺物出土状況などを確認した。
- 4月26日 ピット・土坑の断面図を作成した。
- 5月1日 1号竪穴住居跡のカマド断面図を作成した。
- 5月2日 4号竪穴住居跡の精査を進め、礫の集中部分を検出した。
- 5月8日 2号竪穴住居跡の壁柱穴を検出し、断面図を作成した。内容確認調査区（B区）のB6号竪穴住居跡の石囲炉の検出及び精査を行った。
- 5月10日 1号～3号竪穴住居跡の平面図を作成した。
- 5月15日 2号竪穴住居跡の完掘状況写真を撮影した。
- 5月18日 内容確認調査区（A区）の堆積状況を確認し、断面図を作成した。
- 5月24日 奈良文化財研究所金田氏・（株）ラング・（有）三井考測、来跡。
- 5月25日 調査区全体図・グリッド図を作成した。また、調査区全体の写真撮影を行った。朝日新聞取材対応。読売新聞電話取材対応。
- 5月27日 現地説明会を開催した。午前・午後の2回行い、計133人の参加者があった。NHK取材対応。
- 5月29日 1号・4号竪穴住居跡のカマド及び石囲炉の断ち割りを行った。
- 5月31日 5号竪穴住居跡平面図を作成した。機材を撤収し、全ての調査を終了した。



第6図 調査区周辺地形図



第7図 調査区全体図



C区 基本土層 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
盛土層	I a 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり 盛土層、縄文土器含まれる
	I b 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/2 黒褐色埴壤土10%塊状 10YR4/4 褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり 盛土層、地山土ブロック状、礫
	I c 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり 盛土層、径30cm以上の礫
	II 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/2 黒褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり やや灰色を呈する、盛土層
堆積土	III 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土1%塊状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
地山 漸移層	IV 10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土10%塊状	硬質、粘性あり 地山漸移層、やや褐色を呈する

第8図 本調査区（C区）基本土層図

第2節 基本層序

調査区内堆積土の土層観察は、本調査区（C区）の北端壁において実施した。内容確認調査区（B区）においては地山まで掘り込んでいない箇所もあるため、ここでは本調査区（C区）の北端壁の堆積状況について記載し、基本層序としたい。

I a層・I b層・I c層：I a層は調査区全域に堆積している。I b層及びI c層は調査区西側においてのみ確認している。黒褐色を呈する現代の盛土層であるが、縄文土器が混入している。

II層：I a・b・c層と同様に盛土層である。調査区西側においては、この層の下面で竪穴住居跡などの遺構を検出している。

III層：調査区西側にのみ堆積している黒色を呈する堆積土で、4号竪穴住居跡はIII層を掘り込んで構築しているため、奈良時代以前の堆積層である。

IV層：調査区北端など一部のみ堆積し、黒褐色を呈する。地山漸移層と思われる。III層・IV層が堆積していない範囲内は地山面において遺構を検出している。

第4章 検出された遺構と遺物（本調査区：C区）

本調査区（C区）は、個人住宅建築に伴い遺構面まで掘削が及ぶ範囲について実施し、調査面積は約360㎡である。調査の結果、竪穴住居跡が6棟（縄文時代中期2棟、奈良時代3棟、中世1棟）、土坑9基、ピット（P）52基、不明遺構（SX）1基が検出され、縄文土器・石器・土師器・砥石等が出土している。

第1節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は本調査区の北壁から中央部及び南壁周辺において検出されており、中央部の4棟（1・2・5・6号竪穴住居跡）に重複関係がみられた。一方、北壁と南壁で確認された竪穴住居跡（3・4号竪穴住居跡）は一部が調査区外に延びており、全てを精査していない。前述のとおり、これらの竪穴住居跡は、形態や出土土器などから大きく縄文時代中期（2棟）・奈良時代（3棟）・中世（1棟）に分けることができ、継続して営まれた集落ではないが、各時代において居住域として利用されていたことがうかがえる。

1号竪穴住居跡（第9～15図、写真図版7～13、89・105・107・108）

1号竪穴住居跡は本調査区の中央部で検出され、遺構検出面は地山面である。6号竪穴住居跡と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形はやや隅丸を呈する正方形で、南西壁の立ち上がりは約15cm、北東壁の立ち上がりは約30cmを測る。規模は東西4.1m、南北3.9mを測り、北西壁中央部にはカマドが構築されている。

堆積土は6層に分けられる。表土が薄いこともあり、部分的に現代の攪乱を受けている。4層～6層中には地山ブロックが混入しているのが特徴である。

カマドは北西壁の中央部よりやや北に寄った部分に構築され、煙道・燃焼部を通る中軸線は北から西へ45度振れている。カマド袖を構築するための大型の礫も確認されたが、大部分は廃絶時に壊されたと考えられる。また、南東壁周辺から粘土塊の広がりや2箇所を確認された。

ピットは14基確認された。規模には大小があり、規則性もみられず、明確に柱穴と判断できるピットはなかった。

遺物は土師器・須恵器・石器が出土し、土師器・須恵器は3点、石器は6点図示している。第12図1は土師器坏で80%ほど残存している。有段丸底の形態で、口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラミガキで調整されている。第12図2は土師器坏の破片で、有段丸底の形態をもつ。口縁部は横ナデ、体部～底部はヘラミガキで調整されている。第12図3は須恵器で、甕もしくは壺の体部破片と考えられる。

第13図～第15図は石器である。第13図4は石鏃で、両面縁部に丁寧な調整剥離が施されている。第13図5は搔器で、縁辺部の一部に調整剥離がみられる。第14図6は砥石で、4面に擦痕が観察される。第14図7はくぼみ石で1面の中央部に円形のくぼみがみられる。第15図8は鉄床石で1面に鉄器鍛造の作業による被熱の痕跡がみられる。第15図9は磨石で、2面において機能面である磨面が確認される。

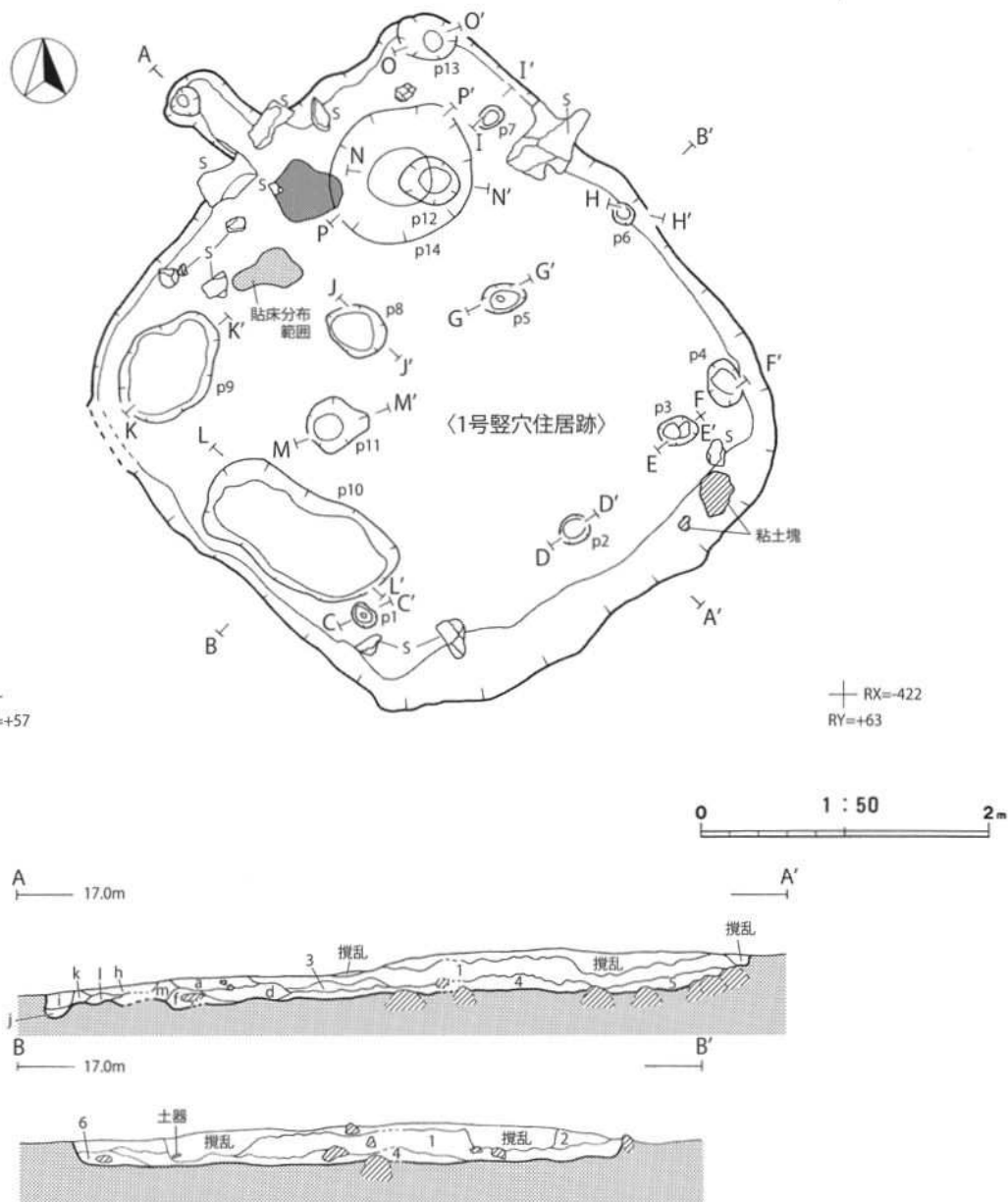
本遺構の所属時期は出土した土師器の形態やカマドなどの構築物から奈良時代、8世紀前半代と考えられる。

RY=+57
RX=-417

RY=+63
RX=-417

RX=-422
RY=+57

RX=-422
RY=+63



1号竖穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10YR2/1 黒色埴埴土	10YR2/2 黒褐色埴埴土10%塊状	硬質、粘性あり 1cm次の層含まれる
2	10YR2/1 黒色埴埴土	10YR2/2 黒褐色埴埴土5%塊状	硬質、粘性あり
3	10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/6 褐色シルト質埴埴土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
4	10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色シルト質埴埴土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山ブロック混入
5	10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/6 褐色シルト質埴埴土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山ブロック混入
6	10YR2/2 黒褐色埴埴土	10YR3/4 暗褐色シルト質埴埴土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 地山ブロック少量

第9図 1号竖穴住居跡 平面図・断面図

2号竪穴住居跡（第16～18図、写真図版14～20、107・108）

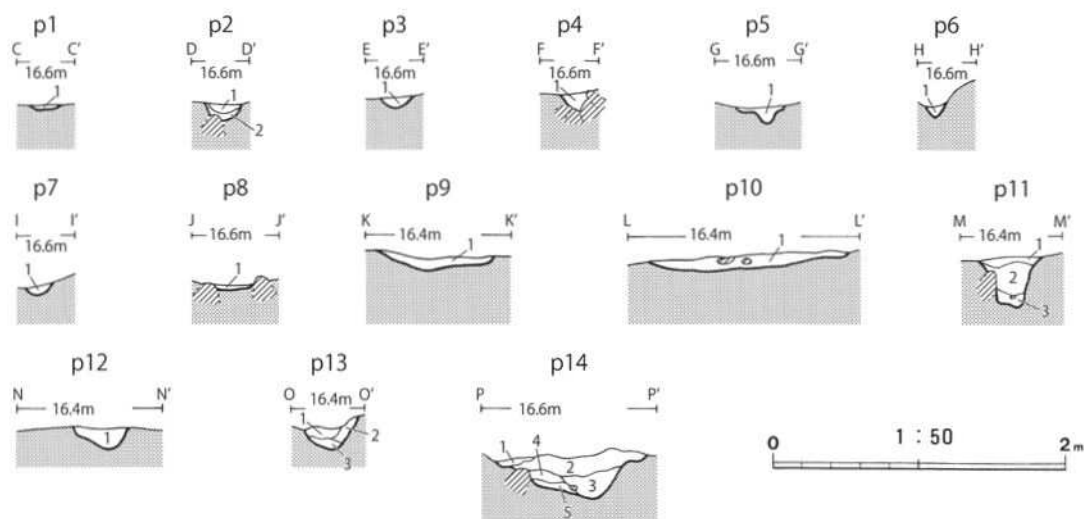
2号竪穴住居跡は調査区中央部で検出され、遺構検出面は地山面である。5号・6号竪穴住居跡と重複し、両遺構よりも新しい。

平面形は長方形を呈し、北西角から延びる長さ約2.2m、幅約1.3mの張り出し部分をもつ。

規模は東西5.6m、南北3.0mを測り、壁の立ち上がりは約20cmと浅く、張り出し部分の壁の立ち上がりは緩やかに立ち上がるが、それ以外は垂直に立ち上がる。長軸方向はN52°Wである。

堆積土は13層に分けられる。埋没に時期差があるためか、張り出し部分周辺の堆積土は長方形を呈する竪穴本体部分と異なっている特徴をもつ。

ピットは10基確認され、規模は径45cm～15cm程度で、深さも40cm～15cmと浅い。壁面の中間点や床面中央部などで検出され、規則性がみられた。この他にも周溝の内部には小ピットが多数確認され、壁柱穴の可能性が高い。

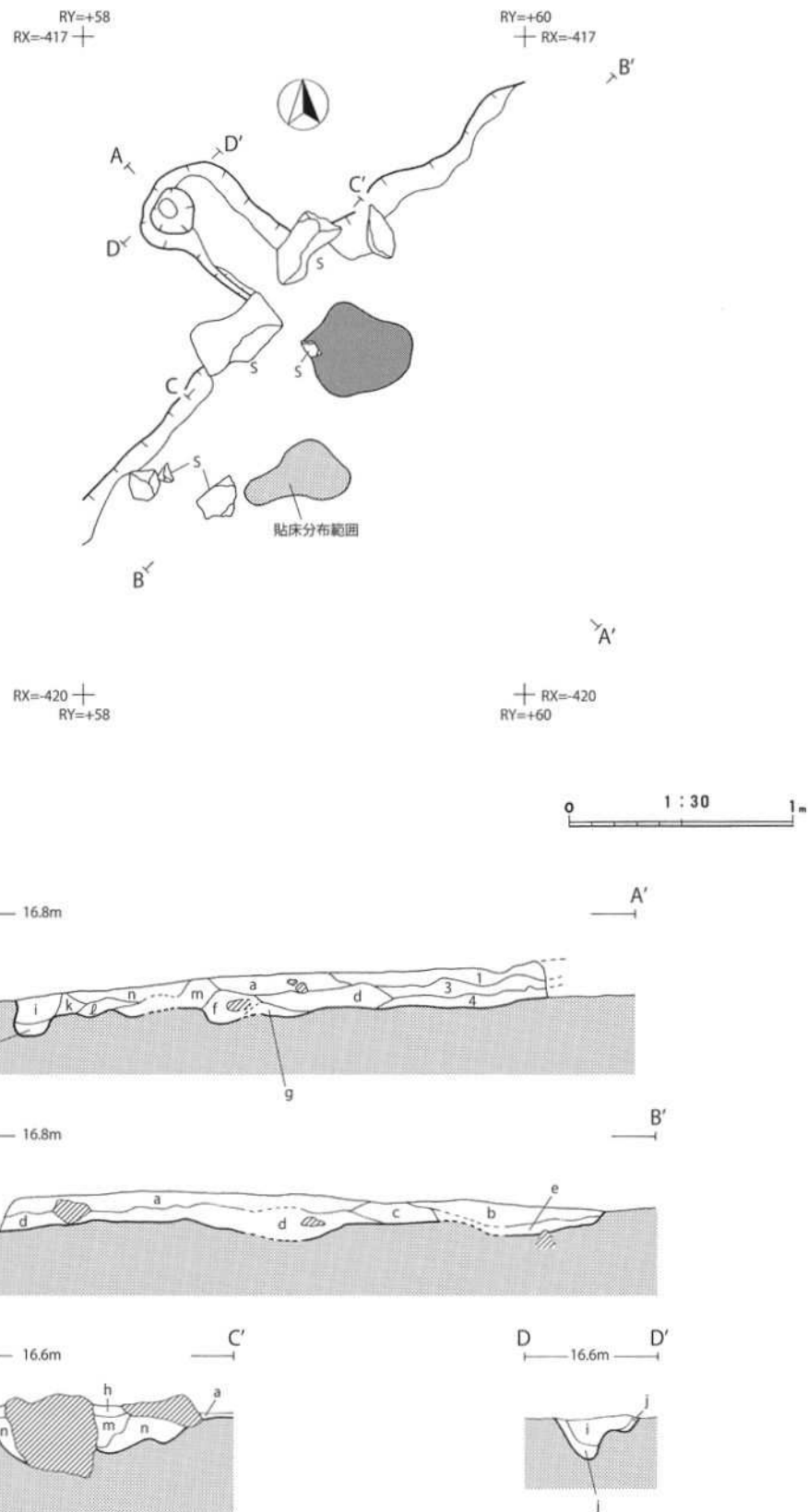


1号竪穴住居跡内ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p2	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR2/4 暗褐色砂礫土5%混状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
	2 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR4/6 褐色砂礫土10%混状	硬質、粘性あり
p3	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p4	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p5	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p6	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p7	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p8	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p9	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p10	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p11	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
	2 10YR4/3 に近い黄褐色砂礫土	10YR2/1 黒色埴土10%混状	硬質、粘性あり
	3 10YR4/4 褐色砂礫土	10YR5/6 黄褐色砂礫土5%混状	硬質、粘性あり

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p12	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR3/3 暗褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
	1 10YR3/2 黒褐色埴土	10YR4/4 褐色砂礫土10%混状	硬質、粘性あり
p13	2 10YR4/3 に近い黄褐色埴土	10YR3/3 暗褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
	3 10YR3/2 黒褐色埴土	10YR5/6 黄褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり
p14	1 10YR4/4 褐色砂礫土	10YR2/2 黒褐色砂礫土20%混状	やや硬質、粘性ややあり
	2 10YR4/6 褐色砂礫土	10YR5/6 黄褐色砂礫土20%混状	やや硬質、粘性ややあり 地山ブロック状に混入
	3 10YR3/2 黒褐色砂礫土	10YR4/4 褐色砂礫土10%混状	やや硬質、粘性ややあり
	4 10YR2/1 黒色埴土	10YR5/6 黄褐色砂礫土20%混状	やや硬質、粘性ややあり 地山ブロック状に混入
	5 10YR4/4 褐色砂礫土	10YR4/4 褐色砂礫土10%混状	やや硬質、粘性ややあり

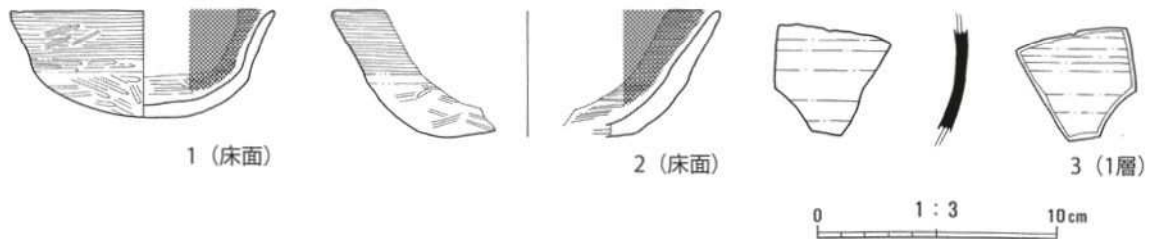
第10図 1号竪穴住居跡 ピット断面図



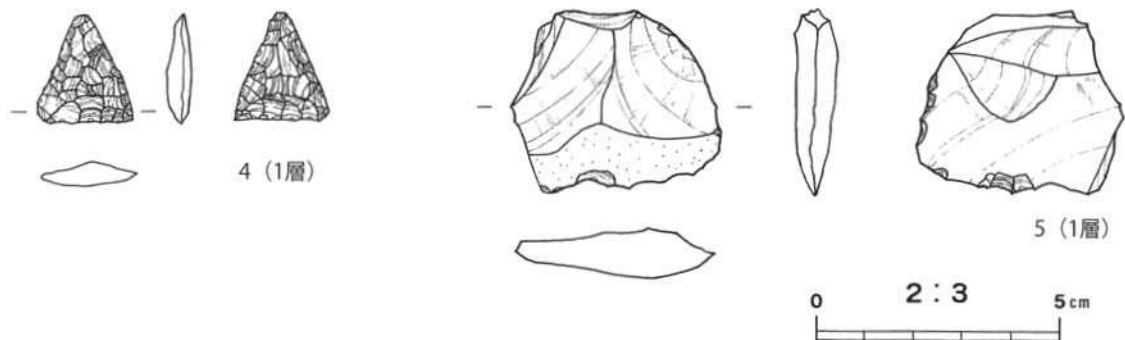
第 11 図 1 号竪穴住居跡 カマド平面図・断面図

1号竪穴住居跡 カマド 土層観察表

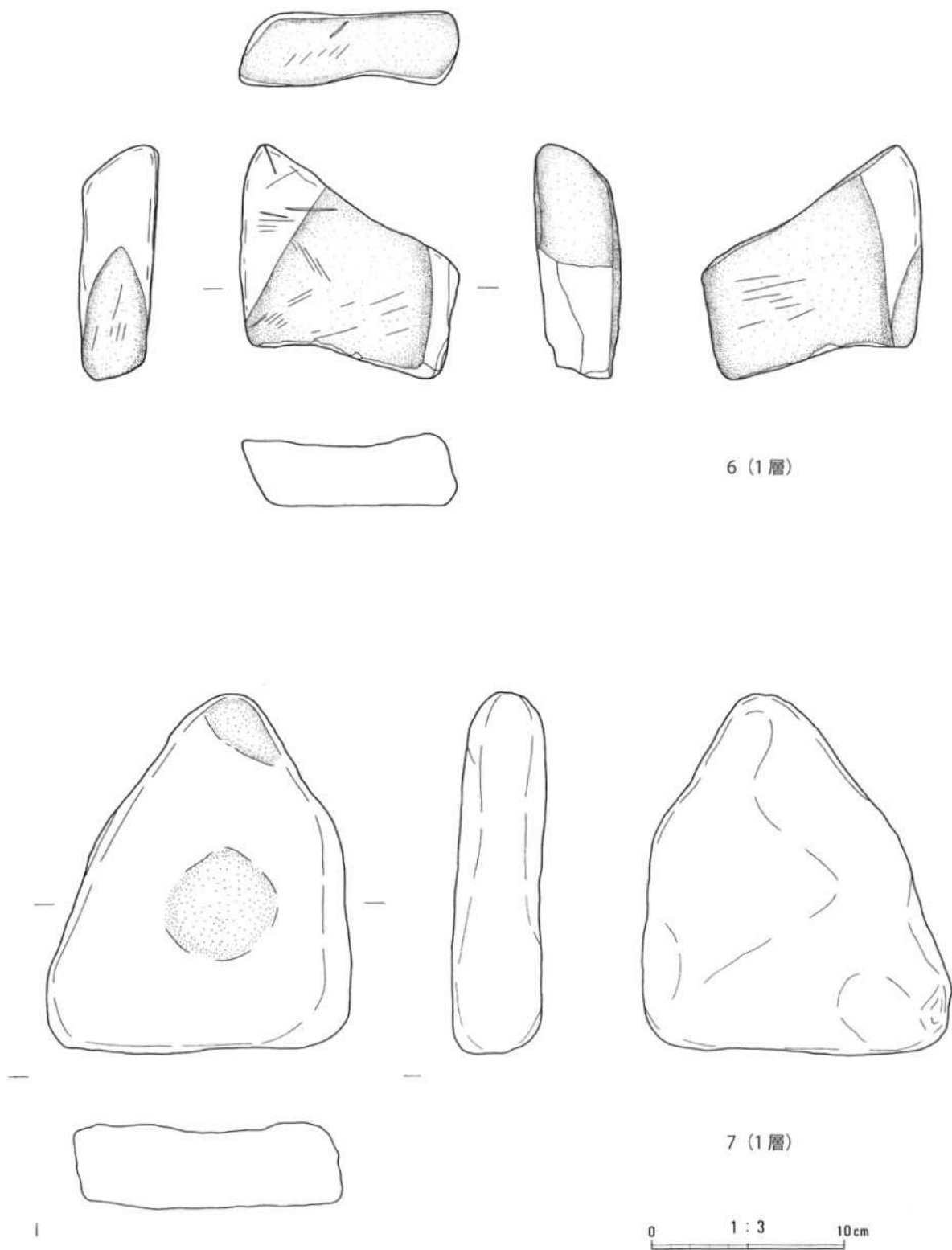
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
カマド 埋土	a 10YR2/1 黒色埴壌土	10YR5/8 黄褐色砂壤土1%塊状	硬質、粘性あり
	b 10YR2/2 黒褐色埴壌土	10YR4/4 褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	c 10YR2/1 黒色埴壌土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり 地山土ブロック多量
	d 10YR2/1 黒色埴壌土	10YR4/4 褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり 地山土ブロック多量
	e 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR3/2 黒褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	f 10YR2/2 黒褐色埴壌土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状 10YR2/1 黒色埴壌土5%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック斑状に含まれる
	g 7.5YR4/6 褐色埴壌土	7.5YR2/2 黒褐色埴壌土20%塊状	硬質、粘性あり 焼土粒多量
	h 10YR2/1 黒色埴壌土	10YR4/4 褐色埴壌土20%塊状	硬質、粘性あり 地山粒少量
	i 10YR2/1 黒色埴壌土	10YR4/6 褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック
	j 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり
	k 10YR2/2 黒褐色埴壌土	10YR4/6 褐色砂壤土40%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック
	l 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色埴壌土30%塊状	硬質、粘性あり 地山粒
	m 10YR2/2 黒褐色埴壌土	7.5YR5/8 明褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 焼土塊少量
	n 10YR3/4 暗褐色埴壌土	10YR4/6 褐色埴壌土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり



第12図 1号竪穴住居跡 出土遺物 (1)



第13図 1号竪穴住居跡 出土遺物 (2)



第 14 図 1 号竖穴住居跡 出土遺物 (3)

遺物は石器3点を図示している。第18図1は磨石で、2面に機能面が確認される。第18図2・3は鉄床石と考えられ、平坦な面の中央には被熱の痕跡がみられた。竪穴住居跡内に鍛冶遺構はみられなかったが、その形態などから鉄床石と判断した。

本遺構は、時期を特定する明確な遺物の出土はなかったが、張り出し部や壁柱穴などの形態から所属時期は大まかに中世と推測される。

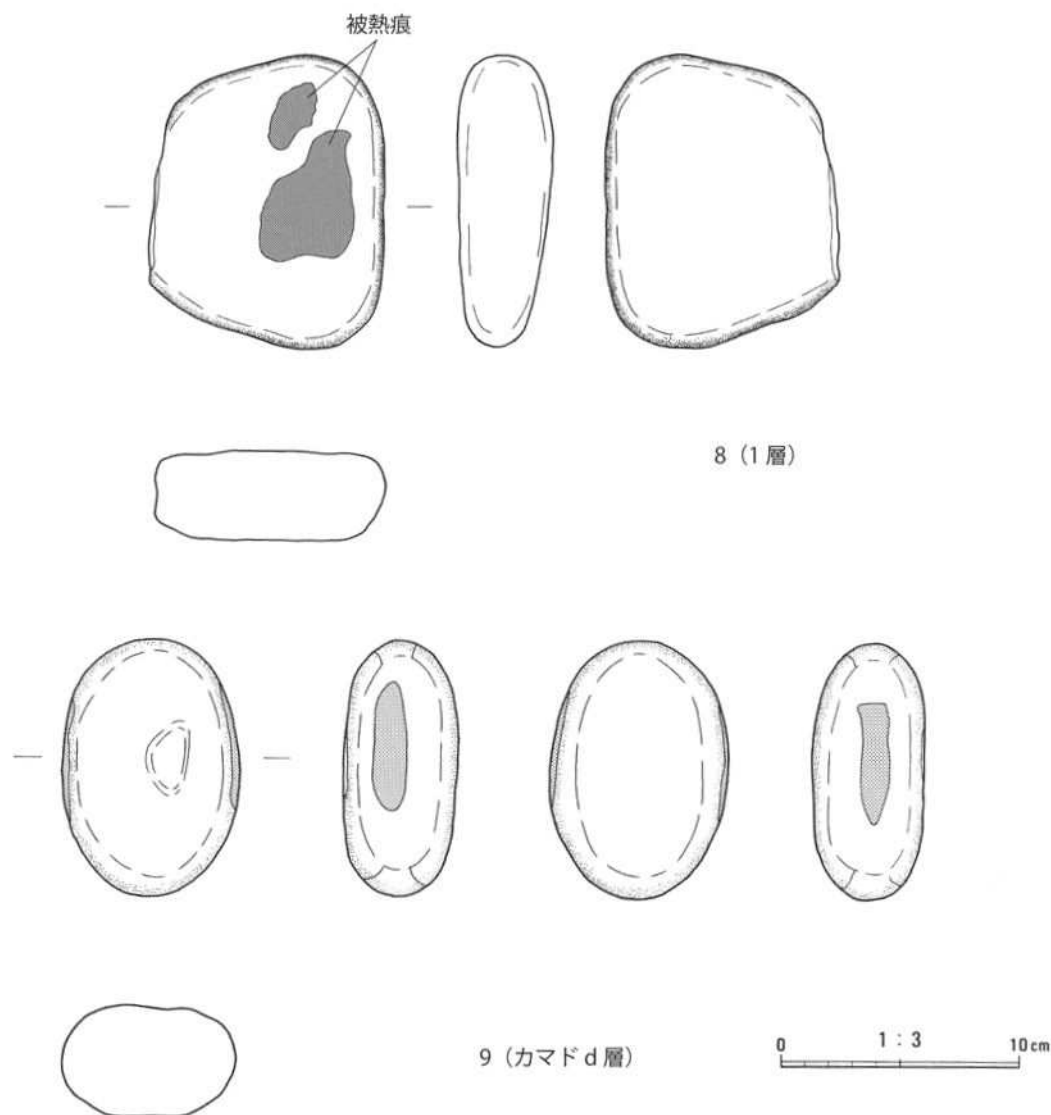
3号竪穴住居跡（第19～22図、写真図版21～27、89・105・106・109）

3号竪穴住居跡は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

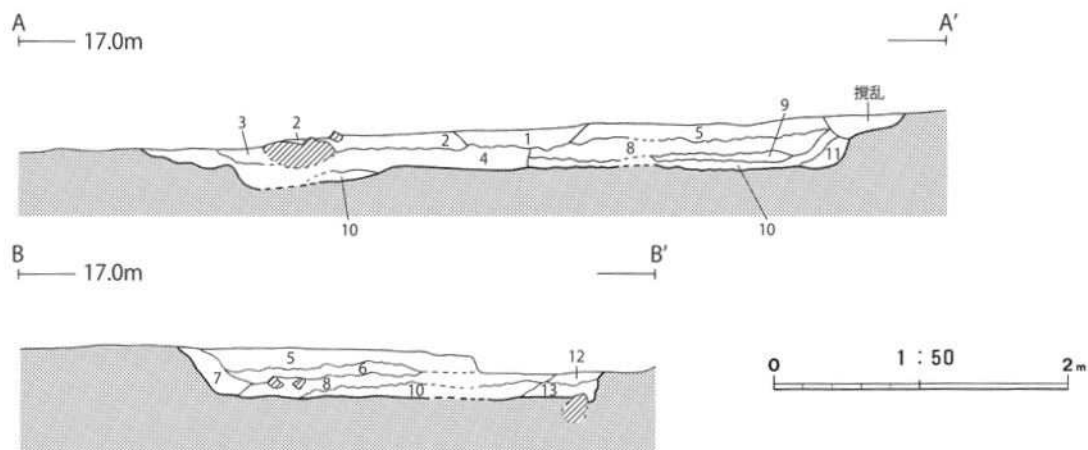
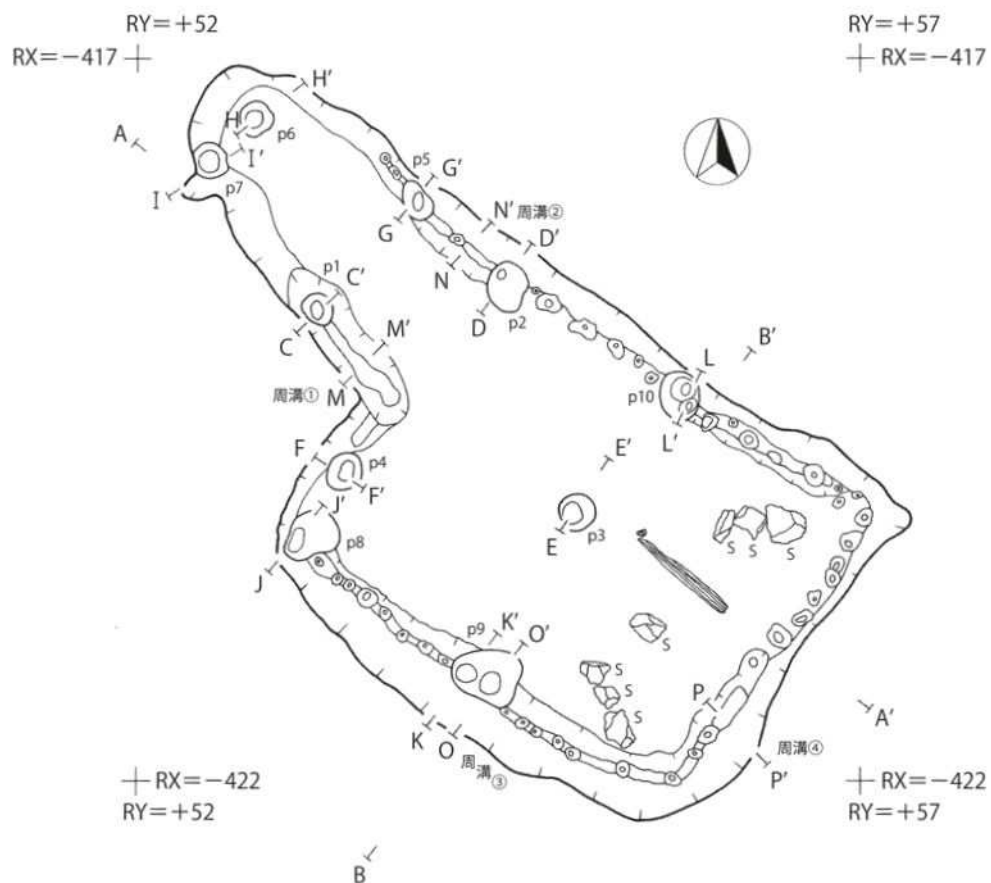
平面形はややいびつな隅丸方形を呈し、西壁にカマドと考えられる煙道・燃烧部が検出されている。

規模は東西4.5m、南北4.7mで、南壁の立ち上がりの一部は調査区外に延びている。堆積土は9層に分けられる。黒色の埴壤土である4層・5層は竪穴住居跡の全域に堆積している。

カマドは西壁の中央部に構築されていたと推測されるが、検出時には煙道の痕跡と燃烧部のみ確認された。長軸方向はN58°Wである。煙道は長さ1.4cmで幅0.6mである。煙道の延長線上に長軸55cm、



第15図 1号竪穴住居跡 出土遺物(4)



2号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR4/4 暗褐色砂土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
2	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/2 黒褐色埴土10%塊状	やや硬質、粘性ややあり 大型の礫含まれる(50cm大)
3	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/2 暗褐色埴土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
4	10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 暗褐色砂土5%塊状	やや硬質、粘性ややあり
5	10YR2/1 黒色埴土	10YR2/2 黒褐色埴土10%塊状	硬質、粘性あり 5cm大の礫
6	10YR2/1 黒色埴土	10YR2/2 暗褐色埴土3%塊状	硬質、粘性あり
7	10YR2/1 黒色埴土	10YR2/2 暗褐色埴土5%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック10%含まれる

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
8	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR5/8 黄褐色砂土10%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック5%含まれる
9	10YR2/1 黒色埴土	10YR2/2 暗褐色埴土5%塊状	硬質、粘性あり 炭化物含まれる
10	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/2 暗褐色埴土20%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック散在
11	10YR2/1 黒色埴土	10YR4/6 暗褐色砂土30%塊状	やや硬質、粘性ややあり
12	10YR2/1 黒色埴土	10YR4/3 にぶい黄褐色埴土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
13	10YR2/1 黒色埴土	10YR2/2 暗褐色埴土20%塊状	やや硬質、粘性ややあり

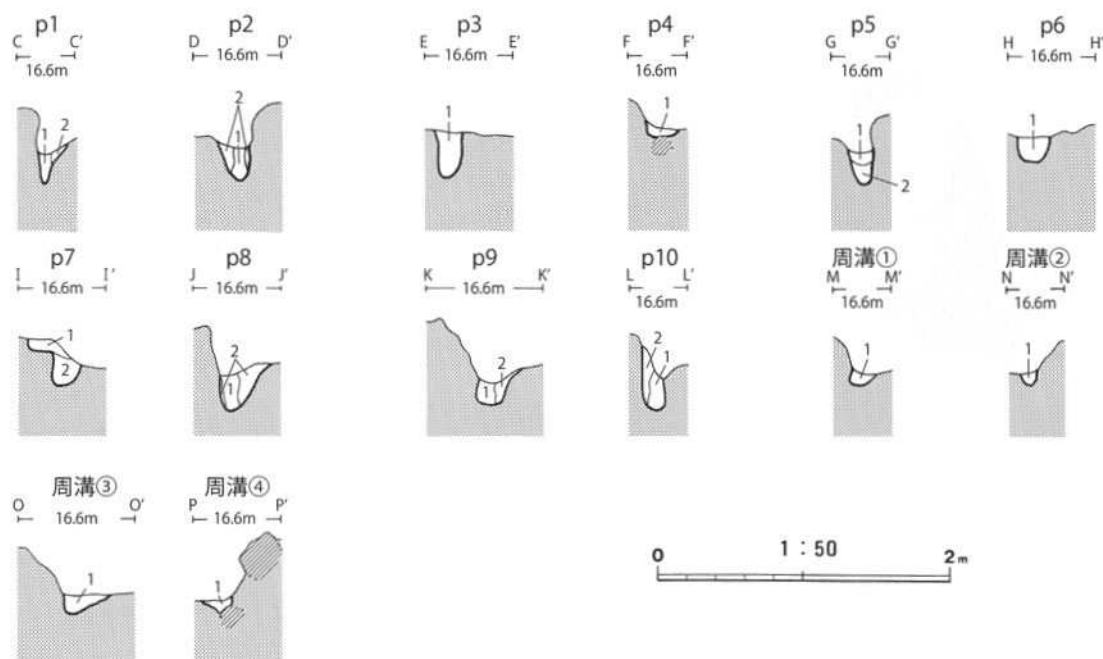
第 16 図 2号竪穴住居跡 平面図・断面図

短軸35cmの楕円形を呈する燃焼部が検出されている。大型の自然礫が周辺から出土しているため、カマドの構築材であった可能性が高く、他の古代竪穴住居と同様、自然礫の組み合わせにより構築されたと考えられる。

ピットは19基確認されている。規模は径1.4m～0.15m、深さは45cm～5cmを測る。規模や深さにはばらつきがあり規則性はみられない。検出段階でピットと焼土を確認している。ピットは断面図のみ図示し、焼土の範囲は平面図に図示したが、竪穴住居の使用時に伴う遺構ではなく廃絶後の遺構と考えられる。

遺物は土師器・石器が出土し、土師器は6点、石器は4点図示している。第21図1は土師器杯の破片で、体部に段をもち、底部はヘラケズリで調整している。内面には黒色処理が施されている。第21図2は土師器杯の破片で、口縁部周辺の一部が残存している。内面は黒色処理されている。第21図3～6は土師器甕の破片で、口縁部は横ナデ、胴部の内外面はハケメ調整が施されている。

第22図7は石鏃である。凹基無茎で、両面に細かい調整剥離がみられる。第22図8・9は叩き石で、1箇所ないし2箇所に叩きの痕跡がみられる。第22図10は円盤状の石器で、加工されていると考えられるが用途は不明である。

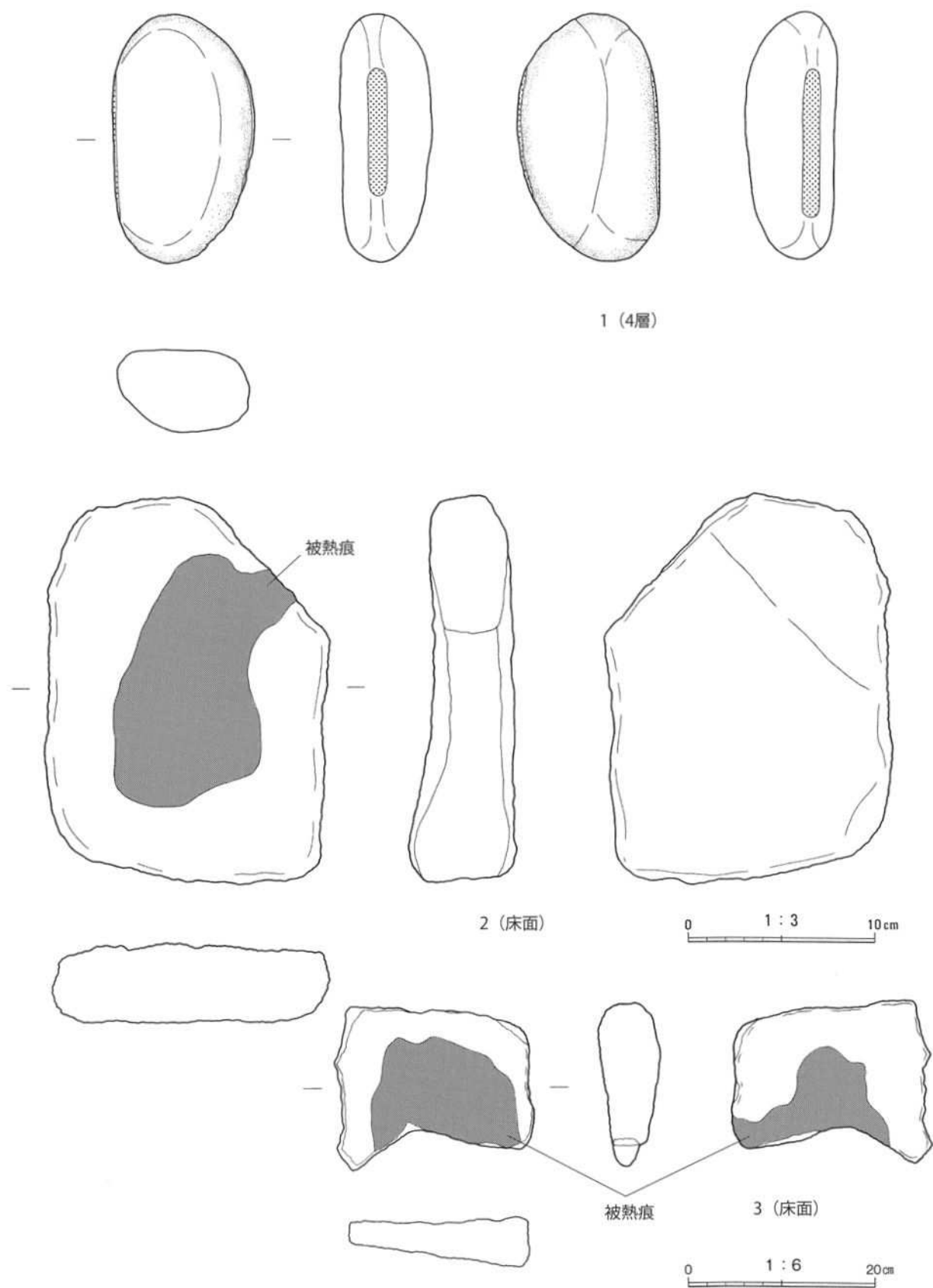


2号竪穴住居跡内ピット・周溝 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
	2 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土30%焼状	硬質、粘性あり
p2	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
	2 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土30%焼状	硬質、粘性あり
p3	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
p4	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
p5	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
	2 10YR2/2 黒褐色埴埴土	10YR4/8 褐色砂埴土10%焼状	硬質、粘性あり
p6	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
p7	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土20%焼状	硬質、粘性あり 地山ブロック
	2 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p8	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
p9	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
	2 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土30%焼状	硬質、粘性あり
p10	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
	2 10YR2/2 黒褐色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土30%焼状	硬質、粘性あり
周溝①	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
周溝②	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
周溝③	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土30%焼状	硬質、粘性あり
周溝④	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%焼状	硬質、粘性あり 黒色を呈する

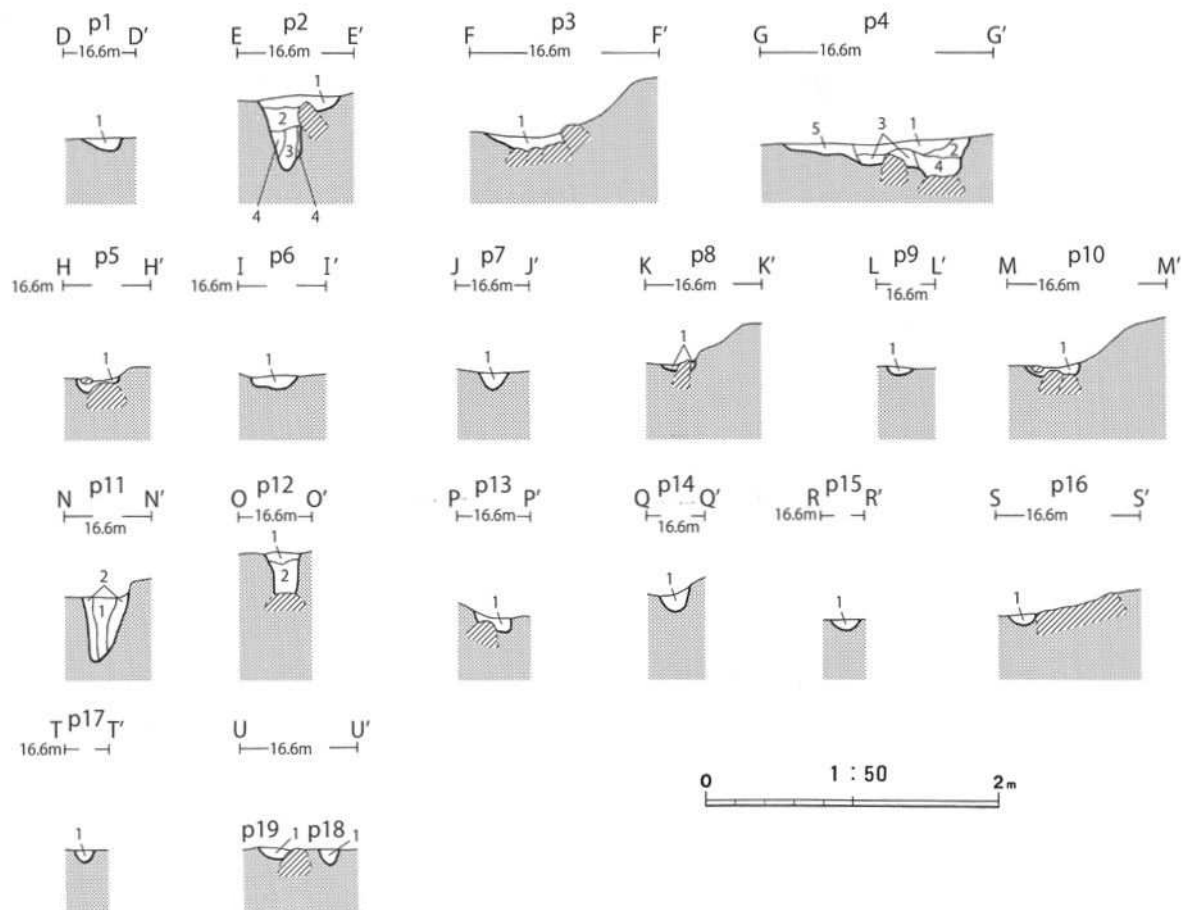
第17図 2号竪穴住居跡 ピット 断面図



第 18 図 2 号竪穴住居跡 出土遺物

3号竖穴住居跡 土層観察表

層名		基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
竖穴埋土	1	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	2	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり 5mm大の小礫
	3	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 1mm大の小礫
	4	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土5%塊状	硬質、粘性あり 2～3mm大の小礫
	5	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	6	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	7	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック塊
	8	10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土20%粒状	硬質、粘性あり
	9	10YR2/1 黒色シルト質埴壤土	10YR3/3 暗褐色シルト質埴壤土5～10%粒状	硬質、粘性あり
検出面 ピット埋土	a1	10YR2/1 黒色シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土30%粒状	硬質、粘性あり
	a2	10YR2/1 黒色シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土40%粒状	硬質、粘性あり
	b1	10YR2/1 黒色シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土20%粒状	硬質、粘性あり
	b2	10YR2/1 黒色シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土30%粒状	硬質、粘性あり
	b3	10YR2/1 黒色シルト質埴壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質埴壤土10%粒状	硬質、粘性あり

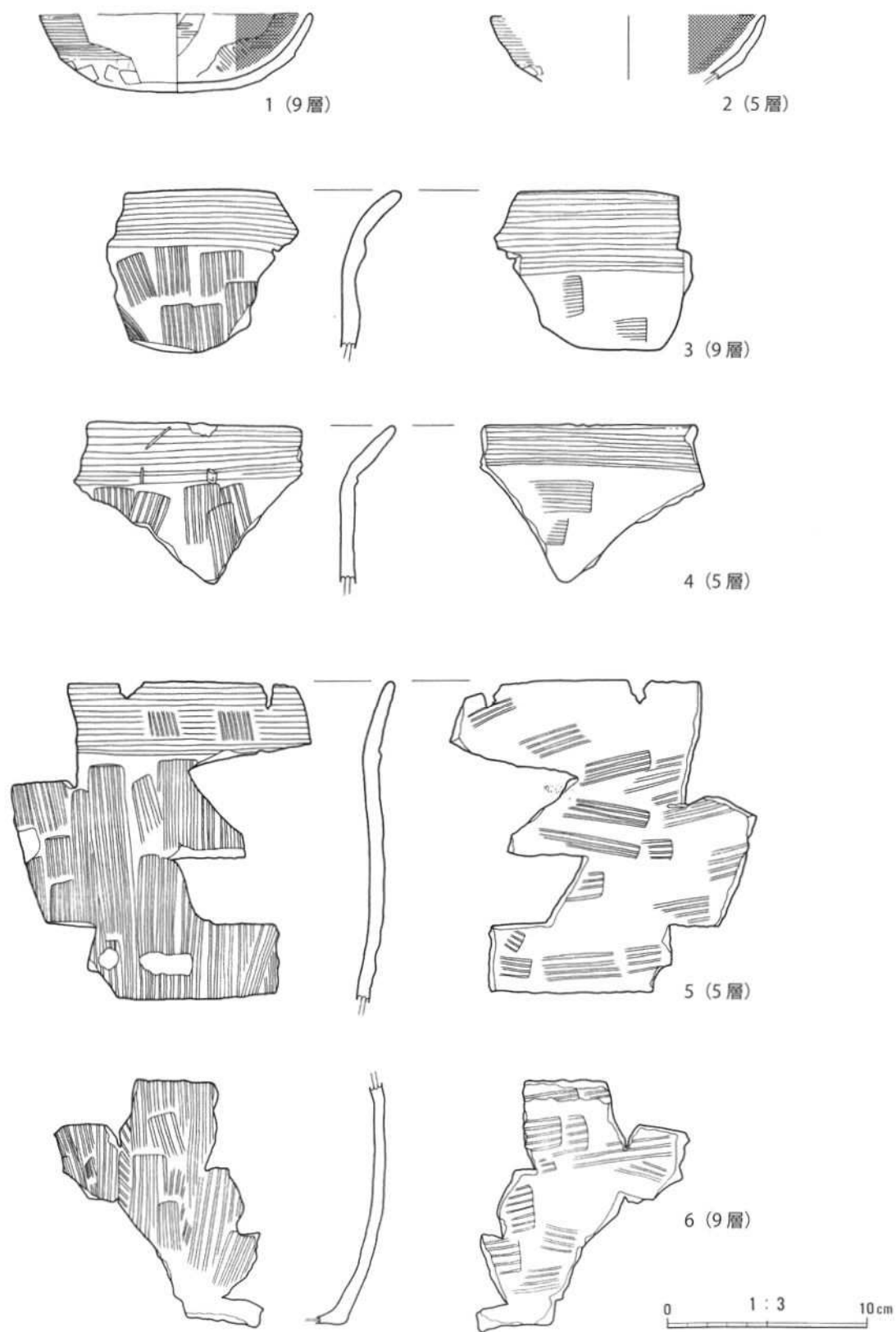


3号竪穴住居跡内ピット 土層観察表

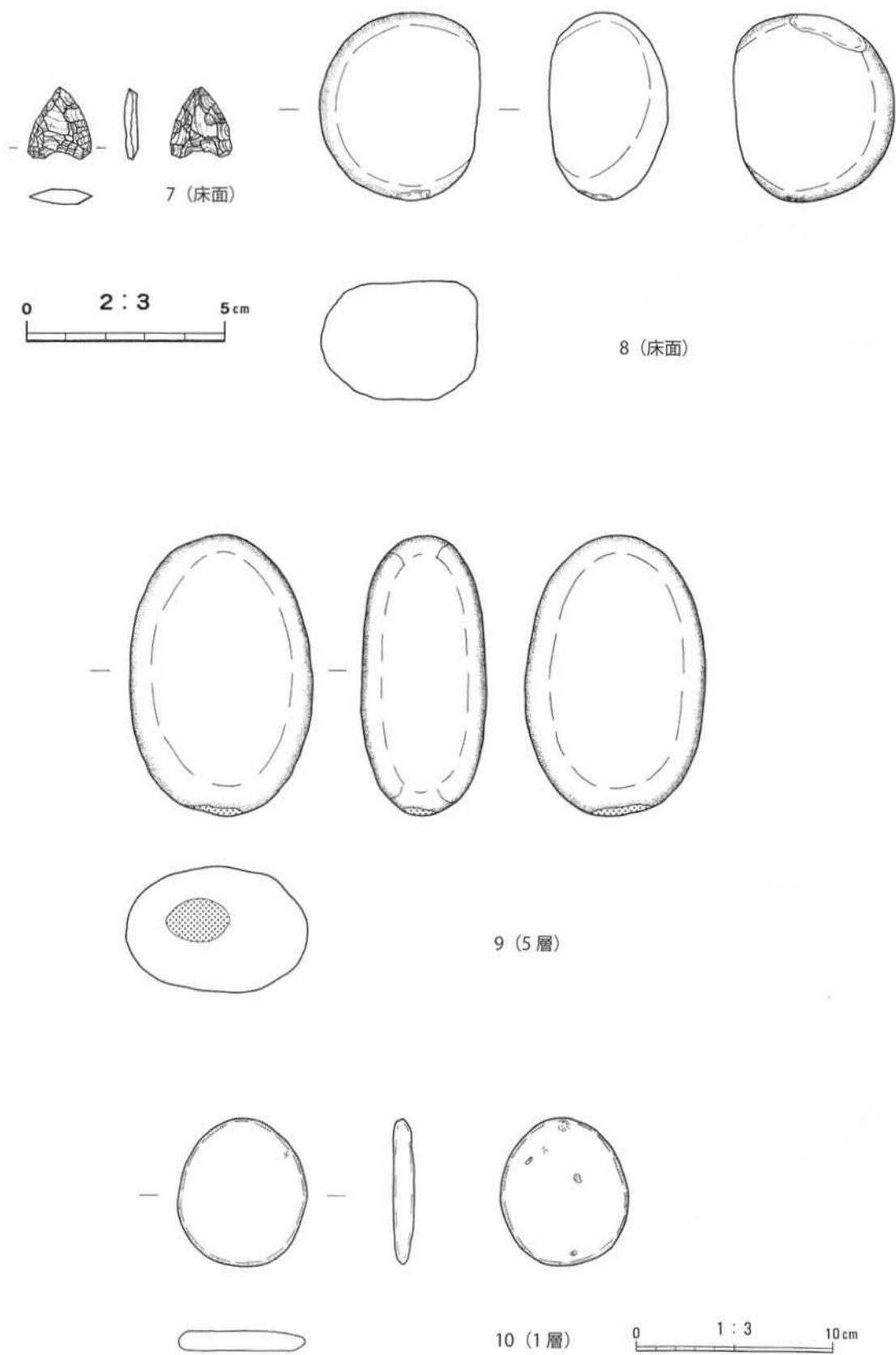
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR4/4 褐色埴壤土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p2	1 10YR4/4 褐色埴壤土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
	3 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 柱状跡あり
	4 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
p3	1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p4	1 10YR4/4 褐色埴壤土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
	3 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
	4 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土5%混状	硬質、粘性あり
	5 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土30%混状	硬質、粘性あり
p5	1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p6	1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p7	1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p8	1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p9	1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p10	1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p11	1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/4 暗褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 柱状跡あり
	2 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p12	1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土20%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土20%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p13	1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土5%混状	硬質、粘性あり
p14	1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/6 褐色砂壤土20%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p15	1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
p16	1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
p17	1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
p18	1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
p19	1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり

第20図 3号竪穴住居跡 ピット 断面図



第 21 図 3号竪穴住居跡 出土遺物 (1)



第 22 図 3 号竖穴住居跡 出土遺物 (2)

本遺構の所属時期は、出土した土師器坏・甕などの遺物の特徴やカマドをもつ形態から奈良時代、8世紀前半代と推測される。

4号竪穴住居跡（第23～28図、写真図版28～41、90・109）

4号竪穴住居跡は調査区北部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は隅丸方形を呈し、北壁・東壁の一部は調査区外に延びている。規模は東西4.6m、南北4.6mを測り、西壁と東壁から南壁にかけて周溝が確認されている。カマドは北壁の中央部で検出している。

堆積土は8層に分けられる。黒色の埴埴土である3層の段階で、自然礫が大量に出土しており、人為的な堆積により埋められていく過程で、竪穴住居跡のくぼみに礫を投げ込むという行為が確認された。さらに、床面直上層である5層中からは炭化材が多量に出土している。壁際から出土した炭化材の出土状況から部材である垂木と推測され、本遺構は焼失した可能性が高い。

ピットは9基確認され、規模は径70cm～15cm、深さは20cm～5cmとばらつきがみられ、全体的に浅いのが特徴である。柱穴に比定できるようなピットは確認されなかった。

カマドは北壁の中央部に構築され、一部は調査区外に延びている。長軸方向はN19°Wである。扁平な自然礫が「コ」字状に出土しており、構築材と考えられる。焚口周辺には径45cmの燃焼部も確認されている。煙道は張り出し状に長さ1.0mを確認しているが、その煙出し口は調査区外に延びていると思われる。

遺物は土師器・石器が出土し、土師器は5点、石器は1点図示している。第27図1は土師器碗の破片で、口縁部から体部が残存している。外面は横ナデとヘラケズリで調整されている。第27図2は土師器甕の胴部破片で、横ナデ・ハケメ調整がみられる。内面には輪積み痕が多数みられる。第27図3はほぼ完形の土師器甕で、口縁部に横ナデ、胴部にはハケメがみられる。底部には木葉痕が確認された。第27図4は土師器坏でほぼ完形である。外面は横ナデ・ヘラミガキ調整がみられ、内面にはヘラミガキ・黒色処理が確認された。第27図5は小型甕の底部破片で、磨滅により調整などは不明である。

第28図6は砥石である。完形の状態で出土し、4面に機能面がみられる。使用時の摩耗により2面は反っている。

本遺構の所属時期は、出土した土師器坏・甕などの遺物の特徴やカマドをもつ形態から奈良時代、8世紀前半代と推測される。

5号竪穴住居跡（第29～34図、写真図版42～48、91・92・105・109・110）

5号竪穴住居跡は調査区中央部で検出され、遺構検出面は地山面である。2号竪穴住居跡と重複し、本遺構の方が古い。

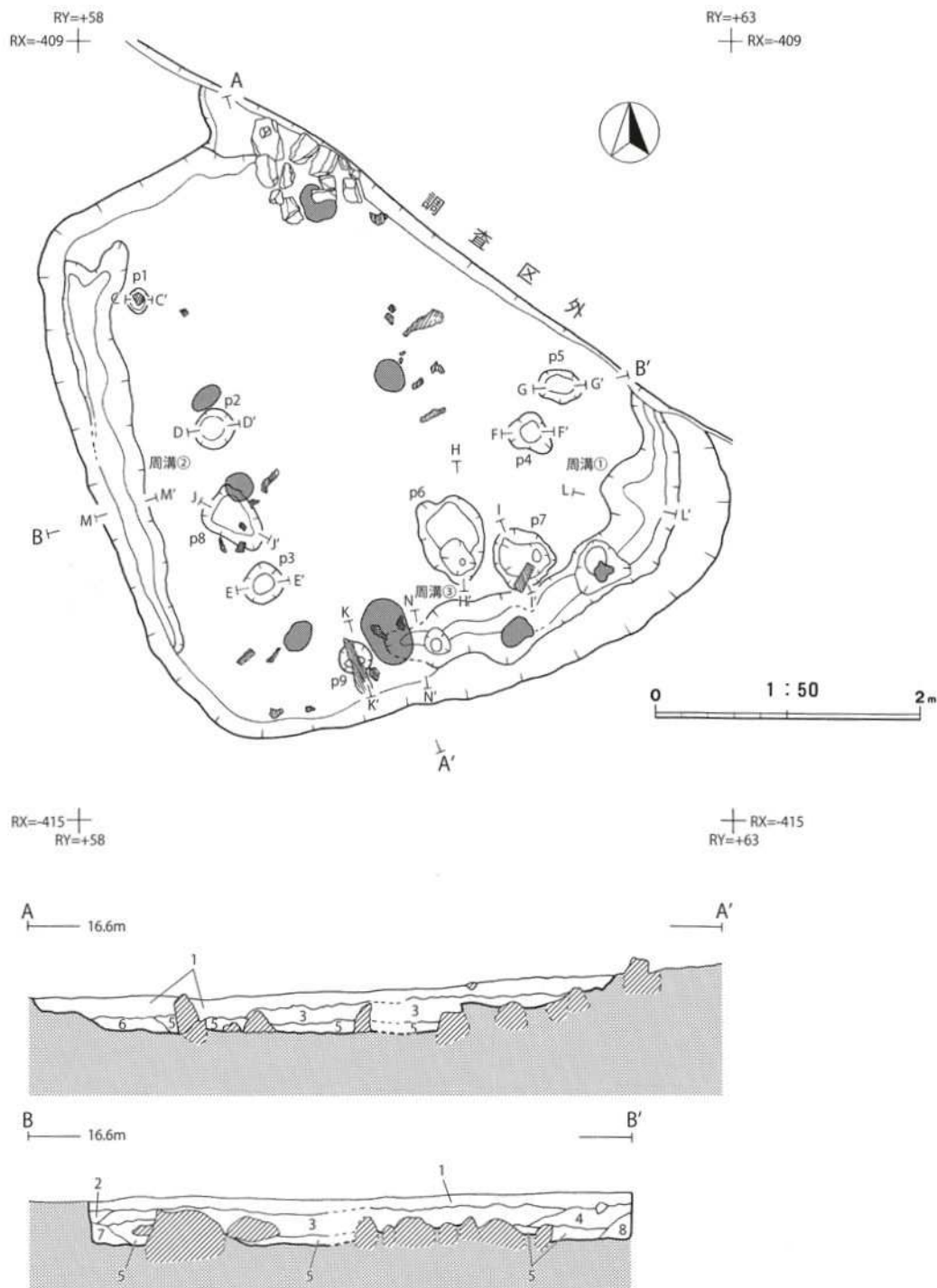
平面形は不整な円形を呈し、2号竪穴住居跡との重複により南壁の一部が確認できなかった。

規模は東西3.4m、南北3.2mを測り、床面中央よりやや北側で石囲炉が検出された。壁の立ち上がりは約25cmで、緩やかに立ち上がる。

堆積土は6層に分けられる。1層～3層は竪穴住居全域に堆積しており、壁際の一部に4層～6層が確認された。そのため、人為的な堆積ではなく自然堆積の様相を呈している。

石囲炉は自然礫を使って、円形に配置され、中央部には燃焼部が確認された。規模は径70cmで、炉内の堆積土はa層～d層に分けられる。掘り方も確認された。

ピットは7基確認され、規模は径40cm～20cm、深さは20cm～8cmとばらつきがみられ、平面形は円形である。全て石囲炉と壁との間で検出されているが、層厚は薄く、また配置にも規則性はみられなかった。



4号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
3	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
2	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/4 暗褐色砂壤土10%塊状・面状	やや硬質、粘性ややあり
4	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土5%塊状・面状	硬質、粘性あり

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
5	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土20%塊状・面状	硬質、粘性あり
6	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土30%塊状・面状	硬質、粘性あり
7	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
8	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/3 に近い黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり

第 23 図 4号竪穴住居跡 平面図・断面図

遺物は縄文土器・石器が出土し、縄文土器は7点、石器は3点図示している。第31図1は口縁部から胴部にかけて残存し、口唇部に横方向の隆帯がみられ、胴部の地文は縦方向の撚糸文が密に施文されている。1箇所において沈線による渦巻き文様が確認される。第31図2は胴部から底部が残存し、底部はナデ調整されている。接合はしなかったが、第31図1と2はその文様や形態から同一個体と考えられる。第31図3は口縁部から胴部にかけて残存し、口唇部の横方向の隆帯の下部にはR L単節縄文の地文の上に渦巻き文様が施文されている。大木8b式と考えられる。第32図4は羽状縄文が施文されている。第32図5・6は小型の土器で、文様から同一個体と考えられる。第32図7は口縁部周辺の破片で、キャリパー形を呈している。R L単節縄文の地文の上に渦巻き文様がみられる。

第33図8は叩き石で、2箇所に叩いた痕跡が確認された。第33図9はくぼみ石で、平坦な面に7箇所のくぼみが観察された。第34図10は搔器で、縁辺部の一部に調整剥離を行い、刃部を作り出している。

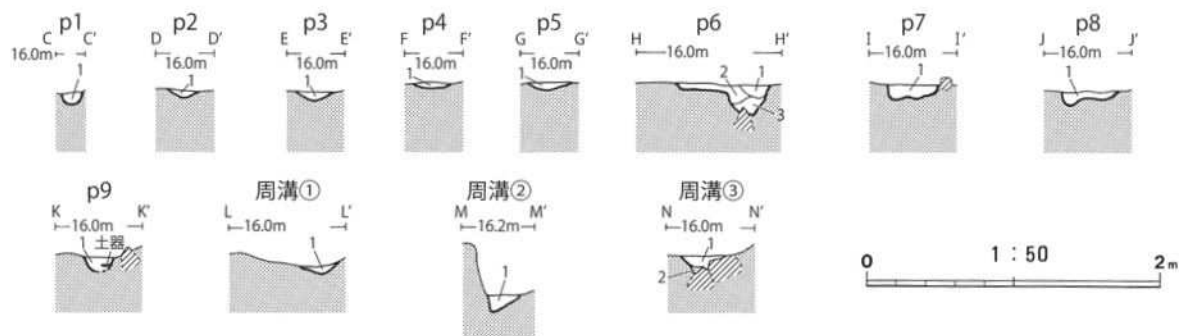
本遺構の所属時期は、出土遺物や石囲炉の形態などから、縄文時代中期後半、大木8b式期と考えられる。

6号竪穴住居跡（第35～37図、写真図版49・50、92・107）

6号竪穴住居跡は調査区中央部で検出され、遺構検出面は地山面である。1号・2号竪穴住居跡と重複し、本遺構の方が最も古い。

平面形は不整な円形を呈し、重複している1号・2号竪穴住居跡により大部分が壊されている。

規模は確認された部分で東西（3.3）m、南北（2.3）mを測り、東壁の立ち上がりは約13cmである。床面のやや西側では焼土の広がりが見出された。長軸70cm、短軸30cmの楕円形を呈す。



4号竪穴住居跡内ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%程度	硬質、粘性あり 炭化物少量
p2	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%程度	硬質、粘性あり 炭化物少量
p3	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%程度	硬質、粘性あり 炭化物少量（ブロッツ状）
p4	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%程度	硬質、粘性あり 炭化物少量
p5	1 10YR4/4 褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土20%程度	硬質、粘性あり
p6	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/6 褐色埴土20%程度	硬質、粘性あり
	2 10YR3/3 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色埴土20%程度	硬質、粘性あり 炭化物少量含まれる
	3 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR4/3 に近い黄褐色埴土10%程度	硬質、粘性あり

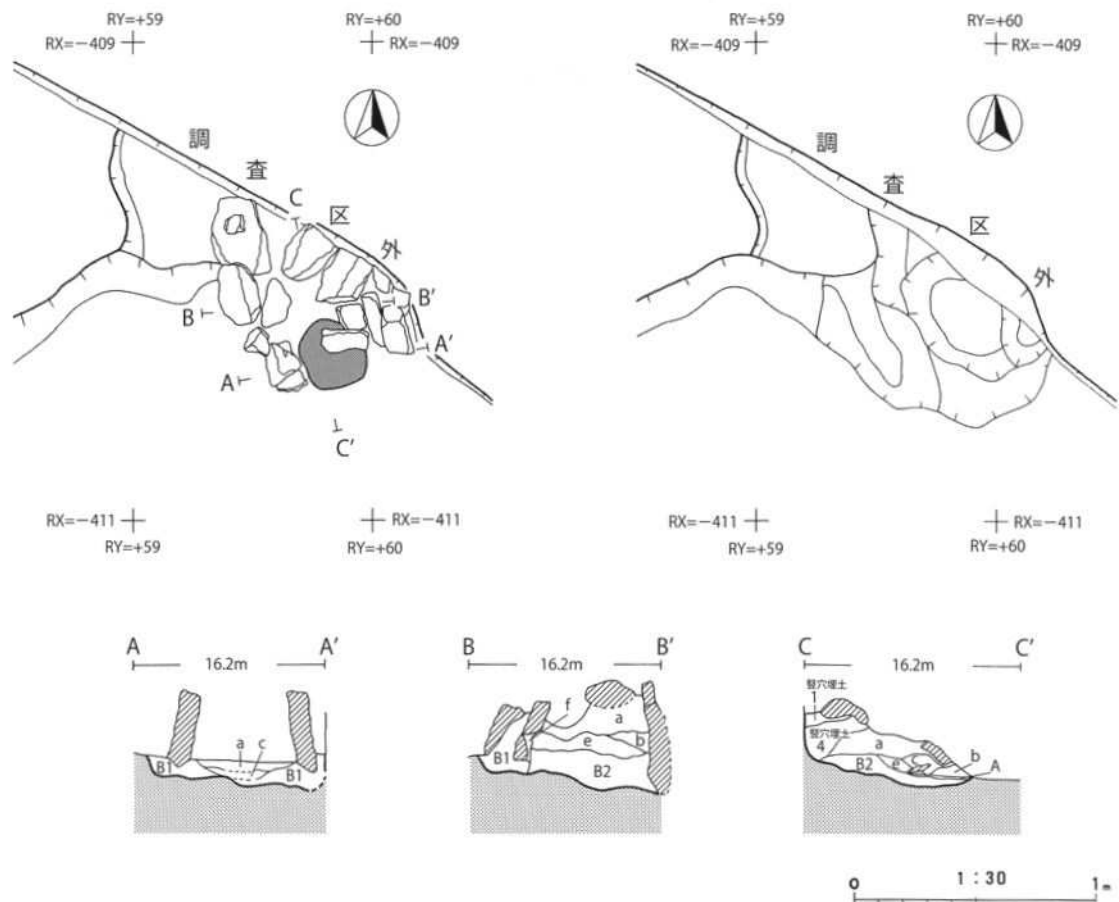
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p7	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR2/3 黒褐色埴土10%程度	硬質、粘性あり 炭化物少量
p8	1 10YR4/6 褐色埴土	10YR4/4 褐色埴土10%程度	硬質、粘性あり
p9	1 10YR2/3 黒褐色埴土	10YR4/6 褐色埴土10%程度	硬質、粘性あり
周溝①	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/6 褐色シルト質埴土20%程度	硬質、粘性あり 炭化物多量
周溝②	1 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR4/6 黄褐色シルト質埴土20%程度	硬質、粘性あり
周溝③	1 10YR3/3 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色埴土20%程度	硬質、粘性あり 炭化物少量含まれる
	2 10YR4/6 褐色埴土	10YR4/4 褐色シルト質埴土10%程度	硬質、粘性あり

第24図 4号竪穴住居跡 ピット 断面図

堆積土は3層に分けられる。1・2層がほぼ全域に堆積している。

ピットは1基のみ南東壁際で検出され、規模は径40cm、深さは10cmである。堆積土は2層に分けられ、暗褐色及びにぶい黄褐色を呈し、やや明るい土色である。

遺物は縄文土器・石器が出土し、縄文土器は5点、石器は2点図示している。第36図1～3は口縁部破片で、LR単節縄文が施文されている。第36図4はp1の1層から出土し、キャリパー形土器の口縁部破片である。第36図5は胴部破片で、第36図4と同様、キャリパー形土器の一部である。

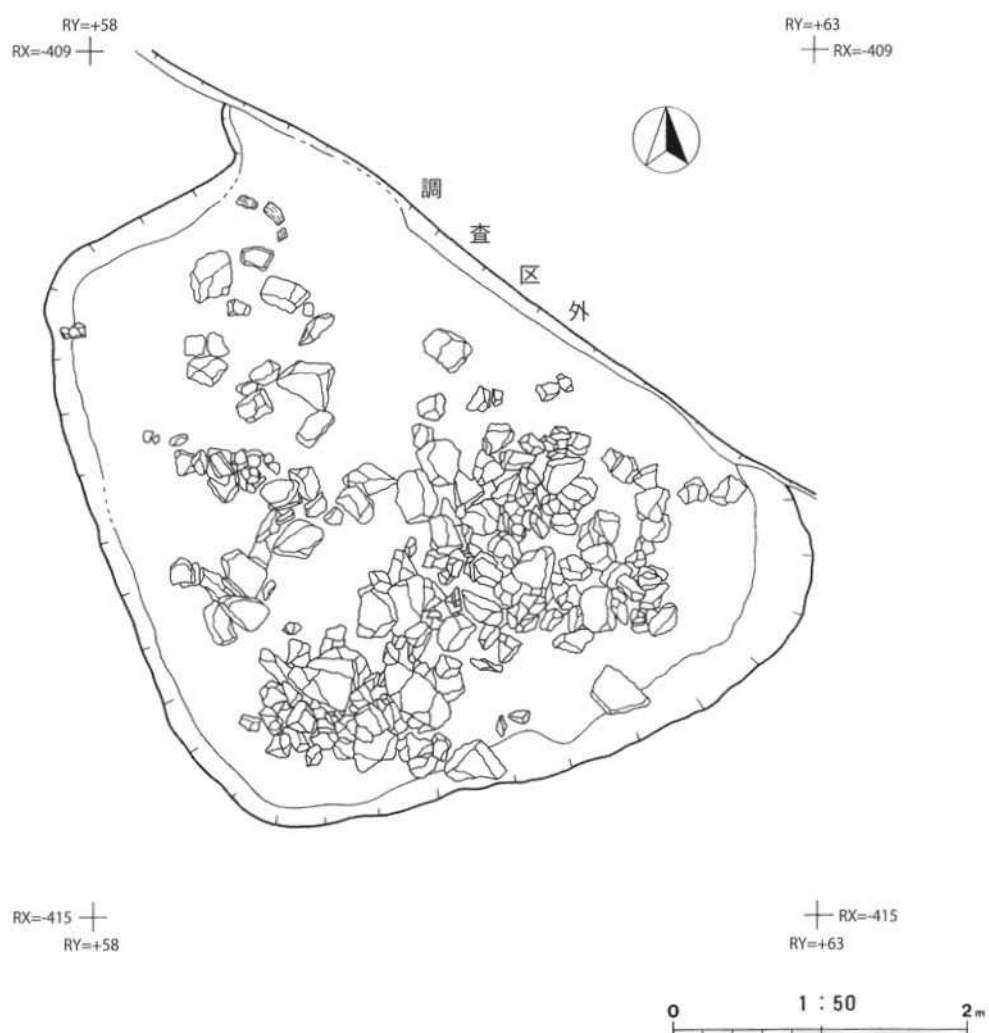


4号竪穴住居跡 カマド 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
a	10YR2/1 黒色埴土	10YR4/6 褐色砂埴土5%混状	硬質、粘性あり
b	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR5/6 黄褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり 埴土粒微量
c	7.5YR2/1 黒色埴土	7.5YR3/2 黒褐色埴土20%混状	硬質、粘性あり 埴土粒少量
d	7.5YR2/2 黒褐色埴土	5YR4/4 にぶい赤褐色砂埴土20%混状	硬質、粘性あり 埴土粒少量
e	5YR3/2 暗赤褐色埴土	5YR4/6 赤褐色埴土30%混状	硬質、粘性あり 埴土粒多量 白色片(骨・貝)多量
f	10YR2/2 黒褐色埴土	10YR2/2 黒褐色埴土20%混状	硬質、粘性あり 埴土粒少量

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
A	5YR4/6 赤褐色埴土	5YR5/6 暗赤褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり
B1	10YR2/1 黒色埴土	10YR5/6 黄褐色埴土20%混状	硬質、粘性あり
B2	10YR5/6 黄褐色埴土	10YR2/2 黒褐色埴土30%混状	硬質、粘性あり

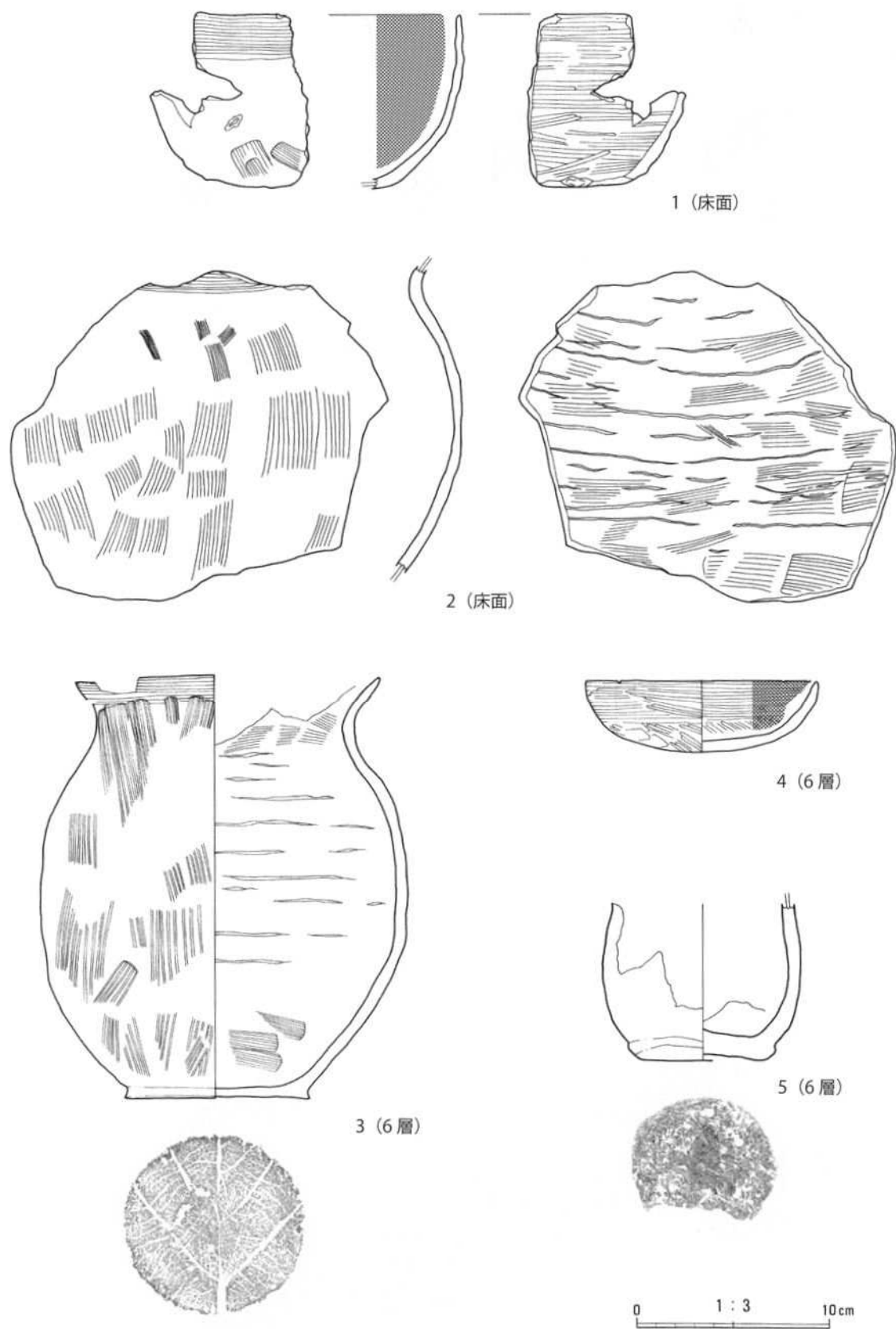
第25図 4号竪穴住居跡 カマド 平面図・断面図



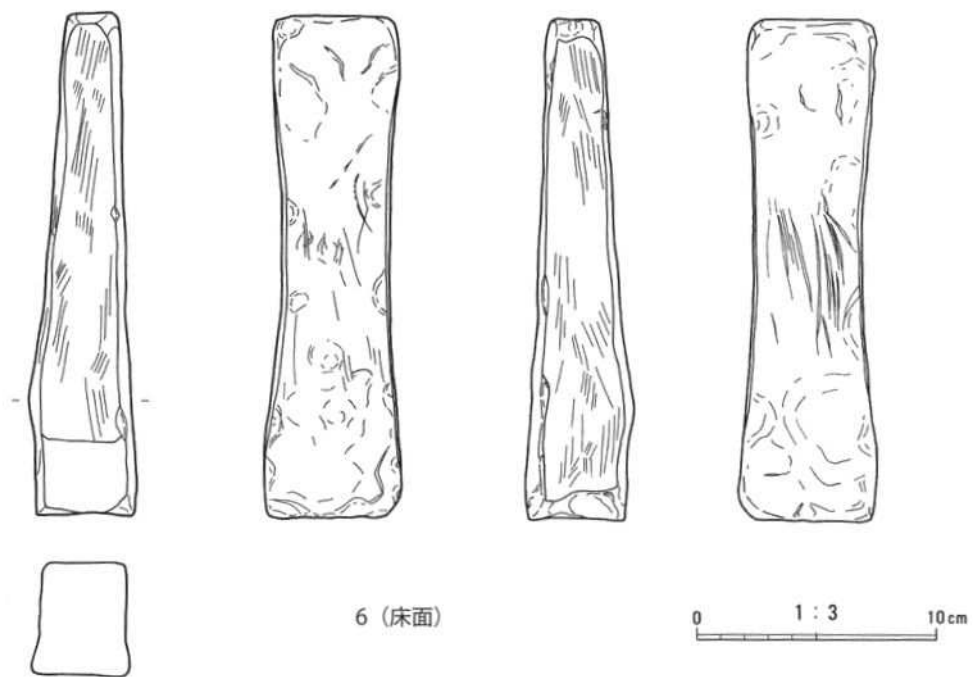
第 26 図 4号竪穴住居跡 礫出土状況

第37図6・7は磨石で、片面にのみ磨面が確認された。

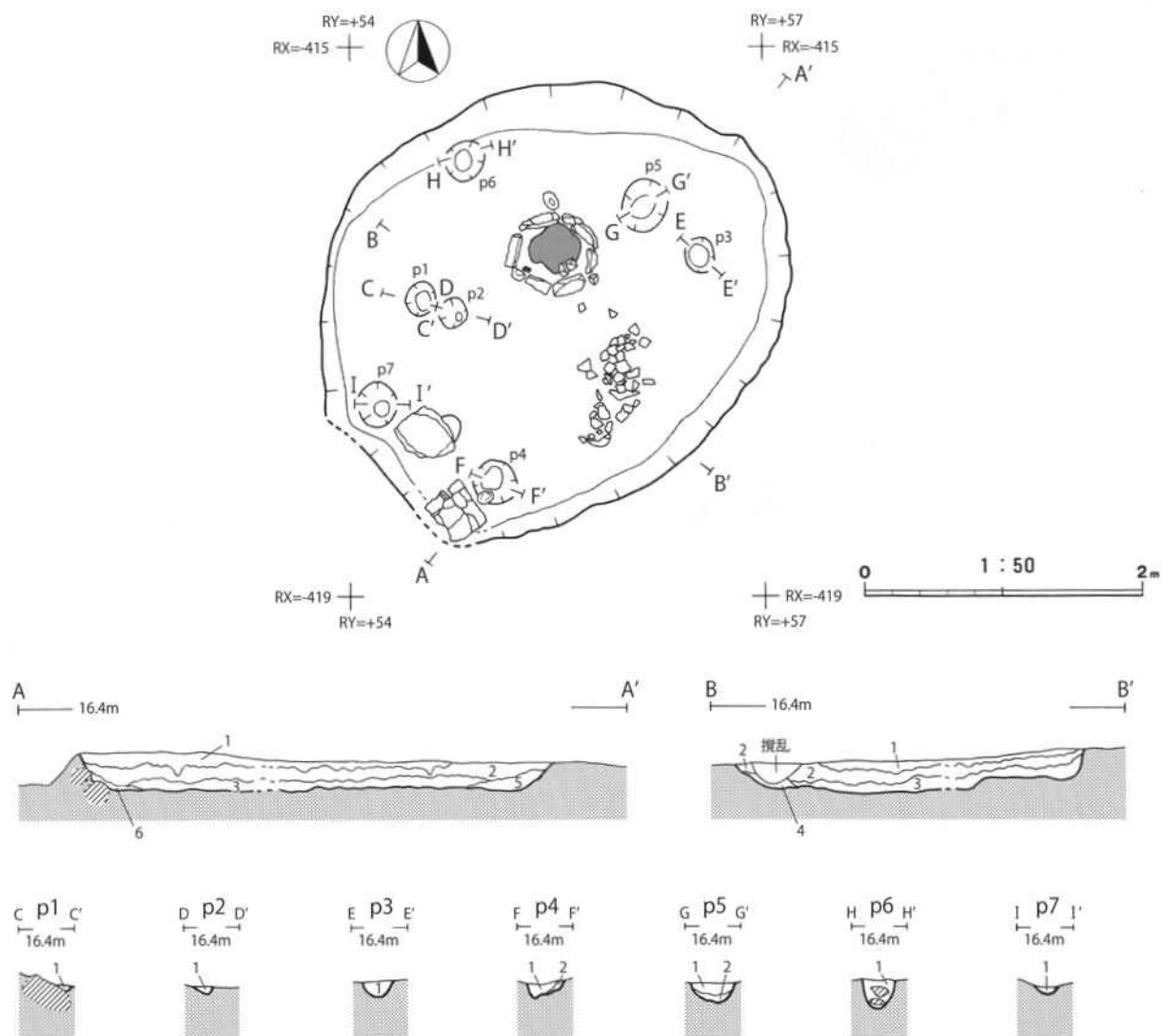
本遺構は平面形も不明瞭で出土遺物も少量であるが、その出土遺物や堆積土の性質、重複関係などから所属時期は縄文時代中期、大木8b式期である。



第 27 図 4号竖穴住居跡 出土遺物 (1)



第 28 図 4号竪穴住居跡 出土遺物 (2)



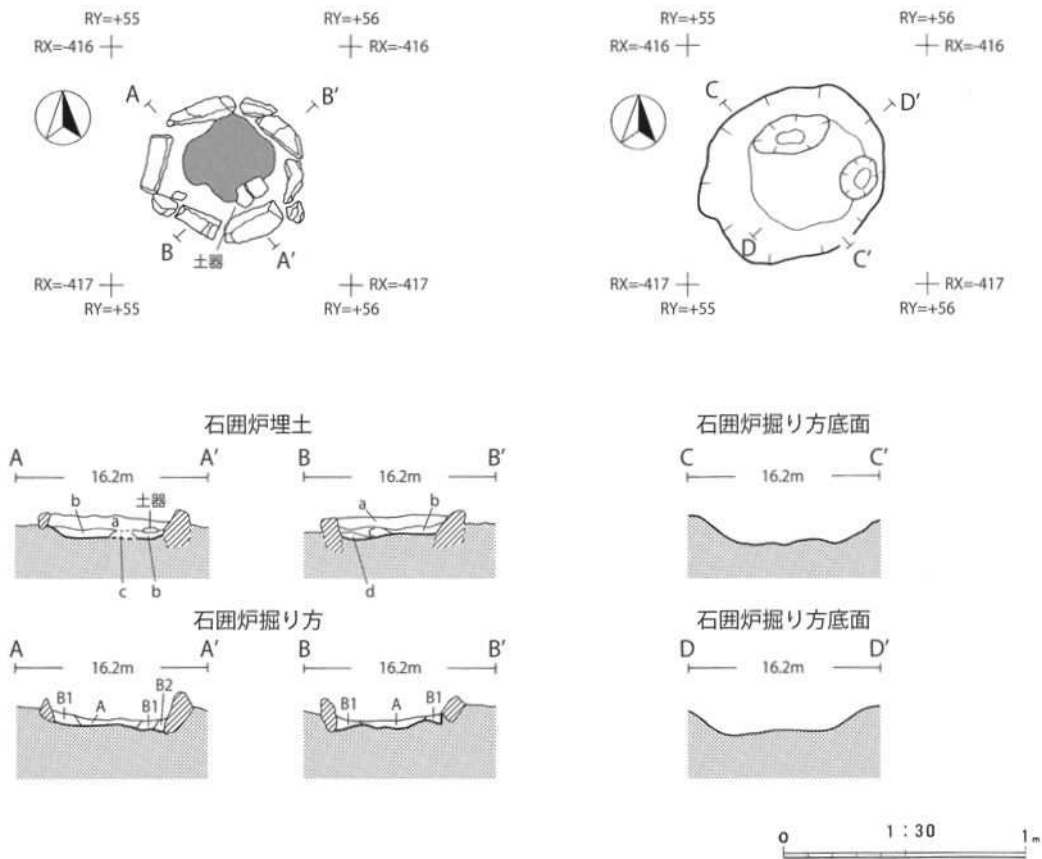
5号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
竪穴 埋土	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR2/2 黒褐色埴埴土10%塊状	硬質、粘性あり 黒色を呈する
	2 10YR3/4 暗褐色埴埴土	10YR4/4 褐色埴埴土10%塊状	硬質、粘性あり 灰色を呈する
	3 10YR4/3 にぶい黄褐色埴埴土	10YR4/4 褐色埴埴土20%塊状	硬質、粘性あり 地山土に近い
	4 10YR4/6 褐色埴埴土	10YR2/2 黒褐色埴埴土5%塊状	硬質、粘性あり 地山土に近い
	5 10YR5/6 黄褐色埴埴土	10YR4/6 褐色埴埴土30%塊状	硬質、粘性あり
	6 10YR4/3 にぶい黄褐色埴埴土	10YR3/4 暗褐色埴埴土20%塊状	硬質、粘性あり

5号竪穴住居跡内ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR5/6 黄褐色埴埴土20%塊状	硬質、粘性あり
p2	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR5/6 黄褐色埴埴土20%塊状	硬質、粘性あり
p3	1 10YR2/1 黒色埴埴土	10YR5/6 黄褐色埴埴土20%塊状	硬質、粘性あり
p4	1 10YR2/3 黒褐色埴埴土	10YR3/3 暗褐色埴埴土10%塊状	硬質、粘性あり
	2 10YR4/6 褐色砂埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%塊状	硬質、粘性あり 地山土に近い
p5	1 10YR2/3 黒褐色埴埴土	10YR3/3 暗褐色埴埴土10%塊状	硬質、粘性あり
	2 10YR4/6 褐色砂埴土	10YR4/4 褐色砂埴土5%塊状	硬質、粘性あり 地山土に近い
p6	1 10YR3/4 暗褐色埴埴土	10YR4/4 褐色埴埴土20%塊状	硬質、粘性あり 炭化物微量
p7	1 10YR3/4 暗褐色埴埴土	10YR4/4 褐色埴埴土20%塊状	硬質、粘性あり 炭化物微量

第 29 図 5号竪穴住居跡 平面図・断面図

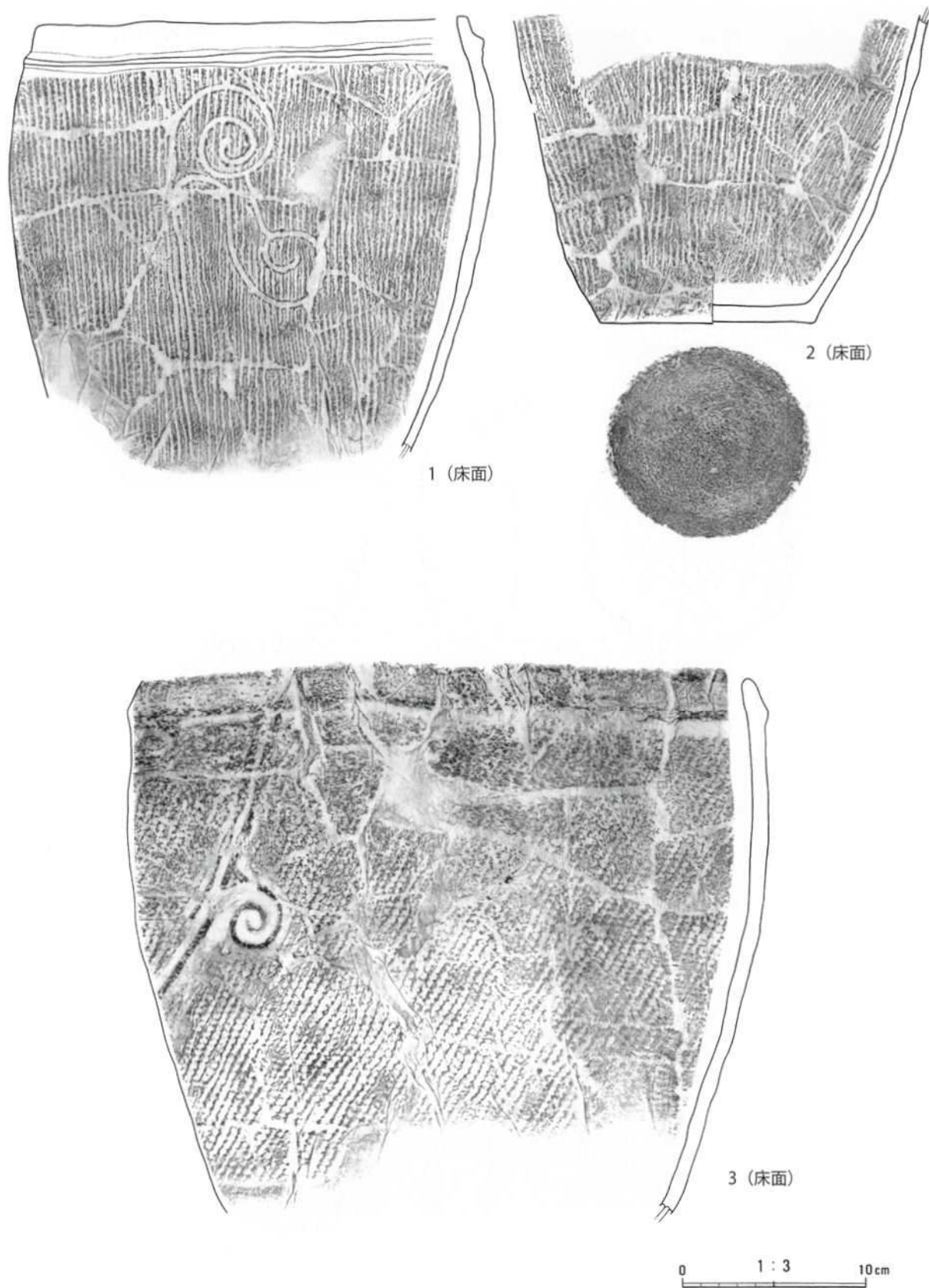


5号竪穴住居跡 石囲炉 土層観察表

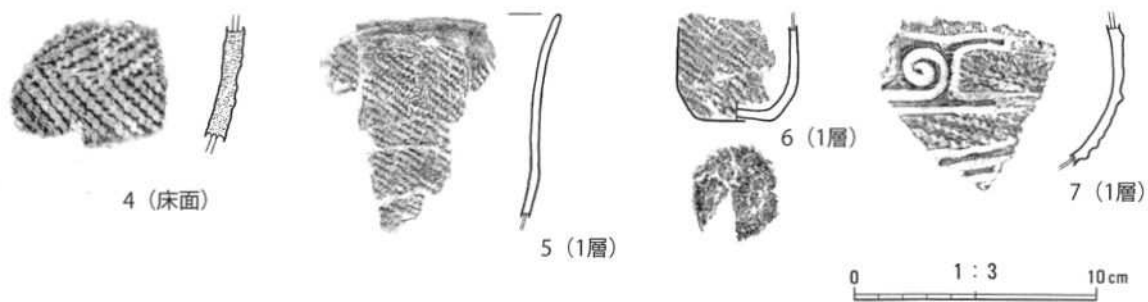
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
B1	a 7.5YR2/3 暗褐色埴土	7.5YR2/2 高褐色埴土10%混入	硬質、粘性あり 赤色粒少量
	b 7.5YR3/4 暗褐色埴土	7.5YR5/6 暗褐色埴土20%混入	硬質、粘性あり 赤色粒多量
	c 7.5YR5/6 暗褐色砂埴土	7.5YR2/3 暗褐色砂埴土30%混入	やや硬質、粘性ややあり
	d 7.5YR2/3 高褐色砂埴土	7.5YR2/3 暗褐色砂埴土10%混入	硬質、粘性あり 炭化物少量

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
B1	A 5YR2/6 暗褐色埴土	5YR2/4 暗褐色埴土20%混入	硬質、粘性あり 炭化物
	B1 10YR2/3 高褐色埴土	10YR3/4 暗褐色埴土10%混入	硬質、粘性あり 炭化物微量
	B2 10YR2/2 高褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土5%混入	硬質、粘性あり

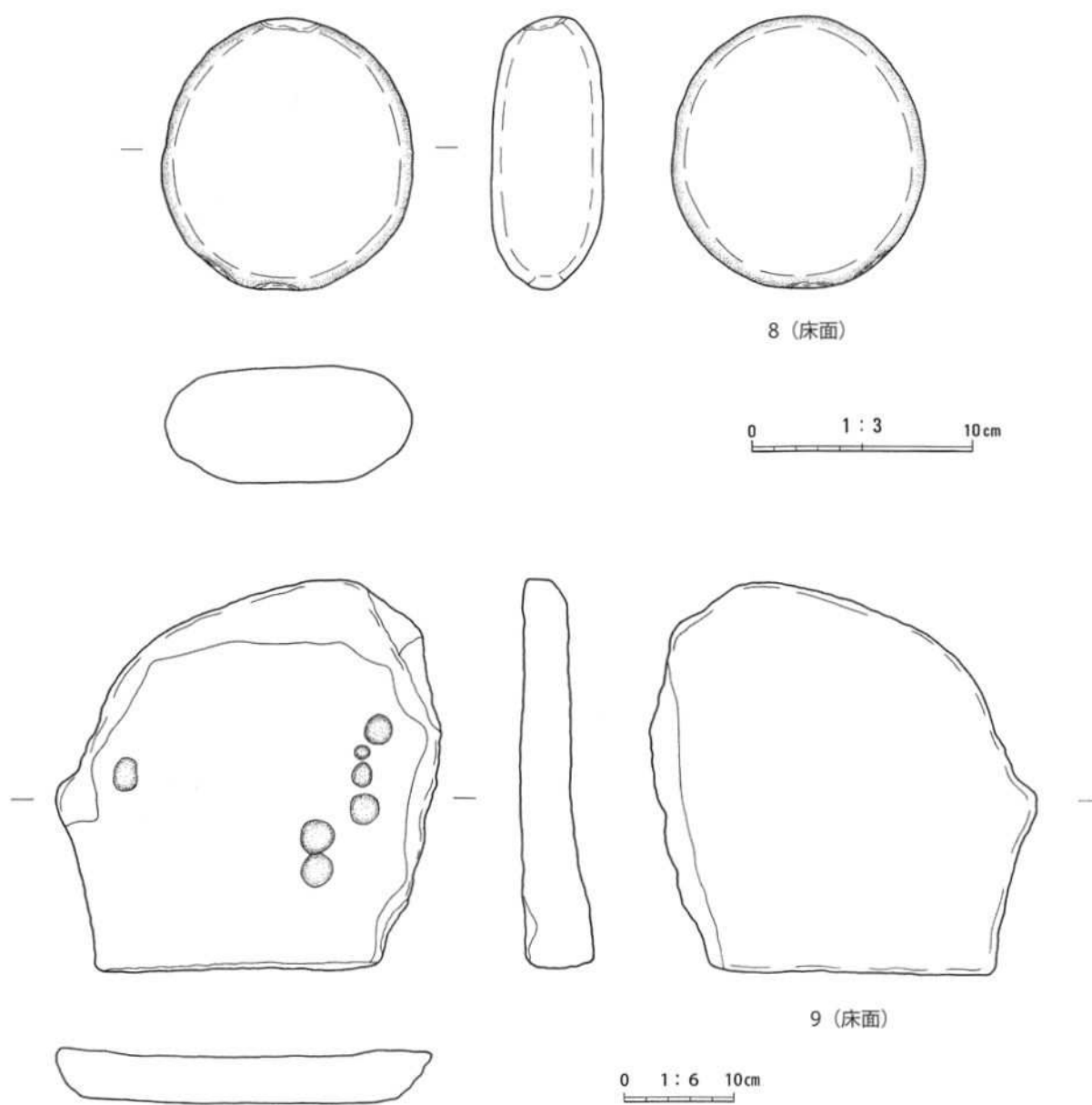
第30図 5号竪穴住居跡 炉跡 平面図・断面図



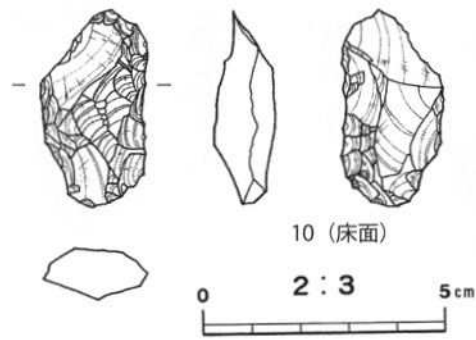
第 31 图 5 号竖穴住居跡 出土遺物 (1)



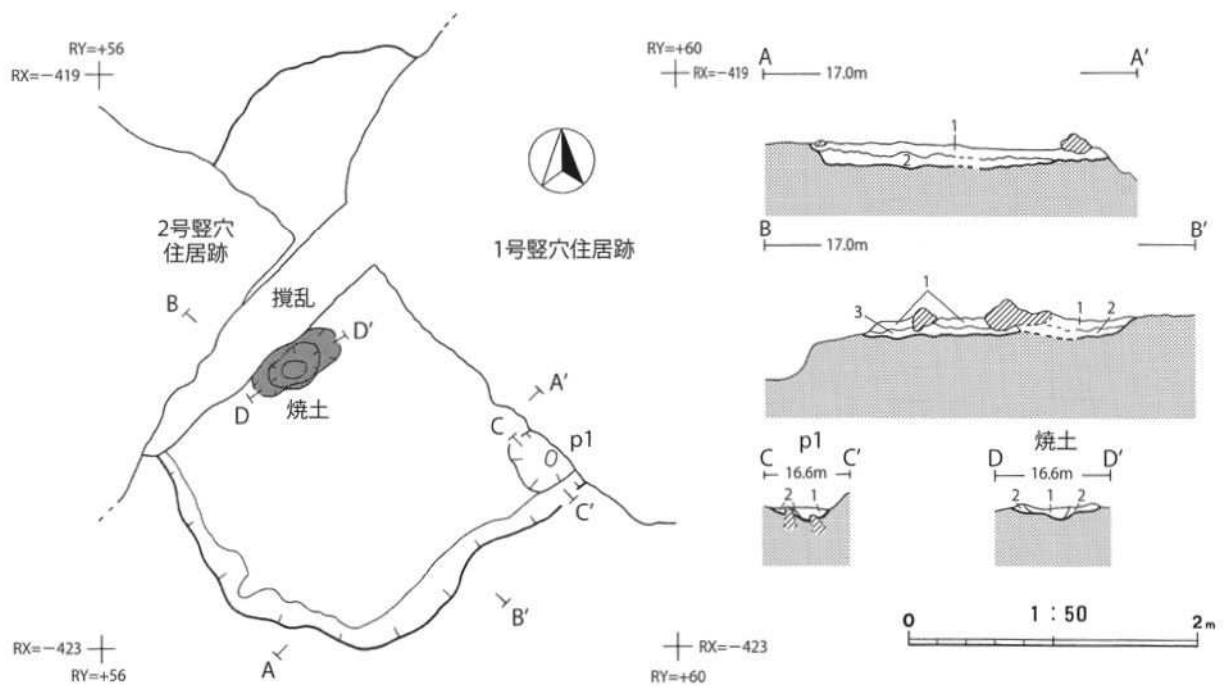
第 32 図 5号竪穴住居跡 出土遺物 (2)



第 33 図 5号竪穴住居跡 出土遺物 (3)



第 34 図 5号竪穴住居跡 出土遺物 (4)



6号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	10YR3/3 暗褐色砂礫土	10YR2/2 黒褐色砂礫土5%混状	硬質、粘性あり
2	10YR4/4 褐色砂礫土	10YR5/4 に近い黄褐色砂礫土30%混状	硬質、粘性あり
3	10YR5/6 黄褐色砂礫土	10YR3/4 暗褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり

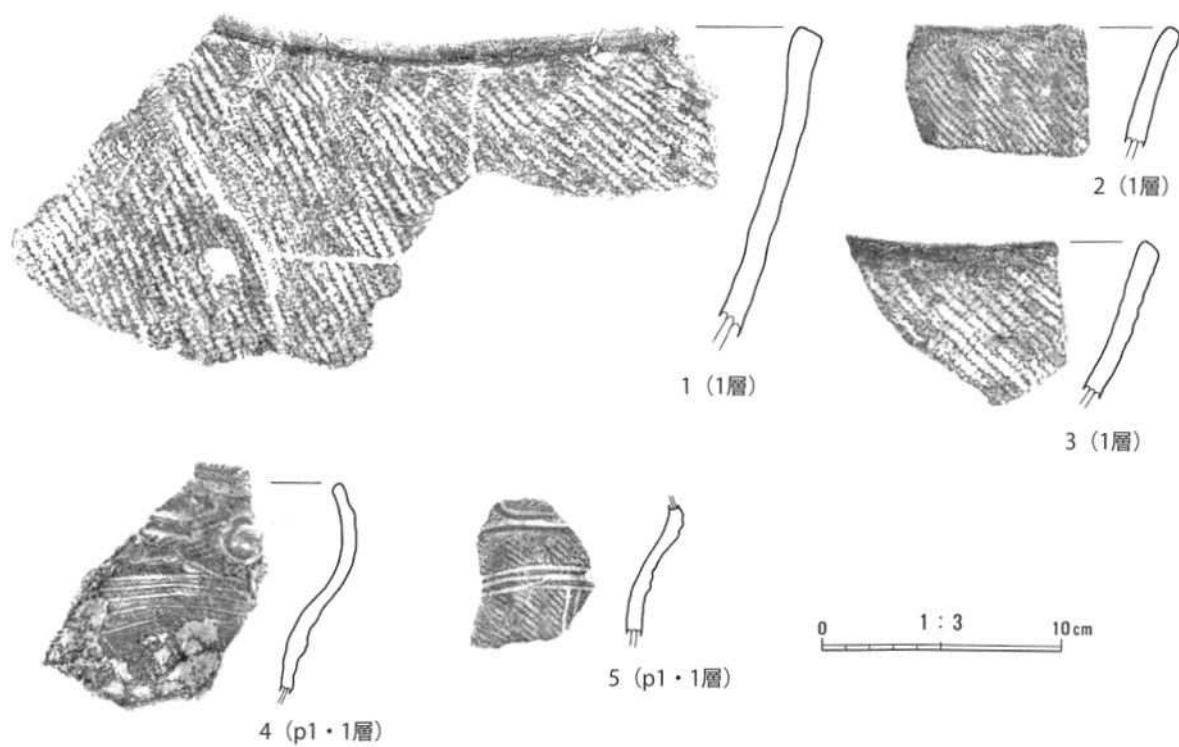
6号竪穴住居跡内ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
p1	1 10YR3/4 暗褐色砂礫土	10YR5/4 に近い黄褐色砂礫土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量、土器含まれる
2	10YR4/3 に近い黄褐色砂礫土	10YR4/6 褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり

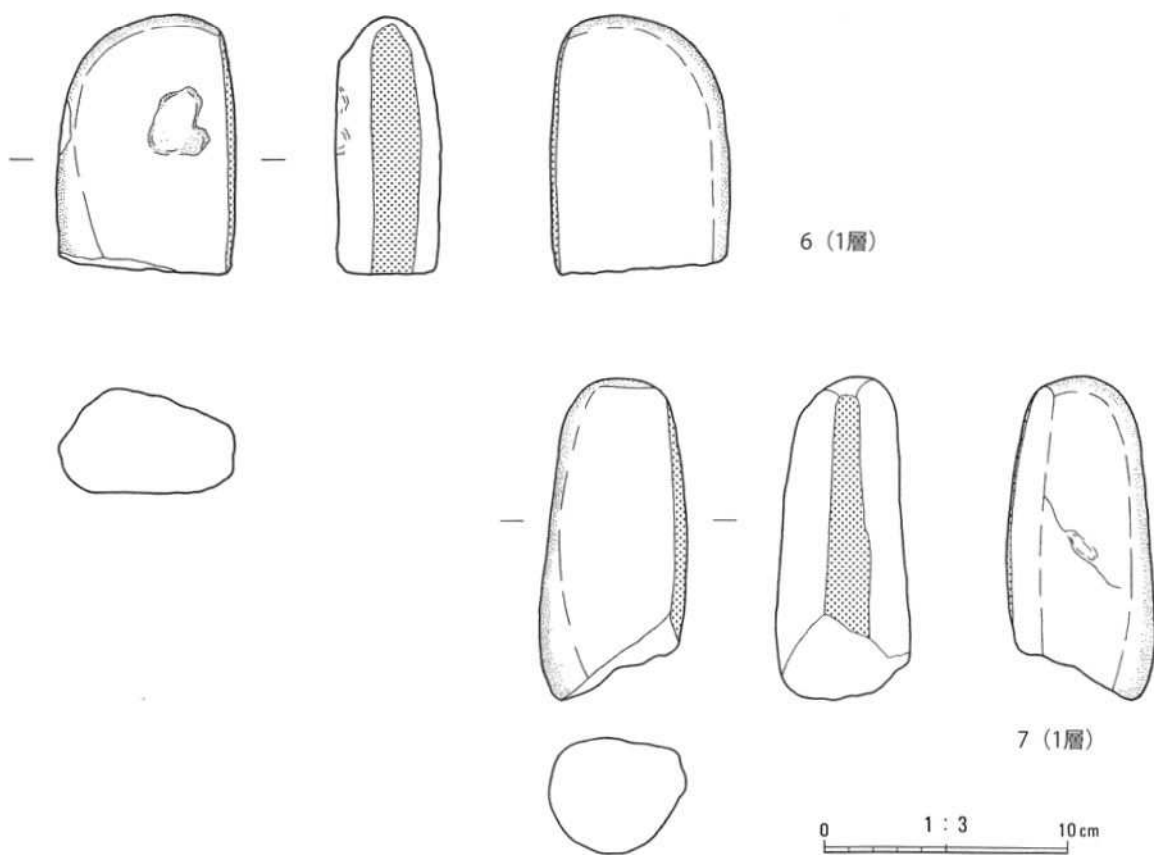
6号竪穴住居跡内焼土 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1	7.5YR5/6 暗褐色砂礫土	7.5YR4/6 褐色砂礫土5%混状	硬質、粘性あり
2	10YR4/4 褐色砂礫土	10YR3/4 暗褐色砂礫土20%混状	硬質、粘性あり

第 35 図 6号竪穴住居跡 平面図・断面図



第36図 6号竪穴住居跡 出土遺物 (1)



第37図 6号竪穴住居跡 出土遺物 (2)

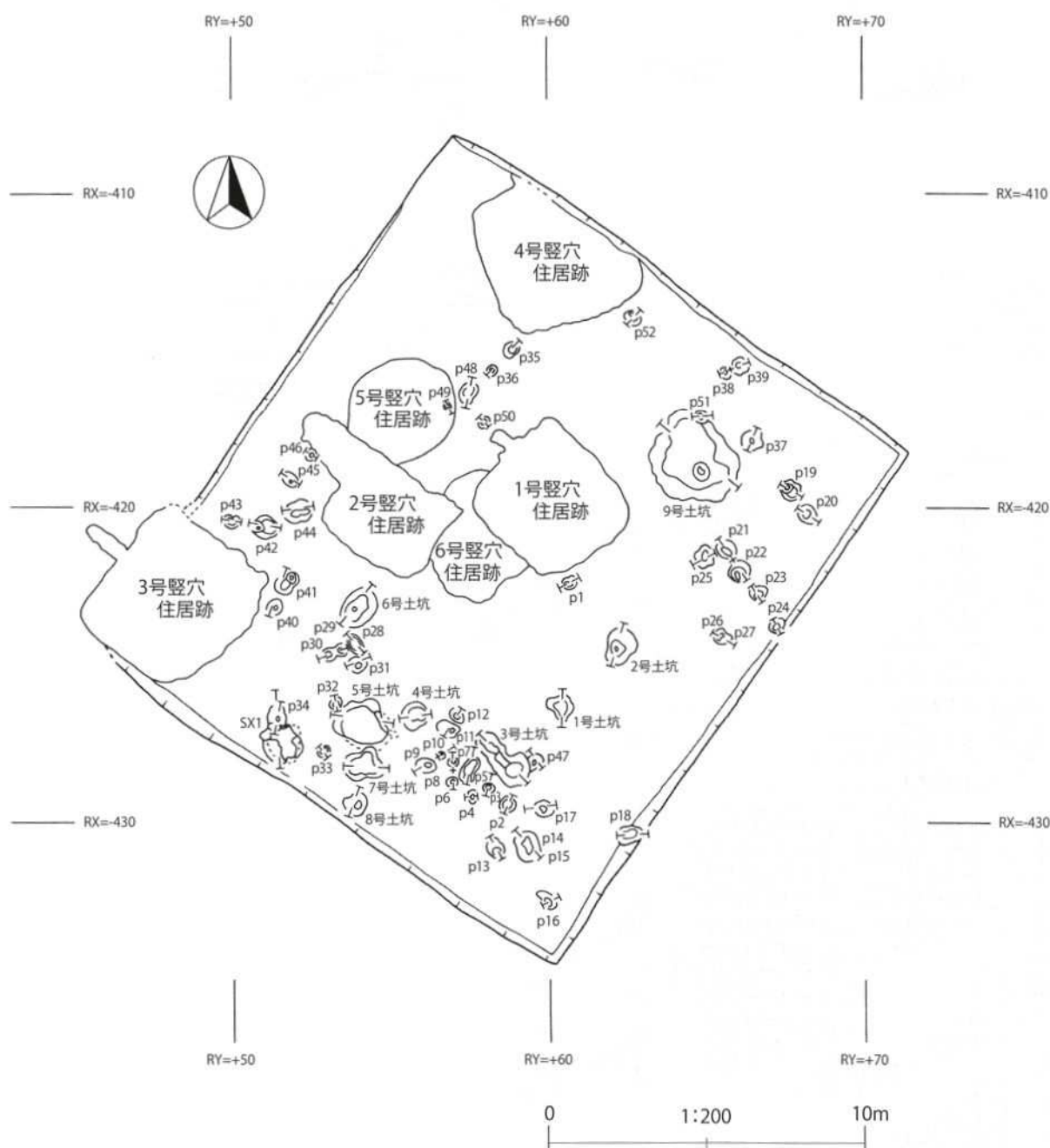
第2節 土坑・ピット

土坑は合計9基確認されている。規模に規則性はみられず、分布にも偏りはみられない。さらに、その断面形態からフラスコ状土坑と確認された5号土坑以外の土坑の性質は不明である。

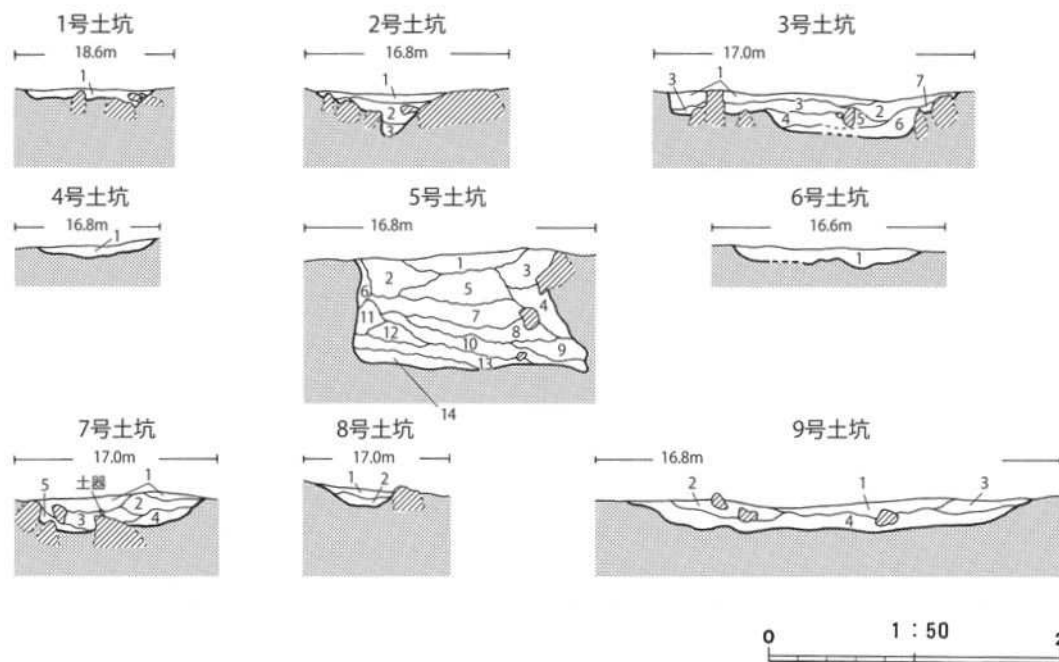
1号土坑（第38・39図、写真図版51）

1号土坑は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は不整な円形で、規模は長径90cm、短径75cm、検出面から底面までの深さは約8cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は1層のみで、黒褐色を呈する埴壤土である。底面には地山に含ま



第38図 土坑・ピット配置図



1号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック微量

2号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック多量
	2 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR6/8 明黄褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり
	3 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり

3号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10YR2/3 暗褐色埴土	10YR2/3 暗褐色埴土20%塊状	硬質、粘性あり 炭化物少量
	2 10YR2/3 暗褐色埴土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック少量、炭化物粒少量
	3 10YR3/4 暗褐色埴土	10YR3/3 暗褐色埴土10%塊状	硬質、粘性あり 3.5YR3/4 暗褐色砂壤土20%
	4 10YR4/4 褐色埴土	10YR3/4 暗褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	5 10YR3/4 暗褐色埴土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	6 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR3/4 暗褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	7 10YR3/3 暗褐色埴土	10YR3/4 暗褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり

4号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり

5号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10YR4/4 褐色埴土	10YR3/4 暗褐色埴土5%塊状	硬質、粘性あり
	2 10YR4/3 にじみ黄褐色砂壤土	10YR5/4 にじみ黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	3 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり
	4 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土40%塊状	硬質、粘性あり
	5 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり 縄文土層含まれる
	6 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり
	7 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/4 にじみ黄褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり
	8 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	9 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり 炭化物少量
	10 10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	11 10YR4/3 にじみ黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり
	12 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり 炭化物少量
	13 10YR4/3 にじみ黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり
	14 10YR4/4 褐色埴土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり

6号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10YR2/3 黒褐色埴土	10YR4/4 褐色砂壤土20%塊状	硬質、粘性あり

7号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10YR2/1 黒色埴土	5YR4/6 赤褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり 埴土ブロック
	2 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/4 褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック多量
	3 10YR2/1 黒色埴土	10YR2/2 黒褐色埴土5%塊状	硬質、粘性あり
	4 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色埴土20%塊状	硬質、粘性あり 地山ブロック多量
	5 10YR2/3 暗褐色埴土	10YR5/6 黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり

8号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10YR2/1 黒色埴土	5YR4/6 赤褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり 埴土ブロック
	2 10YR2/1 黒色埴土	10YR4/3 にじみ黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり

9号土坑 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
土坑埋土	1 10YR2/2 黒褐色埴土	10YR3/4 暗褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	2 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にじみ黄褐色砂壤土10%塊状	硬質、粘性あり
	3 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR2/4 暗褐色砂壤土5%塊状	硬質、粘性あり
	4 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR4/3 にじみ黄褐色砂壤土30%塊状	硬質、粘性あり 縄文土層含まれる

第39図 土坑 断面図

れる自然礫が多数みられた。

遺物は出土していない。そのため、本遺構の所属時期は不明である。

2号土坑（第38・39・41図、写真図版52・93）

2号土坑は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は不整な楕円形で、規模は長径110cm、短径90cm、検出面から底面までの深さは28cmを測る。壁は地山に含まれる自然礫により不明瞭である。堆積土は3層に分けられ、黒色を呈する1層中には黄褐色の地山ブロックが多量に含まれている。底面は地山に含まれる自然礫によって凹凸が激しい。

遺物は縄文土器が1点出土している。第41図1は深鉢の胴部破片で、磨滅しているが、RL単節縄文が施文されている。本遺構の所属時期は縄文時代と考えられるが、詳細は不明である。

3号土坑（第38・39・41・43図、写真図版53・93・105）

3号土坑は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。P47と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形は不整な楕円形で、規模は長径2.1m、短径0.7m、検出面から底面までの深さは約25cmを測る。堆積土は7層に分けられ、1層・2層には炭化物粒が少量含まれている。堆積土中及び底面には地山に含まれる自然礫が多数みられた。

遺物は縄文土器・石器が出土している。第41図2・3は深鉢の口縁部破片で、磨滅しているが、LR単節の斜縄文と沈線と区画された文様から大木8a式と推測される。第43図22は石匙で、横型を呈し、両面の縁辺部に調整剥離がみられる。本遺構の所属時期は出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

4号土坑（第38・39図、写真図版54）

4号土坑は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は不整な円形で、規模は長径90cm、短径80cm、検出面から底面までの深さは約8cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は1層のみで、黄褐色を呈する砂壤土である。

遺物は出土していない。そのため、本遺構の所属時期は不明である。

5号土坑（第38・39・41・44図、写真図版55・56・93・106）

5号土坑は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は不整な円形で、規模は長径1.7m、短径1.4m、検出面から底面までの深さは0.8mを測る。壁の断面形はフラスコ状を呈し、底面は平坦である。堆積土は14層に分けられ、5層には縄文土器が含まれ、さらに9層・12層には炭化物が少量含まれるため、人為的な堆積と推測される。壁面や底面には地山に含まれる自然礫が多数みられ、凹凸が著しい。

遺物は縄文土器・石器が出土している。第41図5は深鉢の口縁部破片で、RL単節縄文の地文の上に沈線により横方向・縦方向・半円状の文様を作り出している。第41図6は深鉢の口縁部破片で、横方向の隆帯による区画がみられる。第41図7は口縁部破片で、横方向の隆帯が2条観察される。第41図8は深鉢の口縁部破片で、キャリパー形を呈している。第44図24は磨製石斧で、刃部は欠損している。

本遺構の所属時期は14層において出土した縄文土器から縄文時代中期中葉と考えられる。

6号土坑（第38・39・41図、写真図版57・93）

6号土坑は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は楕円形を呈し、規模は長径1.2m、短径1.0m、検出面から底面までの深さは約13cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は1層のみで、黒褐色を呈する埴埴土である。

遺物は縄文土器が出土している。第41図4は深鉢の胴部破片で、R L単節縄文が施文されている。本遺構の所属時期は縄文時代中期と考えられるが、詳細は不明である。

7号土坑（第38・39・41図、写真図版94）

7号土坑は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は不整な楕円形で、規模は長径1.3m、短径0.9m、検出面から底面までの深さは約25cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は5層に分けられ、1層中には焼土ブロックが含まれ、2層・4層中には地山ブロックが多量に含まれている。堆積土中及び底面には地山に含まれる自然礫が多数みられた。

遺物は土師器が出土している。第41図9・第41図10は土師器甕の口縁部破片で、横ナデ・ハケメが観察される。口縁部周辺はハケメ後に横ナデを施している調整の順番が確認された。出土遺物から本遺構の所属時期は奈良時代と考えられる。

8号土坑（第38・39・41図、写真図版94）

8号土坑は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は不整な円形で、規模は長径75cm、短径70cm、検出面から底面までの深さは約20cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、1層中には焼土ブロックが含まれている。

遺物は土師器が出土している。第41図11は土師器甕の胴部破片で、外面にはハケメ調整がみられる。出土遺物から本遺構の所属時期は奈良時代と考えられる。

9号土坑（第38・39・41図、写真図版58・94）

9号土坑は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。P 51と重複し、本遺構の方が古い。

平面形は不整な楕円形で、規模は長径3.0m、短径2.7m、検出面から底面までの深さは約20cmを測る。土坑の中で最も大型である。壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は4層に分けられ、4層は底面全域に堆積している。

遺物は縄文土器が出土している。第41図12は深鉢の口縁部破片で、横方向の沈線が施文されている。第41図13は胴部破片で、隆帯により渦巻き状の文様を作り出している。地文はR L単節縄文で、大木8b式である。第41図14は胴部～底部破片で、R L単節縄文の地文の上から縦方向の平行沈線が施文されている。

出土遺物から本遺構の所属時期は縄文時代中期、大木8b式期と考えられる。

ピット（小穴）は合計52基検出された。調査区南部に集中する傾向は確認されたが、規模や平面形などに規則性はみられなかった。ここでは項目ごとに記述したい。

1号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区中央部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整円形

規模：長径40cm、短径30cm、深さ15cm

2号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形

規模：長径50cm、短径40cm、深さ20cm

3号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形

規模：径30cm、深さ5cm

4号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形

規模：径30cm、深さ15cm

5号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形

規模：長径70cm、短径40cm、深さ10cm

6号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形

規模：径20cm、深さ10cm

7号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形

規模：径20cm、深さ10cm

8号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形

規模：長径50cm、短径38cm、深さ14cm

9号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形

規模：径15cm、深さ6cm

10号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形

規模：径10cm、深さ16cm

11号ピット（第38・40・42図）

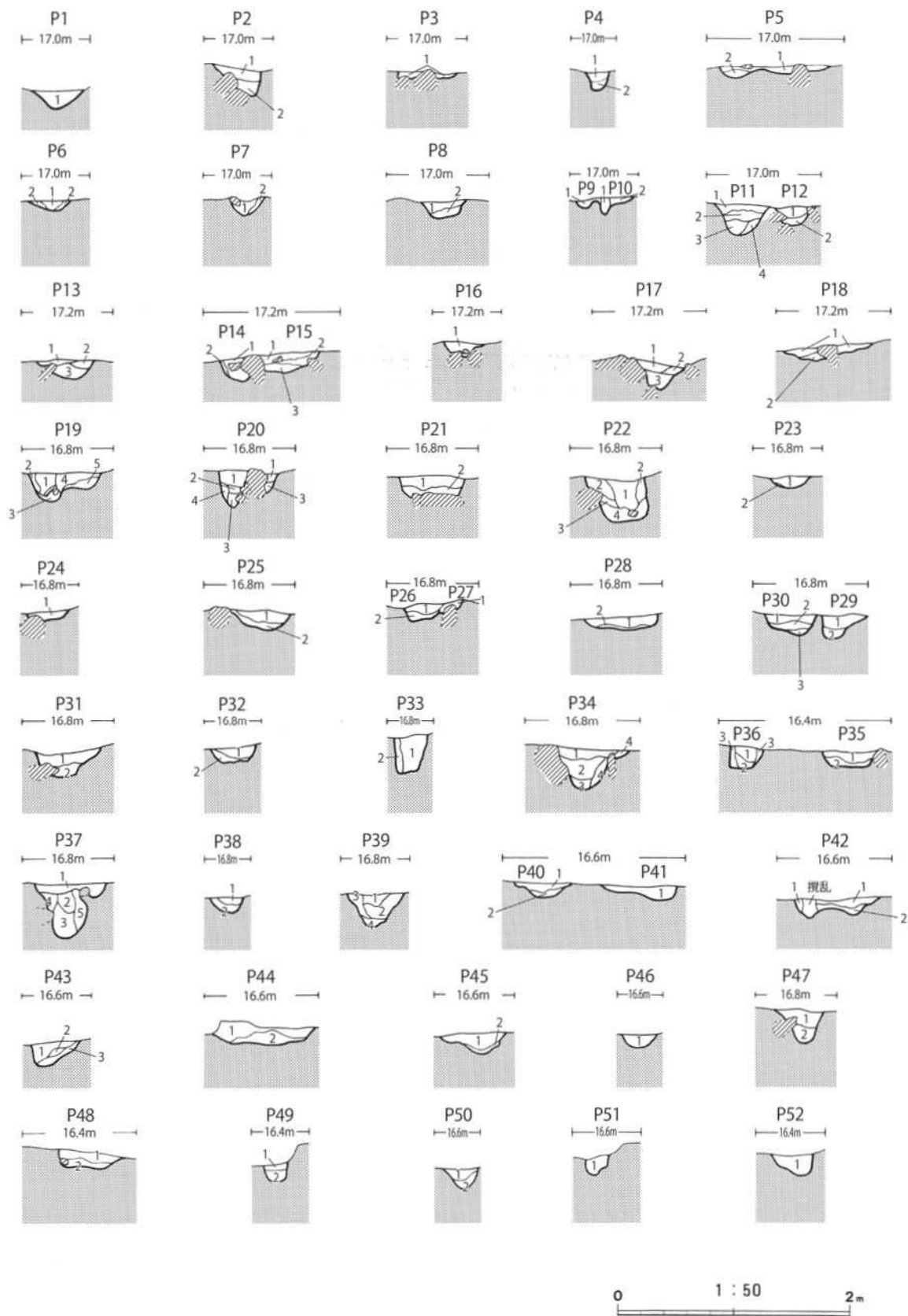
検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整楕円形

規模：長径70cm、短径50cm、深さ27cm、出土遺物：1層から縄文土器（口縁部破片）1点図示

12号ピット（第38・40図）

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形

規模：長径50cm、短径30cm、深さ18cm



第 40 図 ピット 断面図

層名		基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
P1	1	10YR2/1 黒色埴土	10YR3/3 暗褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性ややあり 地山ブロック微量
P2	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2	10YR3/3 暗褐色埴土	10YR3/4 暗褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり
P3	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
P4	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2	10YR3/3 暗褐色埴土	10YR3/4 暗褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり
P5	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	やや硬質、粘性ややあり
P6	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR3/4 暗褐色埴土5%混状	硬質、粘性あり
	2	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
P7	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
P8	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2	10YR4/4 褐色埴土	10YR5/6 黄褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
P9	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
P10	1	10YR2/1 黒色埴土	10YR4/3 に近い黄褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり
	2	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	3	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
P11	2	10YR4/3 に近い黄褐色埴土	10YR4/4 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
	3	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
	4	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
P12	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2	10YR3/4 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
	3	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
P13	2	10YR4/4 褐色埴土	10YR5/6 黄褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり 地山ブロック微量
	3	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/3 に近い黄褐色埴土5%混状	硬質、粘性あり
P14	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
P15	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2	10YR4/4 褐色埴土	10YR5/6 黄褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり 地山ブロック微量
	3	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土20%混状	硬質、粘性あり
P16	1	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	2	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
P17	2	10YR3/4 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり
	3	10YR3/3 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色埴土5%混状	硬質、粘性あり
	4	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
P18	2	10YR4/2 に近い黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
	3	10YR3/3 暗褐色埴土	10YR3/2 黒褐色埴土5%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	4	10YR5/4 に近い黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
P19	3	10YR3/4 に近い黄褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
	4	10YR3/4 に近い黄褐色埴土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物微量
	5	10YR4/4 褐色埴土	10YR5/4 に近い黄褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
	6	10YR3/4 暗褐色埴土	10YR4/6 褐色埴土20%混状	硬質、粘性あり
P20	2	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR6/8 黄褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 地山ブロック
	3	10YR4/3 に近い黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
	4	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土1%混状	硬質、粘性あり
P21	1	10YR3/4 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物少量
	2	10YR3/2 黒褐色埴土	10YR4/6 褐色埴土5%混状	硬質、粘性あり
	3	10YR3/4 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色砂壤土20%混状	硬質、粘性あり 地山ブロック
P22	2	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり
	3	10YR4/4 褐色埴土	10YR4/3 に近い黄褐色砂壤土5%混状	硬質、粘性あり
	4	10YR4/3 に近い黄褐色埴土	10YR3/4 暗褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり
P23	1	10YR3/4 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色砂壤土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物少量
	2	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土20%混状	硬質、粘性あり
P24	1	10YR3/4 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物少量
P25	1	10YR3/4 暗褐色埴土	10YR4/4 褐色埴土10%混状	硬質、粘性あり 炭化物少量
	2	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土20%混状	硬質、粘性あり
P26	1	10YR3/3 暗褐色埴土	10YR3/4 暗褐色埴土5%混状	硬質、粘性あり
	2	10YR2/3 黒褐色埴土	10YR4	

47

13号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径60cm、短径50cm、深さ15cm

14号ピット (第38・40・42図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径20cm、深さ20cm、出土遺物：1層から縄文土器（胴部破片）1点図示

15号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径50cm、深さ16cm

16号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整楕円形
規模：長径70cm、短径40cm、深さ10cm

17号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整円形
規模：径50cm、深さ21cm

18号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径80cm、短径50cm、深さ10cm

19号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整楕円形
規模：長径75cm、短径60cm、深さ23cm

20号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径60cm、深さ32cm

21号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径65cm、短径50cm、深さ16cm

22号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径60cm、短径55cm、深さ38cm

23号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整楕円形
規模：長径50cm、短径40cm、深さ11cm

24号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整円形
規模：長径45cm、短径30cm、深さ7cm

25号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整円形
規模：長径65cm、短径60cm、深さ18cm

26号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径35cm、深さ14cm

27号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径10cm、深さ8cm

28号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径85cm、短径35cm、深さ9cm

29号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径35cm、深さ20cm

30号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径40cm、深さ18cm

31号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整楕円形
規模：長径35cm、短径40cm、深さ20cm

32号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径40cm、短径30cm、深さ13cm

33号ピット (第38・40・42図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径35cm、深さ32cm、出土遺物：縄文土器（胴部破片）1点図示

34号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整楕円形
規模：長径70cm、短径45cm、深さ37cm

35号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区北部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径50cm、短径30cm、深さ12cm

36号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区北部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径25cm、深さ20cm

37号ピット (第38・40・43図)

検出位置：調査区東部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整楕円形
規模：長径70cm、短径60cm、深さ45cm、出土遺物：1層から石器（搔器）1点図示、片面に自然面が残存

38号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区北部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径30cm、深さ12cm

39号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区北部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径55cm、短径45cm、深さ29cm

40号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区西部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径50cm、短径35cm、深さ12cm

41号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区西部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整楕円形
規模：長径80cm、短径50cm、深さ10cm

42号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区西部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径70cm、深さ15cm

43号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区西部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：不整楕円形
規模：長径50cm、短径30cm、深さ20cm

44号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区西部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径90cm、短径60cm、深さ20cm

45号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区西部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径60cm、短径30cm、深さ18cm

46号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区西部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径40cm、短径25cm、深さ10cm

47号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区南部、遺構検出面：地山面、重複遺構：3号土坑、平面形：楕円形
規模：長径45cm、短径30cm、深さ28cm

48号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区北部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形
規模：長径60cm、短径45cm、深さ15cm

49号ピット (第38・40図)

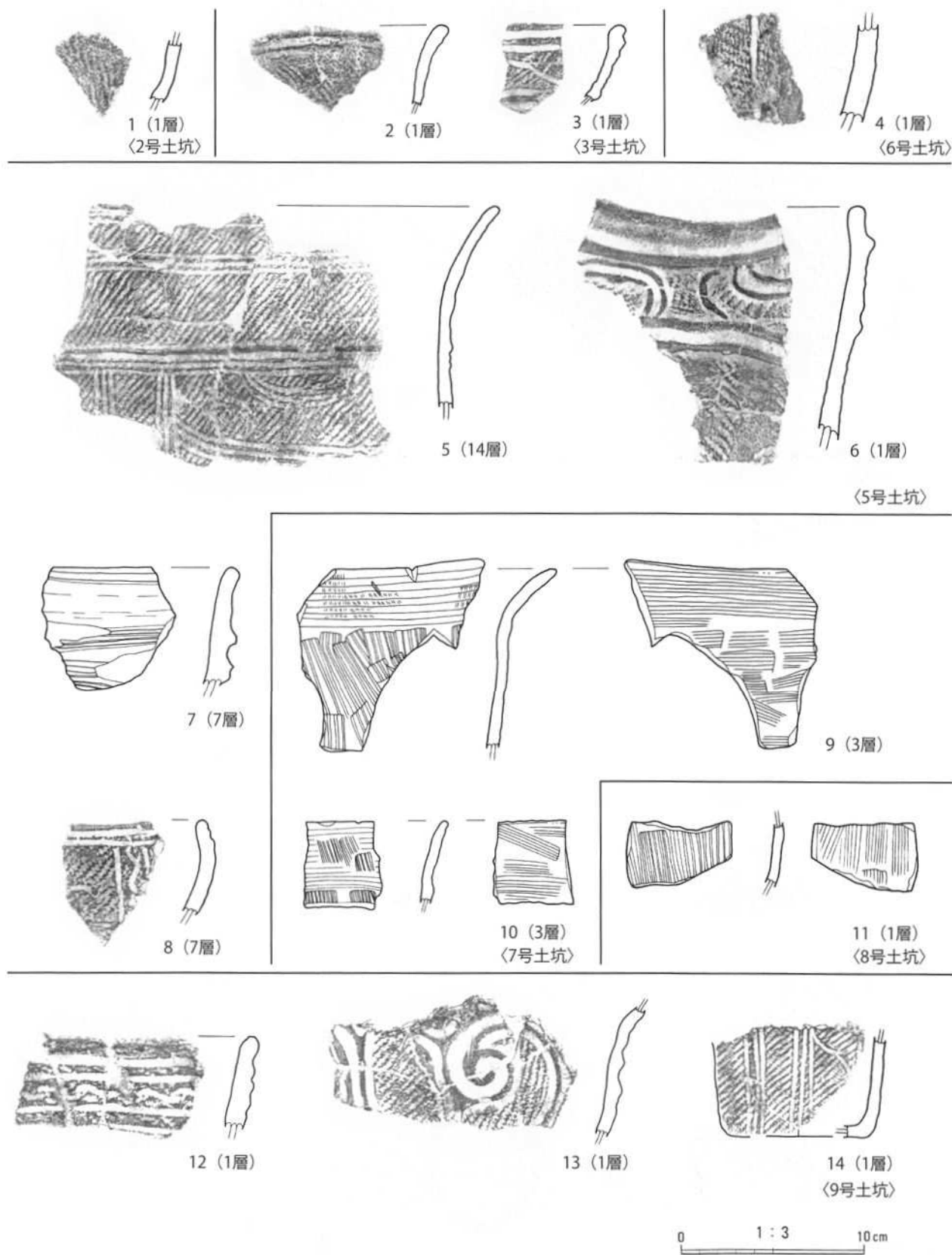
検出位置：調査区北部、遺構検出面：地山面、重複遺構：5号竪穴住居跡、平面形：円形
規模：径20cm、深さ14cm

50号ピット (第38・40図)

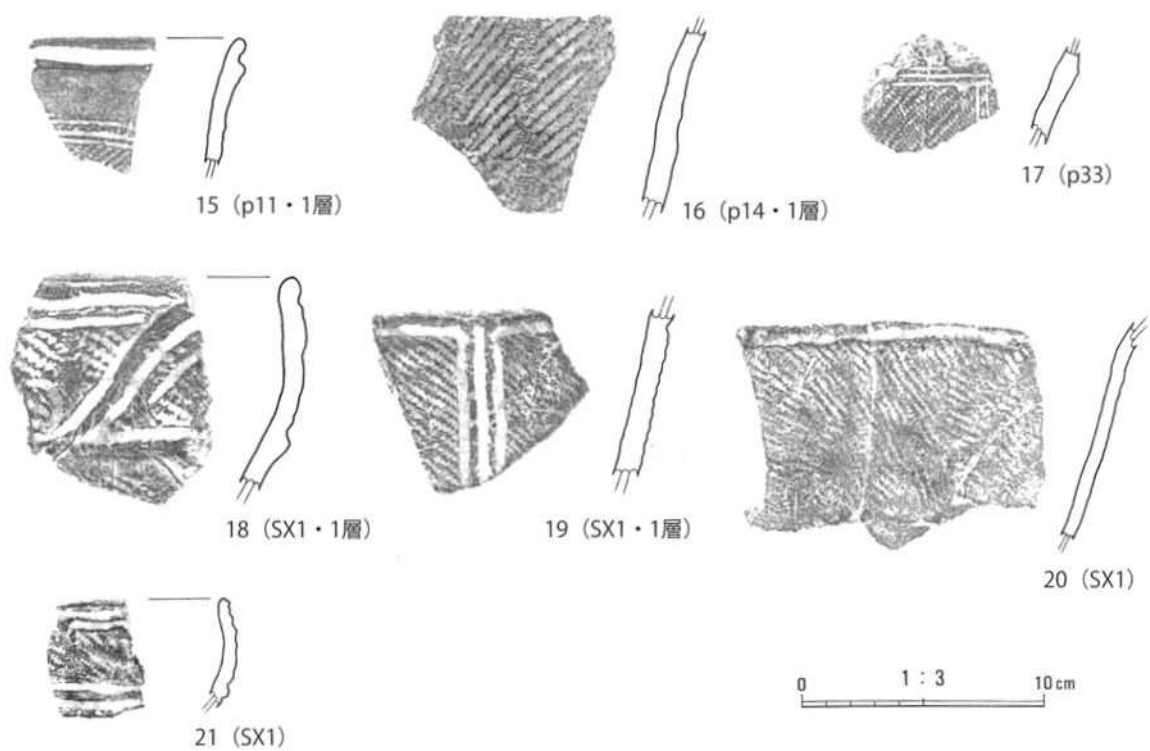
検出位置：調査区北部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：円形
規模：径30cm、深さ17cm

51号ピット (第38・40図)

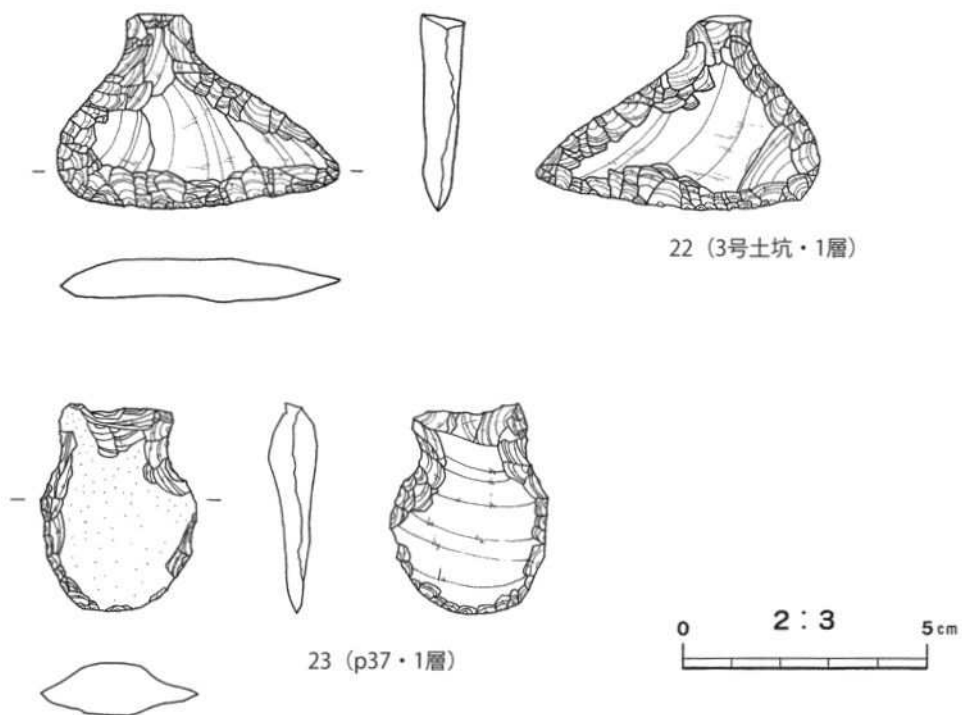
検出位置：調査区北部、遺構検出面：地山面、重複遺構：9号土坑、平面形：円形
規模：径30cm、深さ15cm



第41図 土坑・ピット 出土遺物 (1)



第42図 土坑・ピット 出土遺物 (2)



第43図 土坑・ピット 出土遺物 (3)

52号ピット (第38・40図)

検出位置：調査区北部、遺構検出面：地山面、重複遺構：なし、平面形：楕円形

規模：長径50cm、短径40cm、深さ18cm

SX1 (不明遺構)は調査区南部で検出されている(第38・42図)。当初、土坑・ピットとして精査を行ったが、壁の立ち上がりや堆積土に人為的な要素がみられなかったため、SX1として番号を付し、遺物のみを取り上げた。縄文土器を4点図示している。第42図18・21は口縁部破片で、沈線で区画された文様がみられる。第42図19・20は胴部破片である。

第3節 遺構外出土遺物 (第45～48図、写真図版95・96・105・107・109)

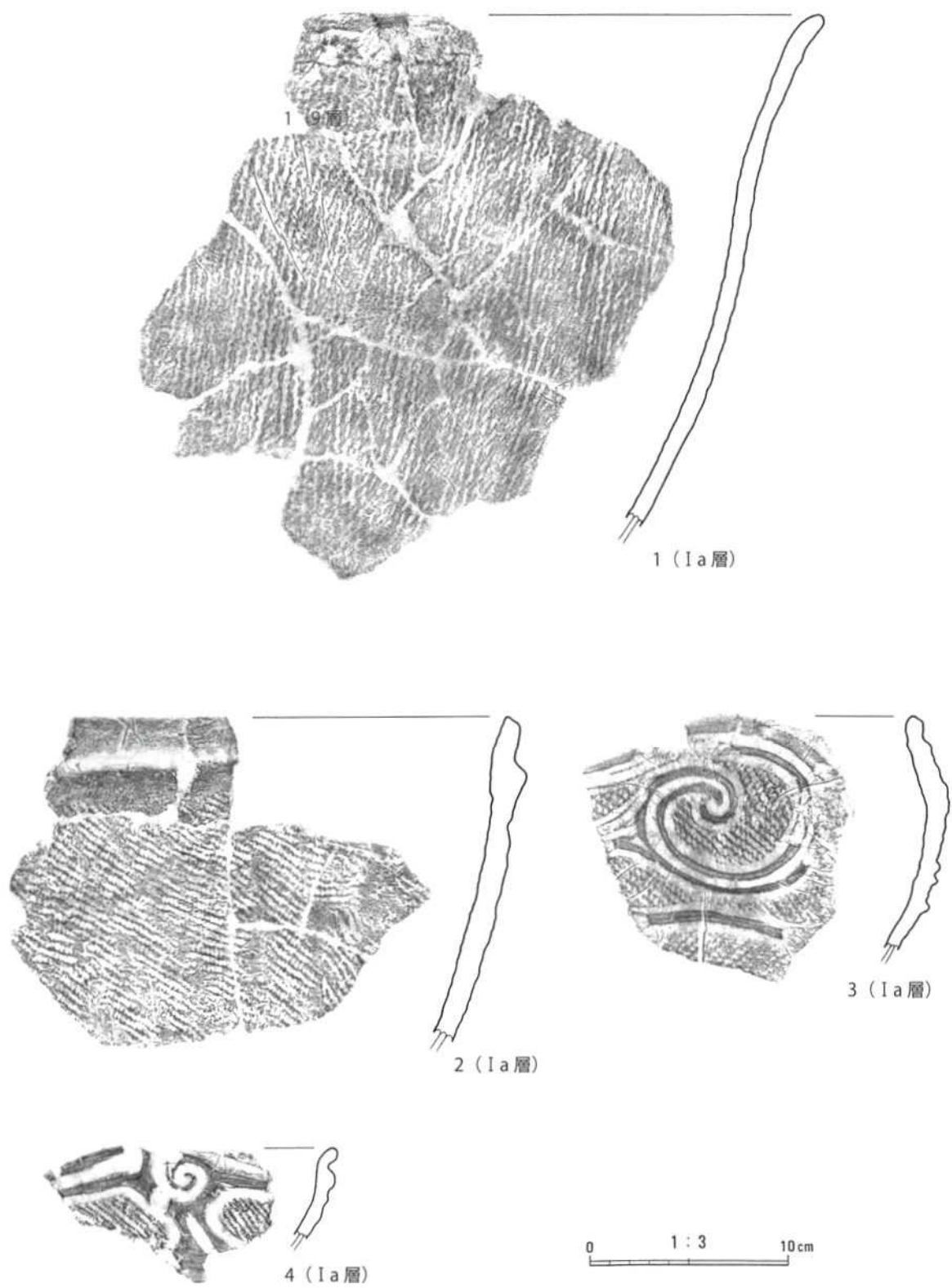
本調査区(C区)の遺構外から出土した遺物は大きく表土層であるIa層からの出土と堆積土であるIII層からの出土に分けられる。ともに遺物包含層の様相は呈しておらず、後世において混入した遺物と考えられる。ここでは縄文土器10点、石器4点を図示している。

第45図1・2は口縁部から胴部にかけて残存し、第45図1は縦方向の撚糸文が施文されている。第45図2はLR単節縄文が施文されている。第45図3・4は口縁部破片で、ともに地文の上から隆帯と沈線により渦巻き文様が施されている。第46図5～8は口縁部破片で、隆帯と沈線により横方向や渦巻きの文様を作り出している。第46図9・10は胴部破片で、隆帯による渦巻き文様と沈線による縦・横方向の文様がみられる。

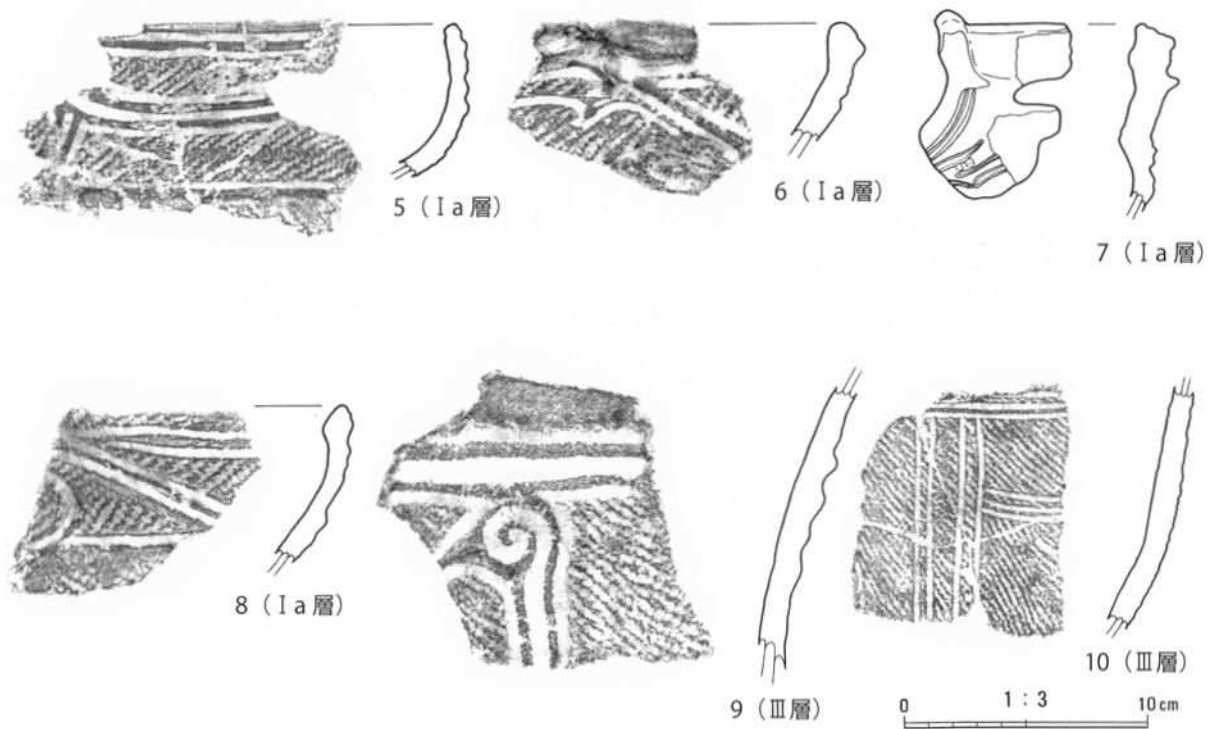
第47図11・12は搔器で、一次剥離面は両面とも大きく残しているが、縁辺部は細かな調整剥離が施され、刃部を作り出している。第48図13はくぼみ石で、片面に大きくくぼんだ箇所が観察される。第48図14は磨石で、1面にのみ機能面が確認される。



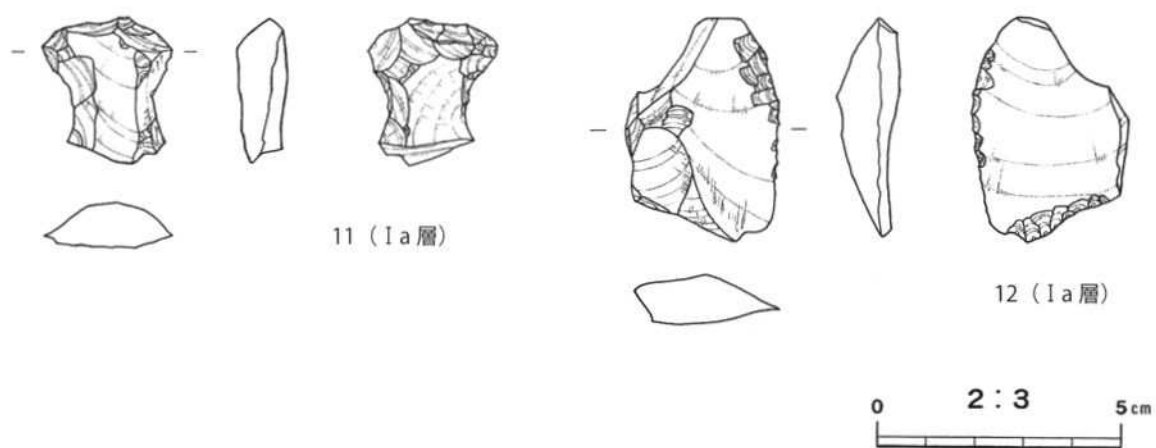
第44図 土坑・ピット 出土遺物 (4)



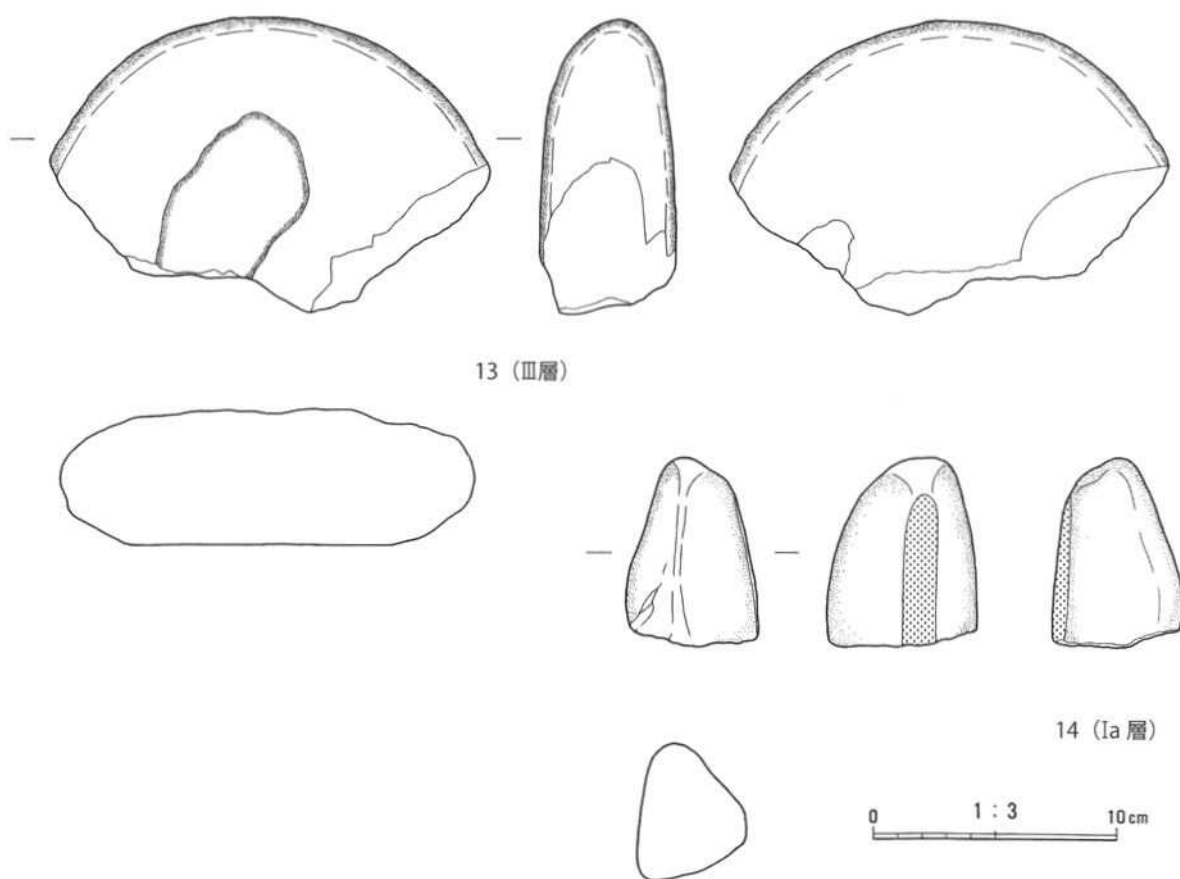
第 45 図 遺構外出土遺物 (1)



第46図 遺構外出土遺物 (2)



第47図 遺構外出土遺物 (3)



第 48 図 遺構外出土遺物 (4)

第5章 検出された遺構と遺物（内容確認調査区：A区・B区）

内容確認調査区（A区・B区）は、第1章のとおり掘削が遺構面に到達しない地点において実施し、調査面積は約720㎡である。調査の結果、竪穴住居跡7棟（縄文時代中期後半代）、縄文時代前期～中期の遺物包含層、土坑、ピットが検出され、調査後は埋め戻しを行った。

第1節 竪穴住居跡

内容確認調査区において、竪穴住居跡は7棟検出している。全てB区で確認しているが、内容確認調査のため、各竪穴住居跡ではサブトレンチを設定し、部分的に床面及び炉跡の確認などを行った。

縄文時代・古代・中世と各時代の竪穴住居跡が混在していた本調査区（C区）とは異なり、7棟とも縄文時代中期の竪穴住居跡と考えられる。

B1号竪穴住居跡（第52・53・54図、写真図版68・69・71、105・106）

B1号竪穴住居跡は調査区北部で検出され、遺構検出面は表土層であるI x層を除去した面である。重複関係により、B2号竪穴住居跡よりも新しいが、B5号・B7号竪穴住居跡よりも古い。

平面形は円形を呈し、サブトレンチで確認した東壁の立ち上がりは層厚23cmで、緩やかに立ち上がる。規模は東西（3.8）m、南北（3.2）mを測り、西壁・北壁は重複関係により壊されている。

堆積土はA1層～A4層の4層に分けられる。A1層・A4層は東西セクションでのみ確認し、一方、A2層・A3層は竪穴住居全域に堆積している。

石囲炉はほぼ中央とされる位置でサブトレンチにより確認している。規模は東西0.7m、南北0.8mで、花崗岩の礫の一部は被熱により粉々になっている。ピットはサブトレンチにより一部確認されたが、精査は行っていない。

遺物は縄文土器・石器が出土し、石器2点を図示している。第54図1は縁辺部に調整剥離がみられるが、欠損している部分がある。石鏃と考えられるが詳細は不明である。第54図2は磨製石斧で、刃部のみ残存している。

本遺構の所属時期は堆積土や炉の形態などから縄文時代中期と考えられる。

B2号竪穴住居跡（第50・52図、写真図版68・69）

B2号竪穴住居跡は調査区北部で検出され、遺構検出面は表土層であるI x層を除去した面である。重複関係により、B1号・B5号・B7号竪穴住居跡よりも古い。

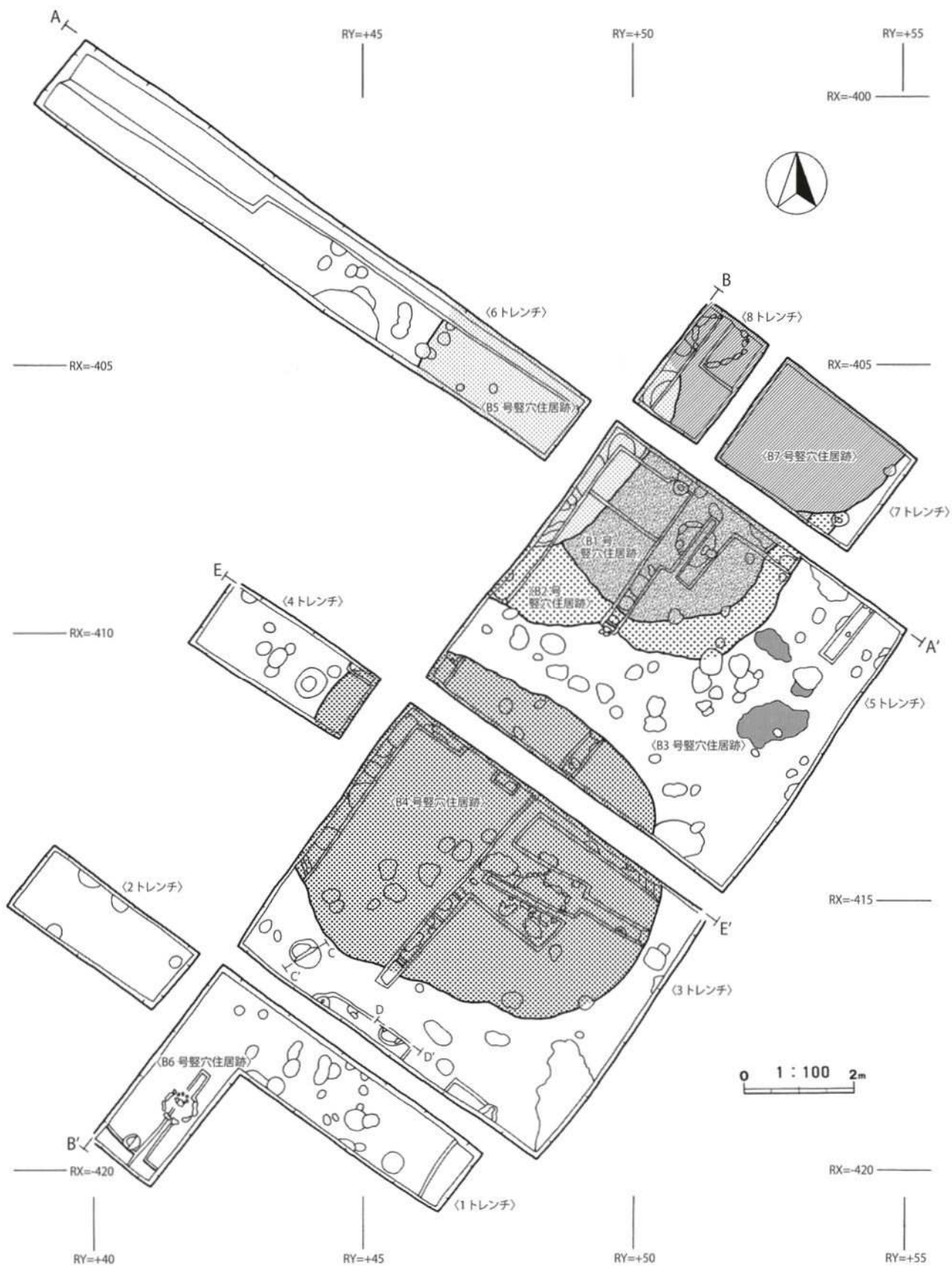
平面形は不整な円形を呈し、東壁と南壁のサブトレンチで壁の立ち上がりを確認している。壁の立ち上がりは約18cmで、緩やかに立ち上がる。規模は東西（4.8）m、南北（3.8）mと推定され、B1号竪穴住居跡との重複関係により、中央部の大部分が壊されており、炉跡も確認できなかった。

堆積土はA1'層～A3'層の3層に分けられる。東壁の堆積状況ではレンズ状に堆積しているのが確認されている。ピットはサブトレンチにより一部確認されたが、精査は行っていない。

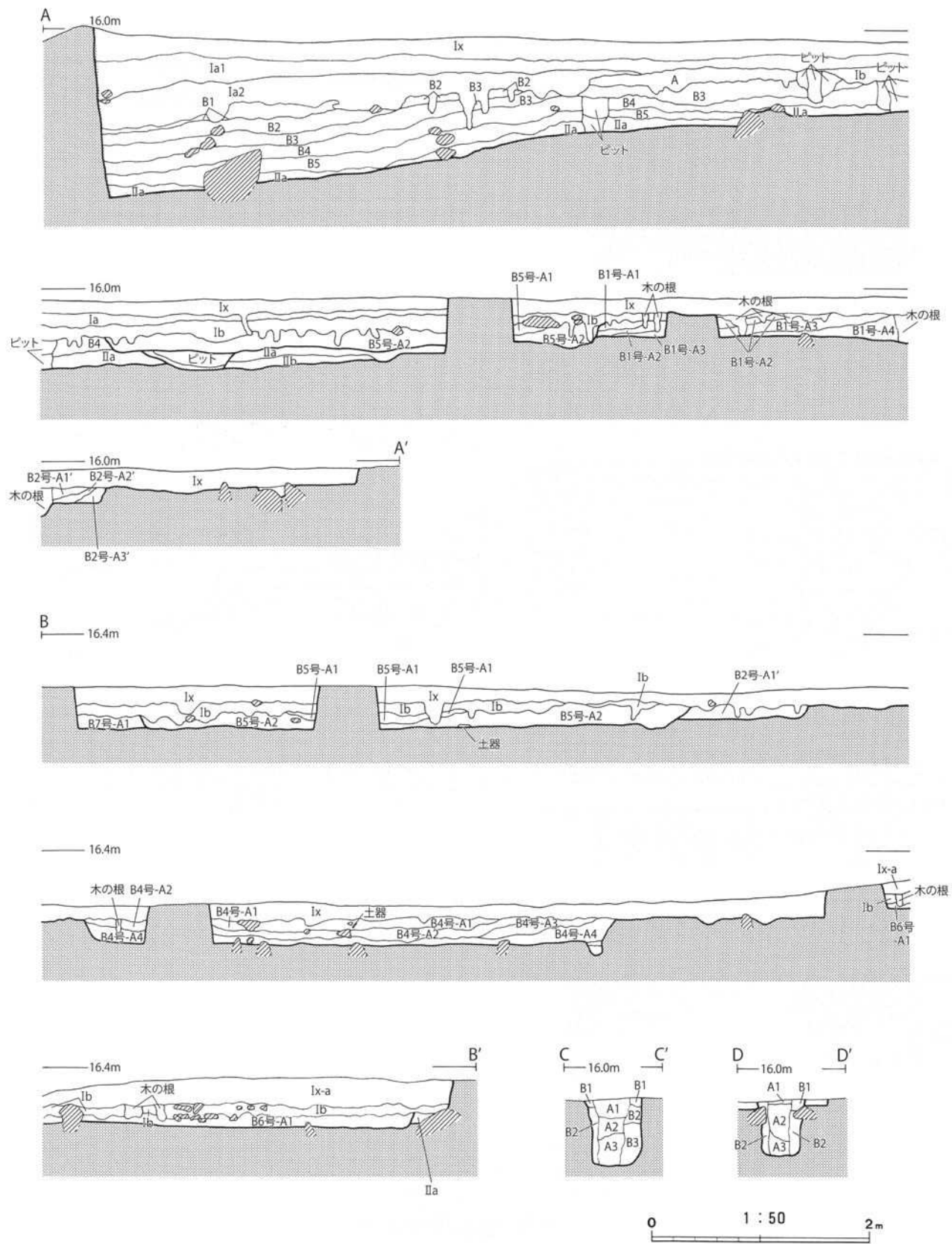
本遺構の大部分は重複関係により確認できなかったが、堆積土や竪穴住居の形態などから所属時期は縄文時代中期と推測される。

B3号竪穴住居跡（第49・52図、写真図版68～70）

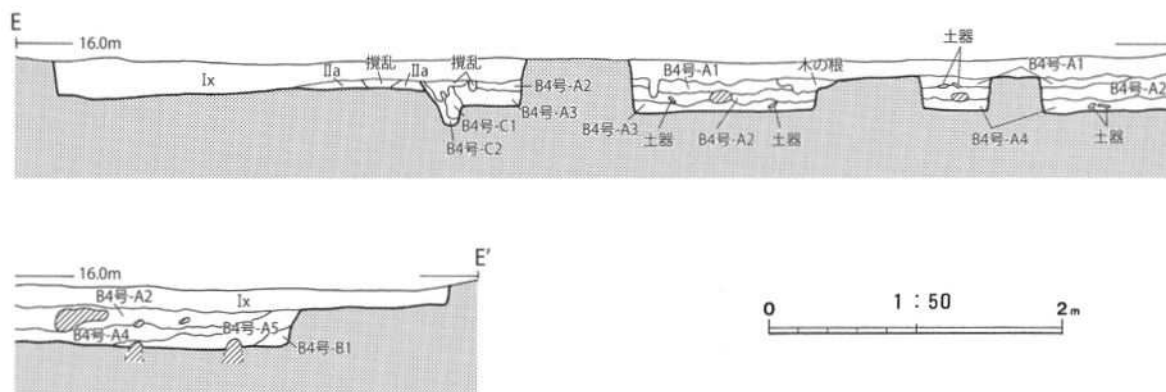
B3号竪穴住居跡は調査区北部で検出され、遺構検出面は表土層であるI x層を除去した面である。



第 49 図 B 区 遺構配置図



第 50 図 B 区 調査区断面図 (1)



内容確認調査区(B区) 基本土層 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
Ix-a	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり
Ix	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり
Ia1	10YR3/2 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり
Ia2	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり
Ib	10YR2/1 黒色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり
IIa	10YR3/4 暗褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり
IIb	7.5YR4/6 褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり

B区 C-C'ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
A1	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A2	10YR3/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土40%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A3	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり
B1	10YR3/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり
B2	10YR3/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土40%粉状	やや硬質、粘性ややあり
B3	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土10%粉状	やや硬質、粘性ややあり

B区 D-D'ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
A1	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土10%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A2	10YR3/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土10%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A3	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり
B1	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり
B2	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり

B区 遺物包含層 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
A1	10YR3/1 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり
B1	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり スコリア散在
B2	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり スコリア散在
B3	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり スコリア散在
B4	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり スコリア散在
B5	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	—	やや硬質、粘性ややあり スコリア散在

B2号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
A1'	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質礫壤土10%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A2'	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A3'	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土	10YR4/6 褐色シルト質礫壤土20~40%粉状	やや硬質、粘性ややあり

B5号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
A1	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土10%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A2	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり

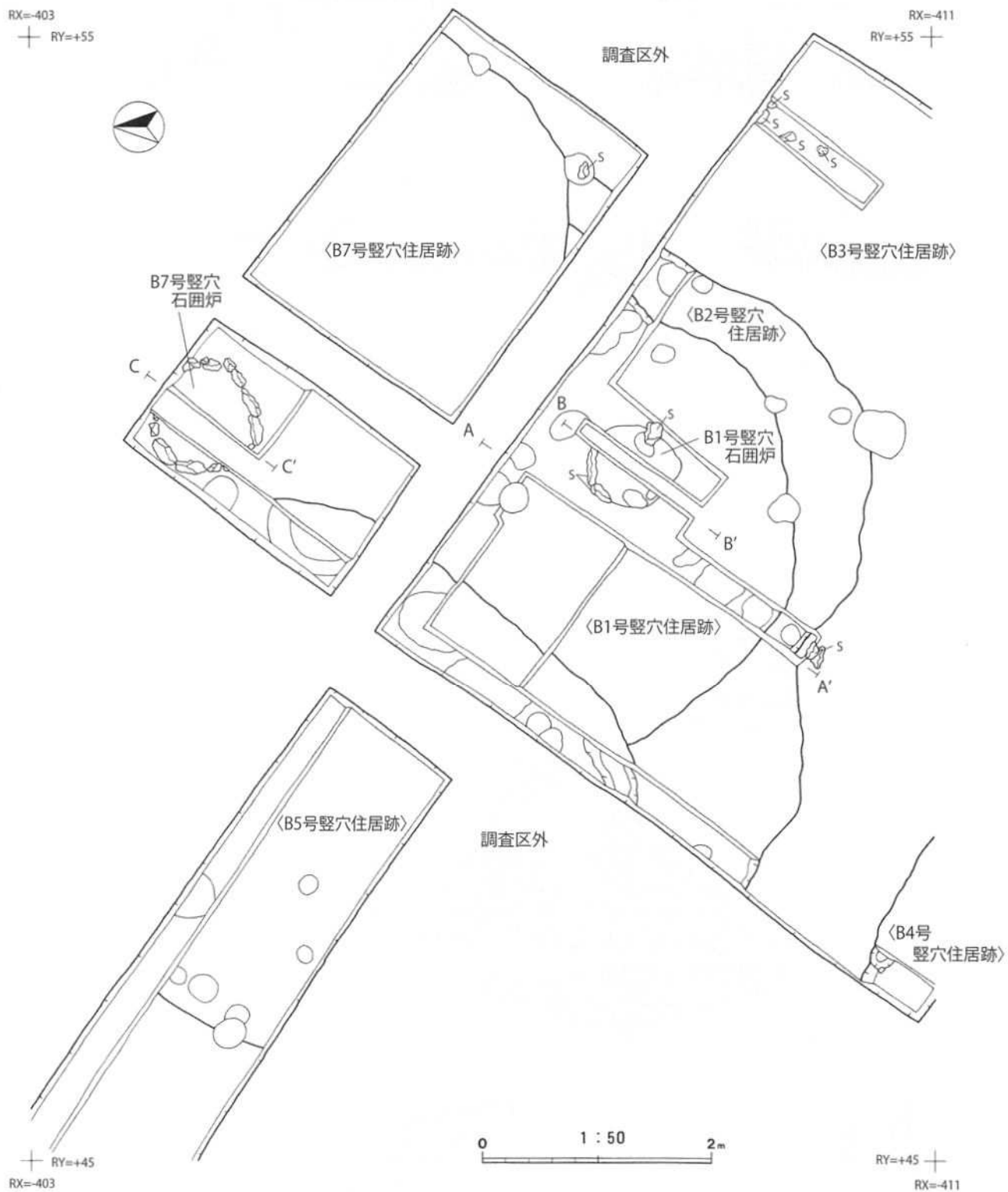
B6号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
A1	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A2	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり
B1	7.5YR3/4 暗褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり

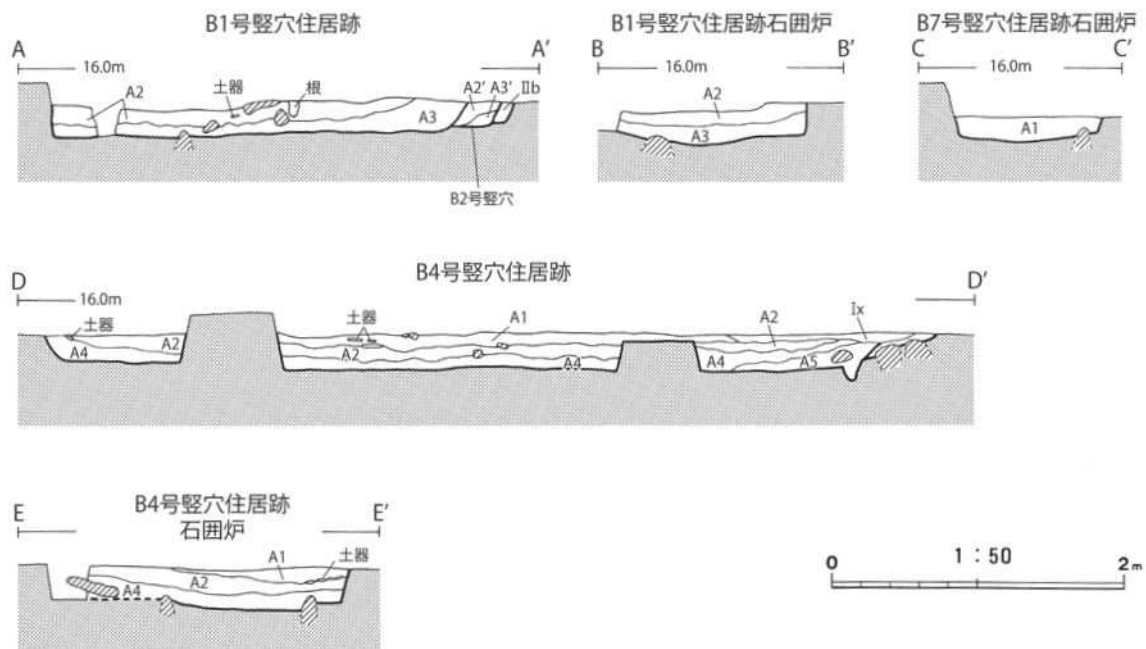
B6号竪穴住居跡 ピット 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
A1	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A2	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土40%粉状	やや硬質、粘性ややあり
A3	10YR2/2 黒褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり
B1	10YR4/4 褐色シルト質礫壤土	10YR3/2 暗褐色シルト質礫壤土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり

第51図 B区 調査区断面図(2)



第 52 図 B1～B3号・B5号・B7号竪穴住居跡 平面図



第 53 図 B1号・B4号・B7号竪穴住居跡 断面図

B1号竪穴住居跡 土層観察表

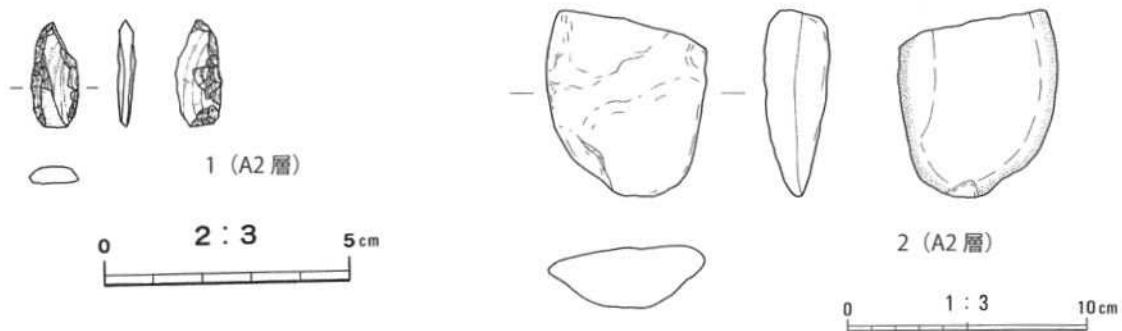
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
竪穴 埋土	A1 10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	A2 10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	A3 10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土40%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	A4 10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり

B4号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
竪穴 埋土	A1 10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	A2 10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	A3 10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土10%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	A4 10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	A5 10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土20%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	B1 10YR4/6 褐色シルト質堆積土	10YR2/3 黒褐色シルト質堆積土40%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	C1 10YR2/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり
	C2 10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR4/6 褐色シルト質堆積土40%粉状	やや硬質、粘性ややあり

B7号竪穴住居跡 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
竪穴 埋土	A1 10YR3/2 黒褐色シルト質堆積土	10YR3/3 暗褐色シルト質堆積土30%粉状	やや硬質、粘性ややあり



第 54 図 B1号竪穴住居跡 出土遺物

重複関係は明確な堆積土を確認していないため、不明である。

多数のピット・焼土が検出されているが、平面形・規模・堆積土は不明である。

ピットはB 2号竪穴住居跡とB 4号竪穴住居跡の間で検出されているが、ピット間の重複関係もあり、竪穴住居跡に伴うピットの判断はできなかった。

焼土はB 2号竪穴住居跡の検出位置の東側で3箇所確認され、規模は長軸1.3m／短軸0.7m、長軸0.8m／短軸0.4m、長軸0.4m／短軸0.2mである。本遺構に伴うと判断できる遺物はなかった。

本遺構の所属時期は、ピット・焼土の状況から周辺で検出されている竪穴住居跡と同じく縄文時代中期と考えられる。

B 4号竪穴住居跡（第53・55～61図、写真図版68・74～77、97～99・105・109）

B 4号竪穴住居跡は調査区中央部で検出され、遺構検出面は表土層であるI x層を除去した面である。位置関係からB 3号竪穴住居跡と重複していると考えられるが、B 4号竪穴住居跡のプランの方が明確に確認されたため、本遺構の方が新しいと考えられる。

平面形はやや東西に長い円形を呈し、東西南北それぞれの壁の立ち上がりをサブトレンチで確認している。東壁では約25cmで緩やかに立ち上がる。さらに深さ約10cmの周溝を東壁・南壁で確認している。

規模は東西6.7m、南北6.4mを測り、A 1層中において深鉢の縄文土器がつぶれた状態で2個体出土している。

堆積土はA 1層～A 5層に分けられ、さらに周溝の堆積土でB 1層・C 1層を確認している。A 4層は竪穴住居跡の全域に堆積しており、他の土層もレンズ状に堆積しているため、人為的な堆積ではなく、廃絶後に自然に堆積したものと思われる。

石囲炉は検出範囲のやや東寄りでサブトレンチによって確認された。やや東西に長い方形を呈しており、長軸は1.0m、短軸は0.7mである。周辺には縄文土器や大型の礫などが多数出土している。

ピットはサブトレンチ内において、多数確認しているが、精査を行っていないため、竪穴住居跡に伴うかは不明である。

遺物は縄文土器・石器が出土し、縄文土器は9点、石器は2点図示している。第57図1は大型の深鉢で、一部ではあるが口縁部から底部まで残存している。第58図2は深鉢の口縁部破片で、横方向の隆帯の下部には地文であるLR単節縄文が施文されている。第58図3はキャリパー形の深鉢の口縁部破片で、LR複節縄文の地文の上に、隆帯で渦巻き文様が施文されている。第58図4・5は深鉢の口縁部破片で、LR単節縄文及びRLR複節縄文の地文の上に、隆帯や沈線で渦巻き文様が施文されている。第58図6は口縁部から胴部にかけての破片で、LR単節縄文の地文が施文されている。第58図7はLR単節縄文の地文の上から沈線で横方向や半円の文様が施されている。第59図8は口縁部の大きく開いた球胴形の形態をもち、RL単節縄文の地文の上に渦巻き文様がみられる。第59図9は深鉢の胴部破片で、撚糸文の地文と縦方向に連結した沈線が施文されている。

第60・61図は石器である。第60図10は石皿で、約1/4が残存していると考えられる。中央部が擂鉢状にくぼむ使用面が確認される。第61図11は搔器で、「く」字状に屈曲した形態をもち、両面の縁辺部に調整剥離がみられる。背面には一次剥離面が大きく残る。

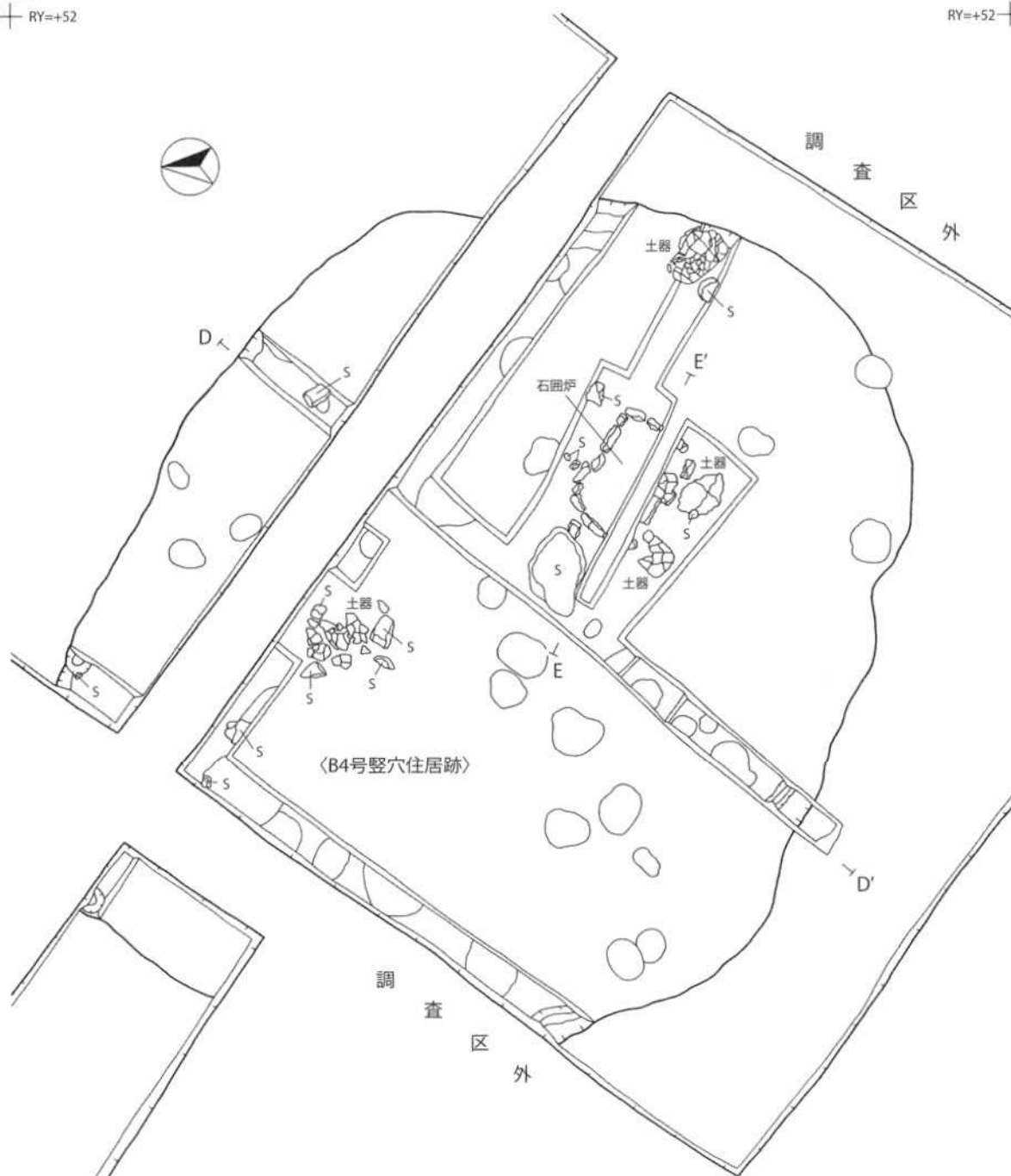
本遺構の所属時期は、出土遺物や石囲炉の形態などから縄文時代中期後半、大木8b式期と考えられる。

B 5号竪穴住居跡（第50～52図、写真図版67）

B 5号竪穴住居跡は調査区北部で検出され、遺構検出面は表土層であるI b層を除去した面である。

RX=-410
+ RY=+52

RX=-418
RY=+52 +

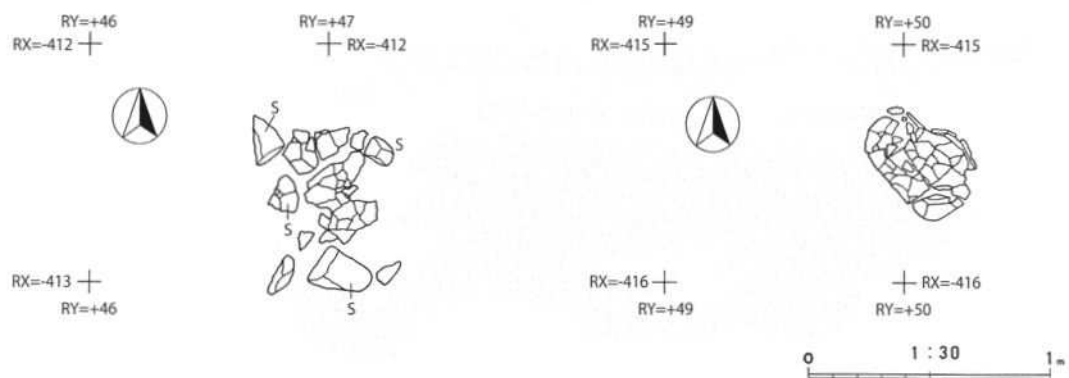


+ RY=+42
RX=-410

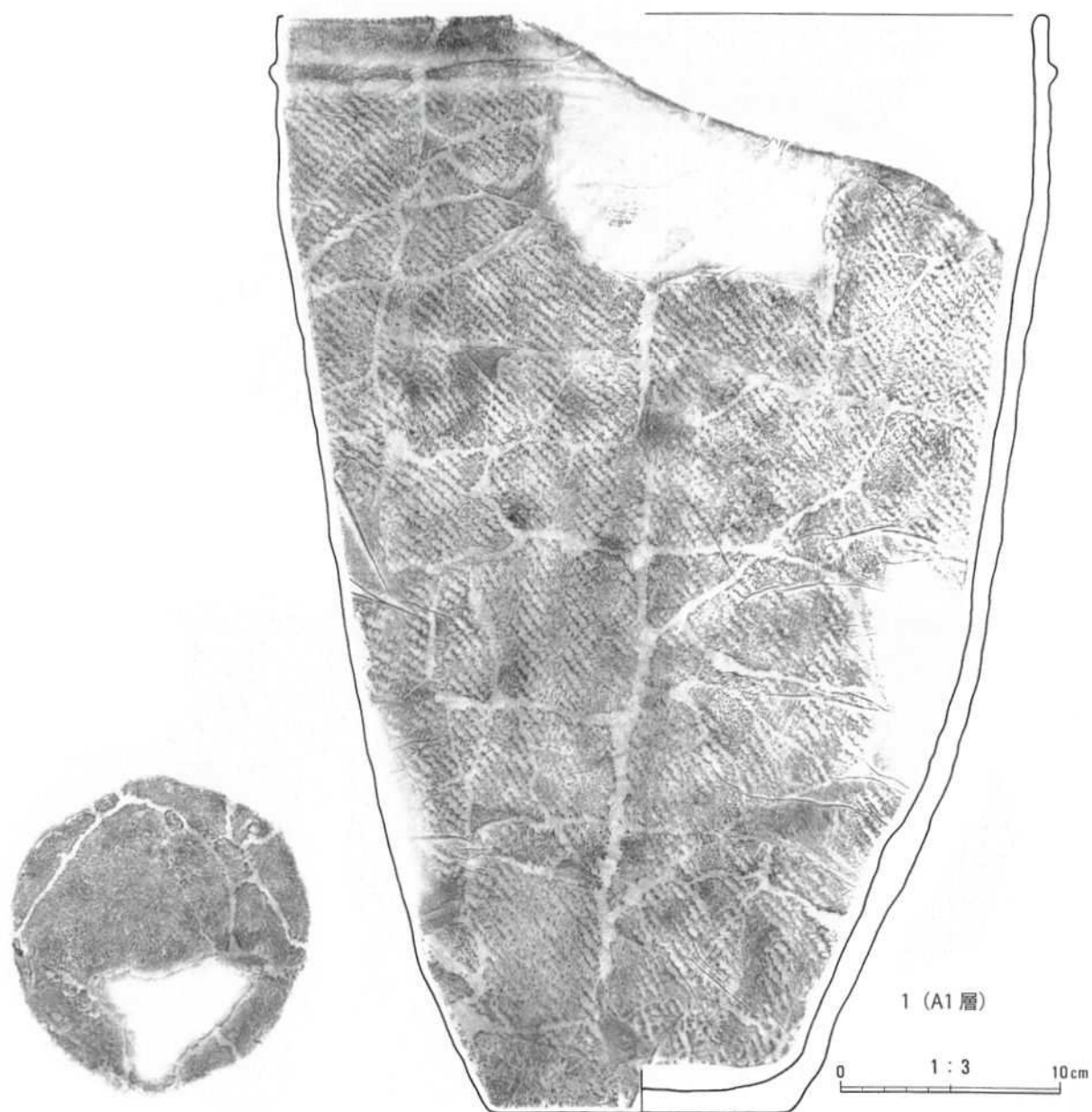
RY=+42 +
RX=-418

0 1 : 50 2m

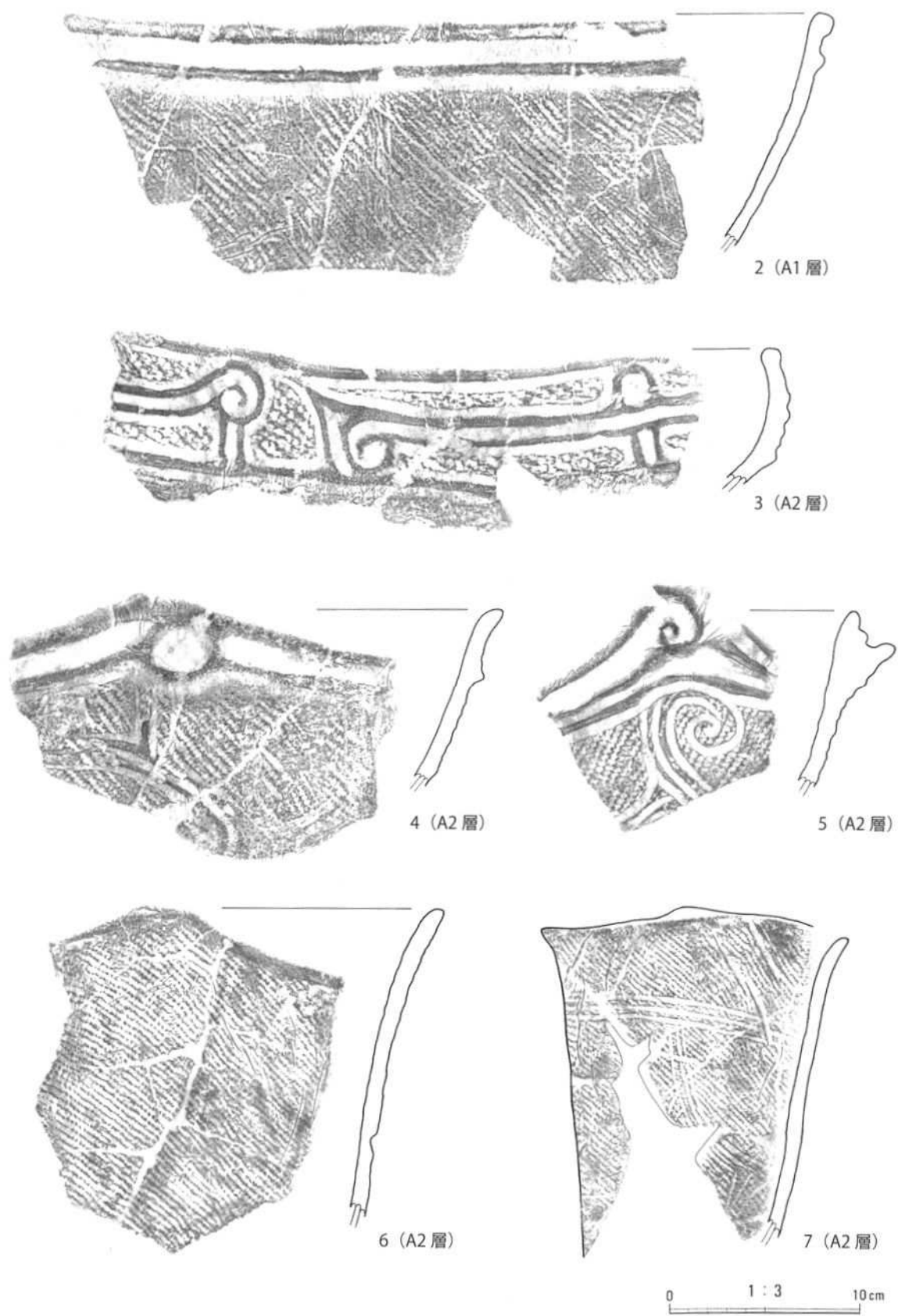
第 55 図 B4号竪穴住居跡 平面図



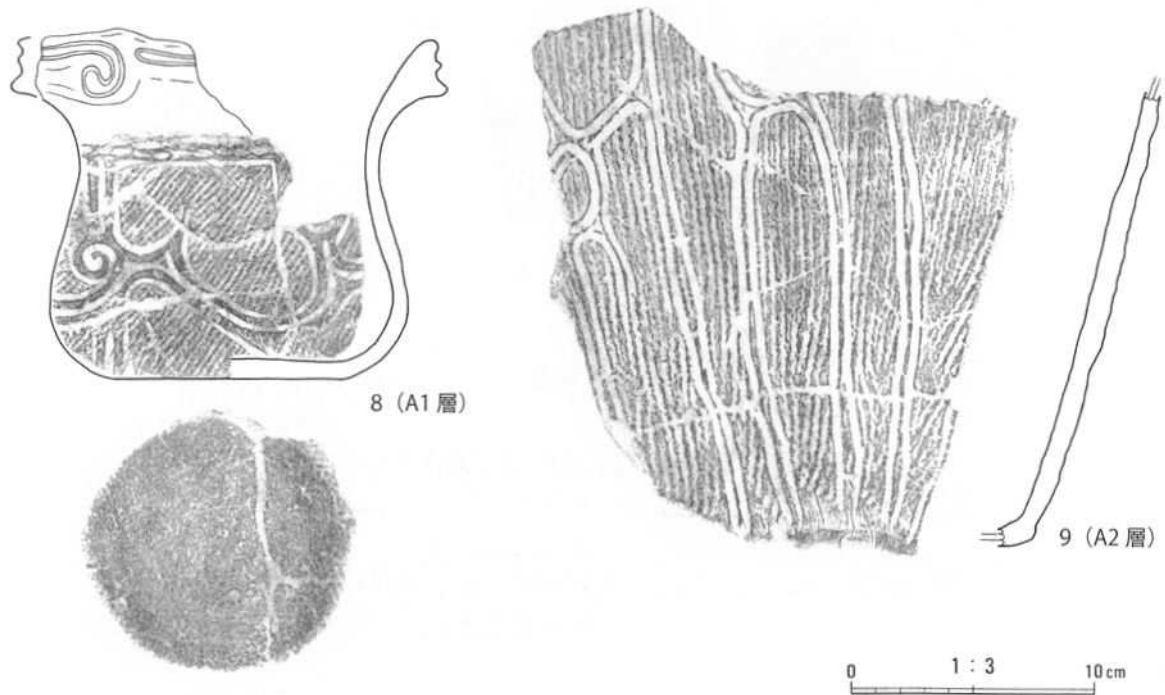
第 56 图 B4号竖穴住居跡 土器出土平面图



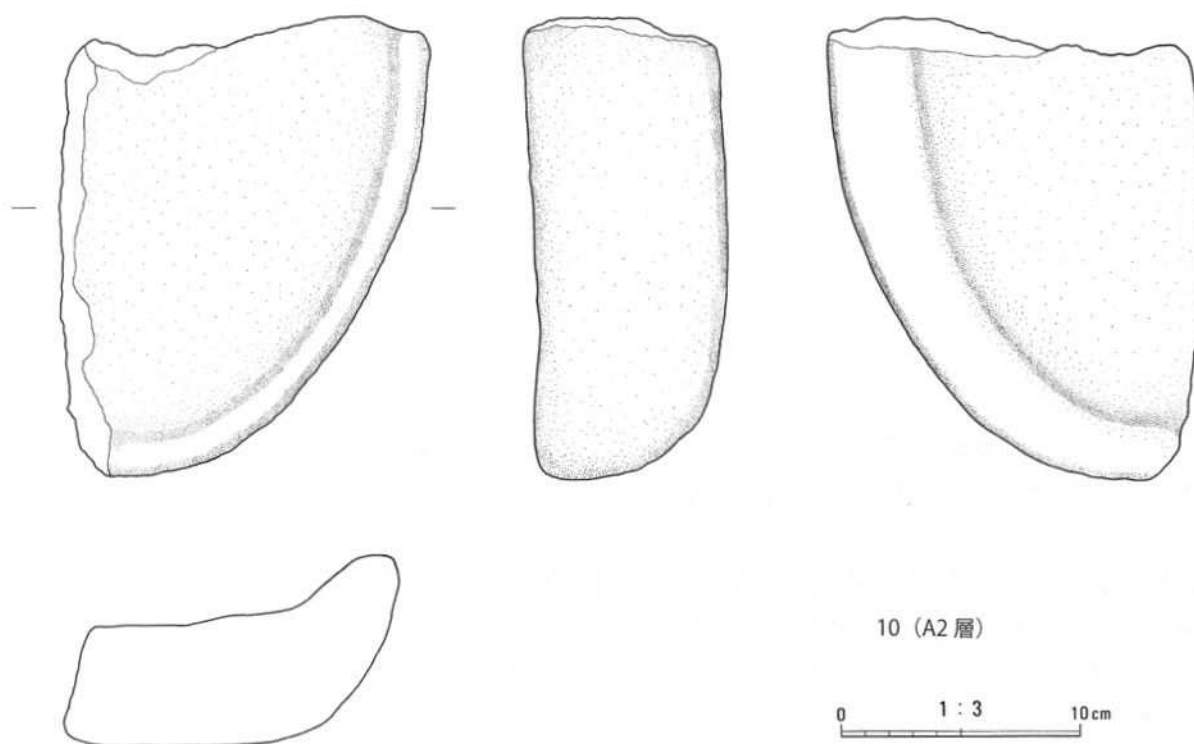
第 57 图 B4号竖穴住居跡 出土遺物 (1)



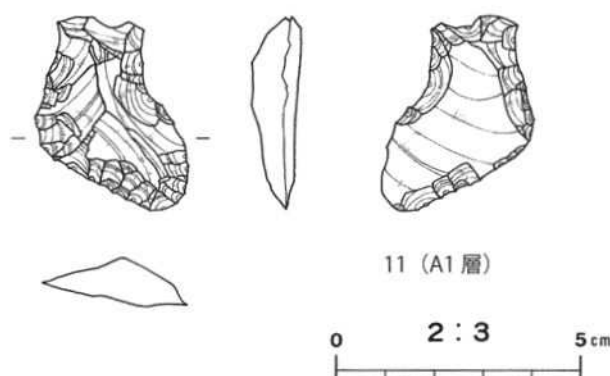
第 58 図 B4号竖穴住居跡 出土遺物 (2)



第 59 図 B4号竪穴住居跡 出土遺物 (3)



第 60 図 B4号竪穴住居跡 出土遺物 (4)



第 61 図 B4号竪穴住居跡 出土遺物 (5)

B 1 号・B 2 号・B 7 号竪穴住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。内容確認調査のため、東壁及び西壁の一部のみを検出している。

平面形は円形を呈すると考えられる。規模は東西(4.8)m、南北(3.3)mを測り、確認された東壁の立ち上がりは約15cmである。壁は緩やかに立ち上がる。サブトレンチの範囲内では炉跡や焼土などは検出されなかった。

堆積土はA 1 層・A 2 層に分けられる。A 1 層は一部にのみ堆積し、A 2 層は竪穴住居跡全域に堆積している。ピットはサブトレンチで一部を検出しているが、精査は行っていない。

遺物は縄文土器が出土しているが、小破片のため図示していない。

本遺構の所属時期は、出土遺物や堆積土の性質などから、縄文時代中期と考えられる。

B 6 号竪穴住居跡 (第50・62図、写真図版68・72・73)

B 6 号竪穴住居跡は調査区南部で検出され、遺構検出面は表土層である I b 層を除去した面である。重複関係については、南北トレンチの断面からは確認されなかった。

平面形は南壁のみの確認のため、詳細は不明であるが、円形を呈すると考えられる。北壁はトレンチベルトにより確認できず、東壁・西壁は調査区外に延びていると推測される。規模も不明であるが、南北3.6mの範囲のみ検出し、東西方向の広がり是不明である。南壁の立ち上がりは約10cmで、緩やかに立ち上がる。

堆積土はA 1 層のみ確認している。ピットは竪穴住居跡に伴うと判断される 1 基のみ検出している。南壁際で確認され、規模は径30cm、深さは50cmである。堆積土は 4 層に分けられ、断面形は柱穴の形態をもつ。

石囲炉は南壁から約90cmの地点で検出され、規模は径60cmである。堆積土は 1 層確認している。

遺物は縄文土器が出土しているが、小破片のため図示していない。

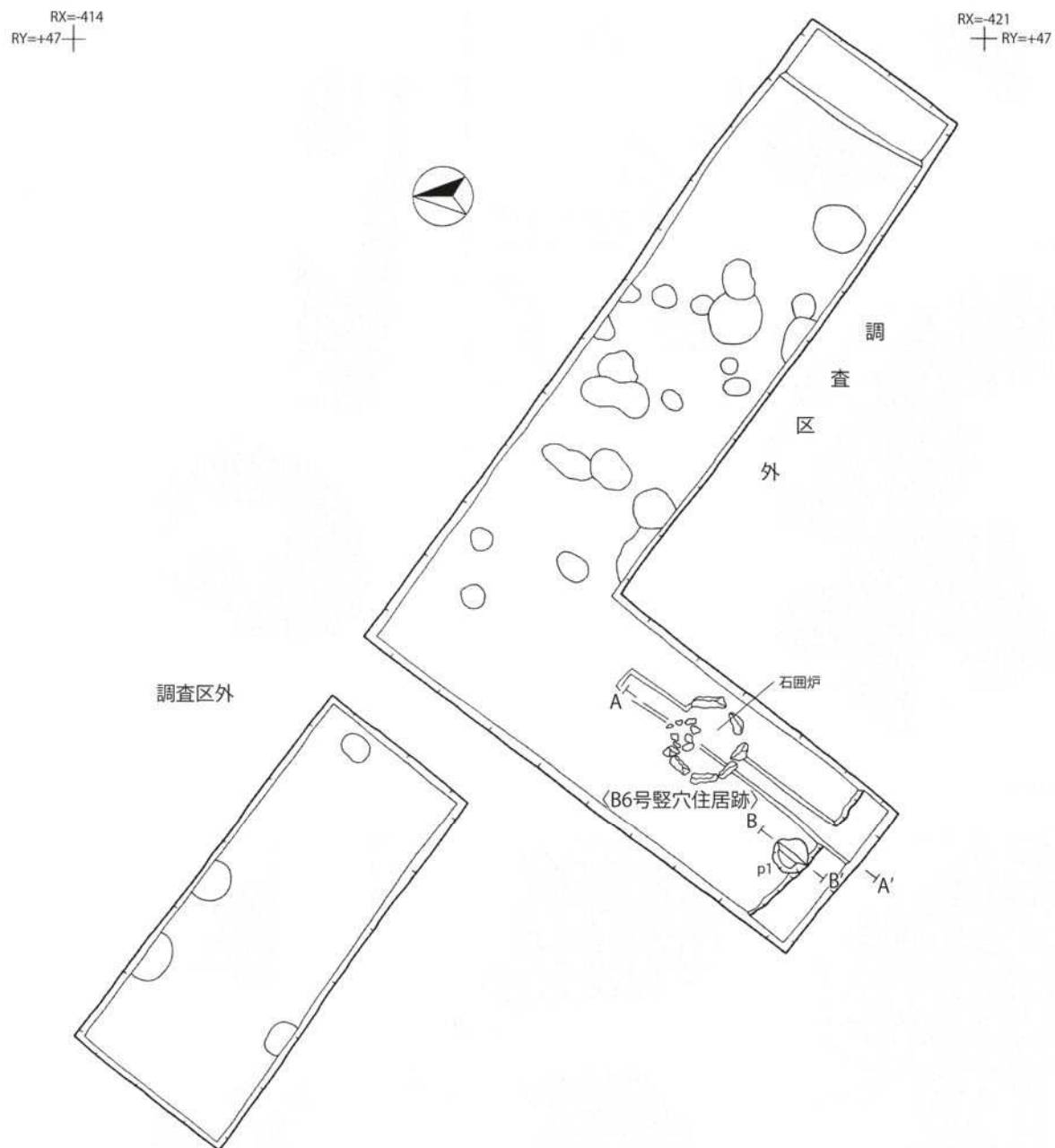
本遺構は平面形も不明瞭で出土遺物も少量であるが、その堆積土の性質や石囲炉が検出されていることなどから所属時期は縄文時代中期と推測される。

B 7 号竪穴住居跡 (第50・52・53図、写真図版67・78)

B 7 号竪穴住居跡は調査区北部で検出され、遺構検出面は表土層である I b 層を除去した面である。

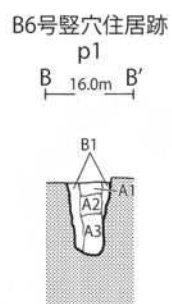
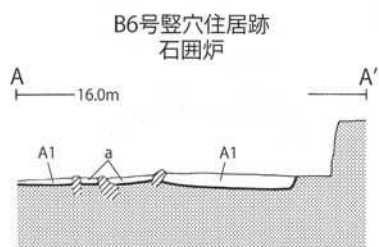
RX=-414
RY=+47

RX=-421
RY=+47



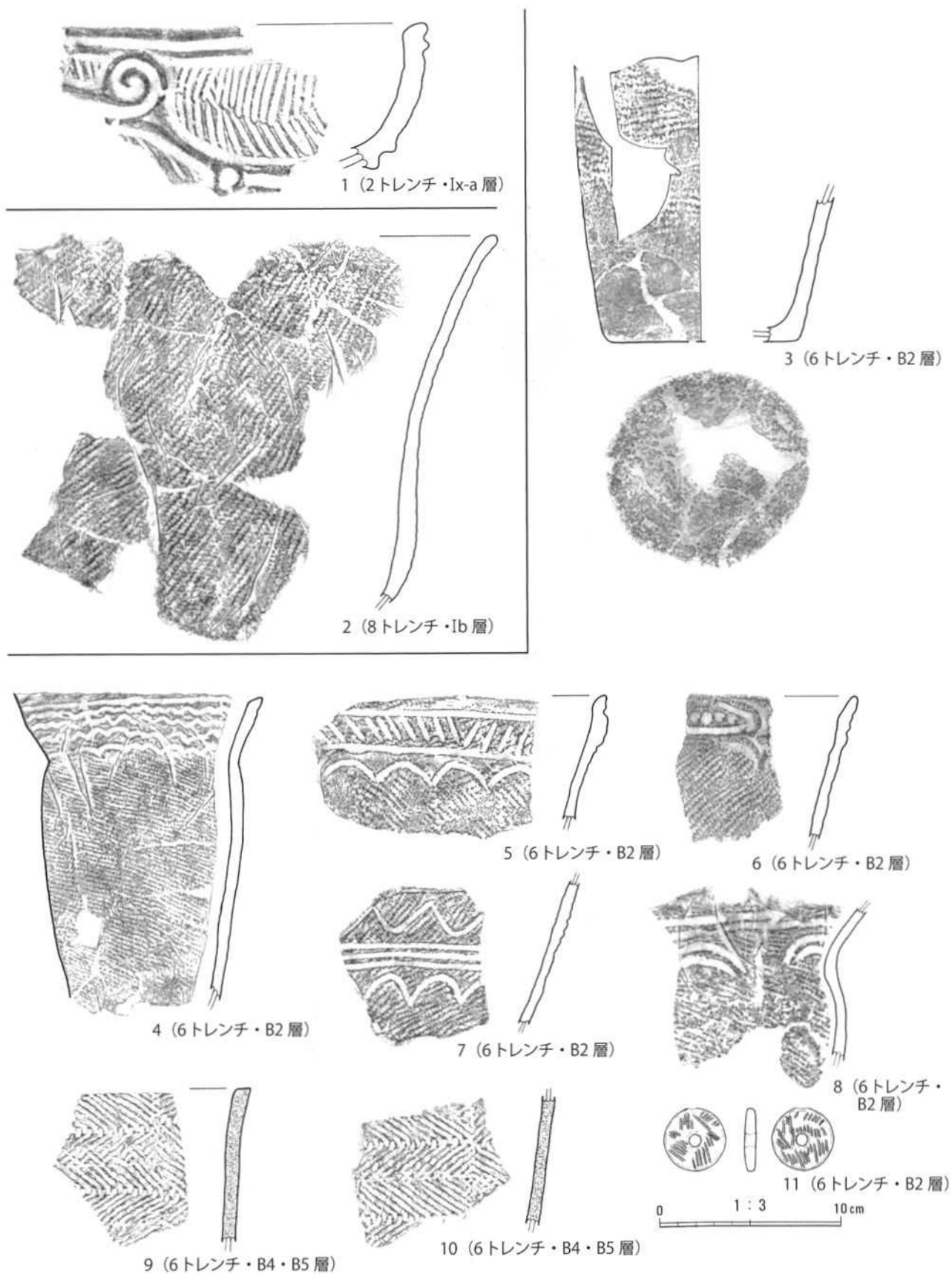
RY=+40
RX=-414

RY=+40
RX=-421

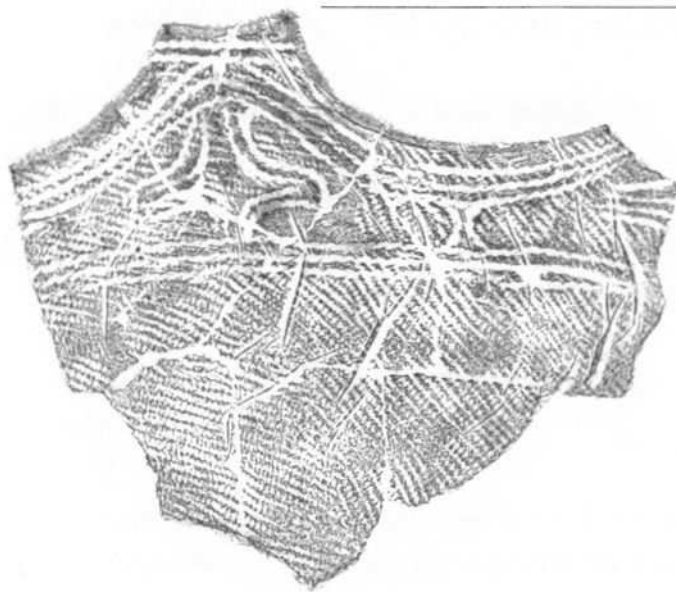


0 1 : 50 2m

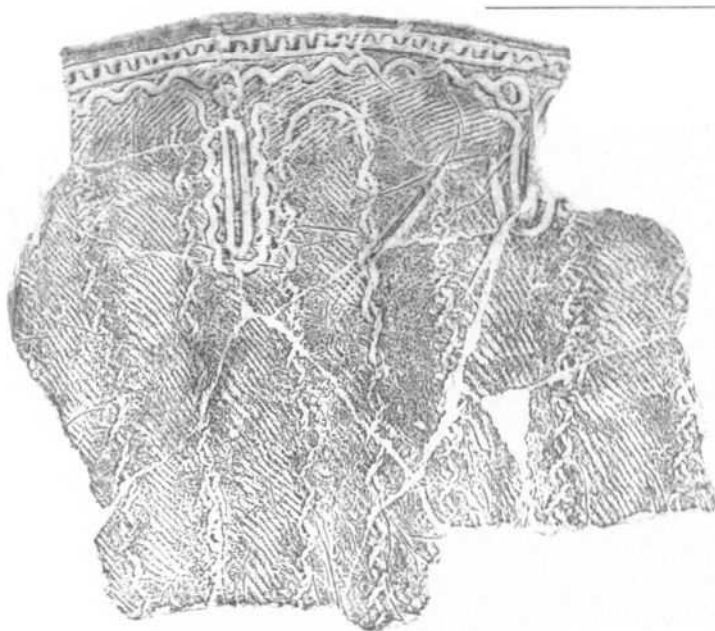
第 62 図 B6号竖穴住居跡 平面図



第63図 B区 出土遺物 (1)



12 (6 トレンチ・B2 層)



13 (6 トレンチ・B2 層)

0 1 : 3 10 cm

第 64 図 B区 出土遺物 (2)

重複関係は、B 5 号竪穴住居跡よりも古く、B 1 号・B 2 号竪穴住居跡よりも新しい。

平面形は東壁の形態から円形を呈すると推測される。壁の立ち上がりは検出のみであり不明である。規模は東壁から南北トレンチまでの4.7mを検出しているが、石囲炉の位置を考慮すると約8mの大型の竪穴住居が想定される。

堆積土はA 1 層のみを確認している。石囲炉は南北トレンチの壁際で検出され、規模は径1.0mで、A 1 層の堆積土を確認している。ピットは竪穴住居跡に伴うと判断されるものはなかった。

遺物は縄文土器が出土しているが、小破片のため図示していない。

本遺構は平面形も不明瞭で出土遺物も少量であるが、その堆積土の性質や石囲炉が検出されていることなどから所属時期は縄文時代中期と推測される。

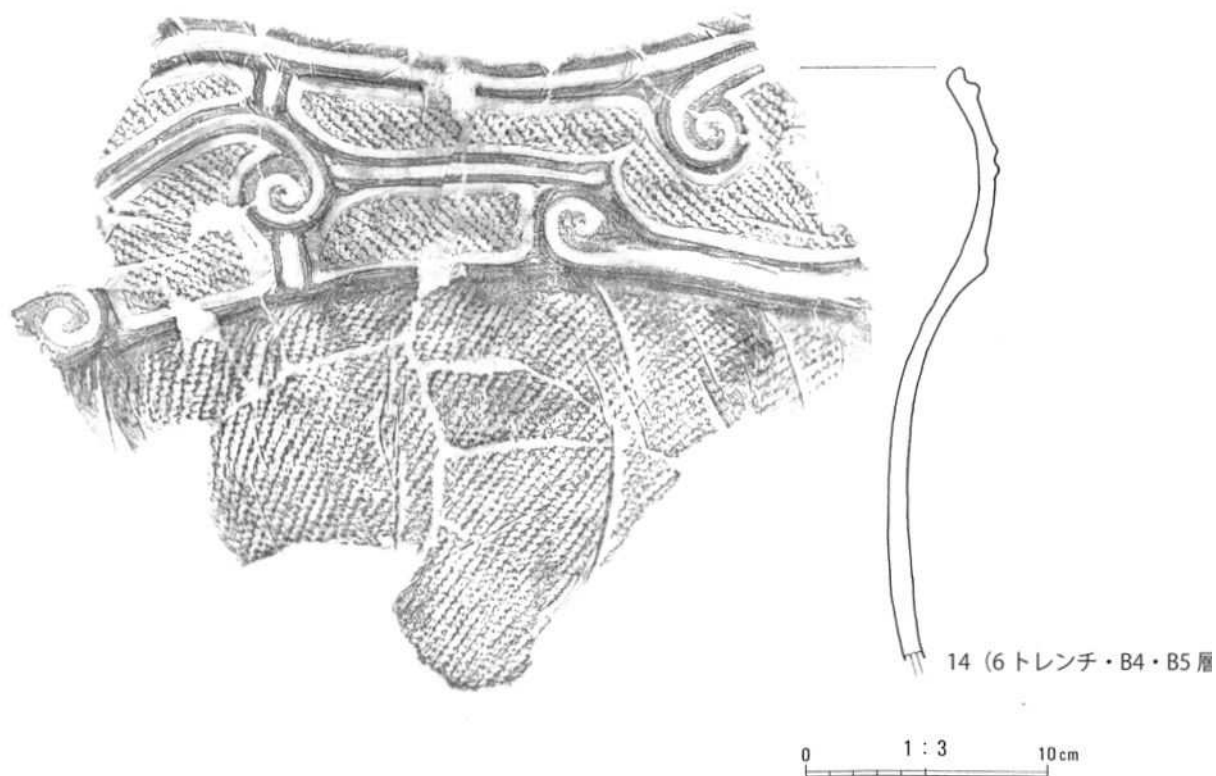
第2節 遺物包含層・A区トレンチ・遺構外出土遺物

(第50・63～76図、写真図版79～81・83～86・100～107・110)

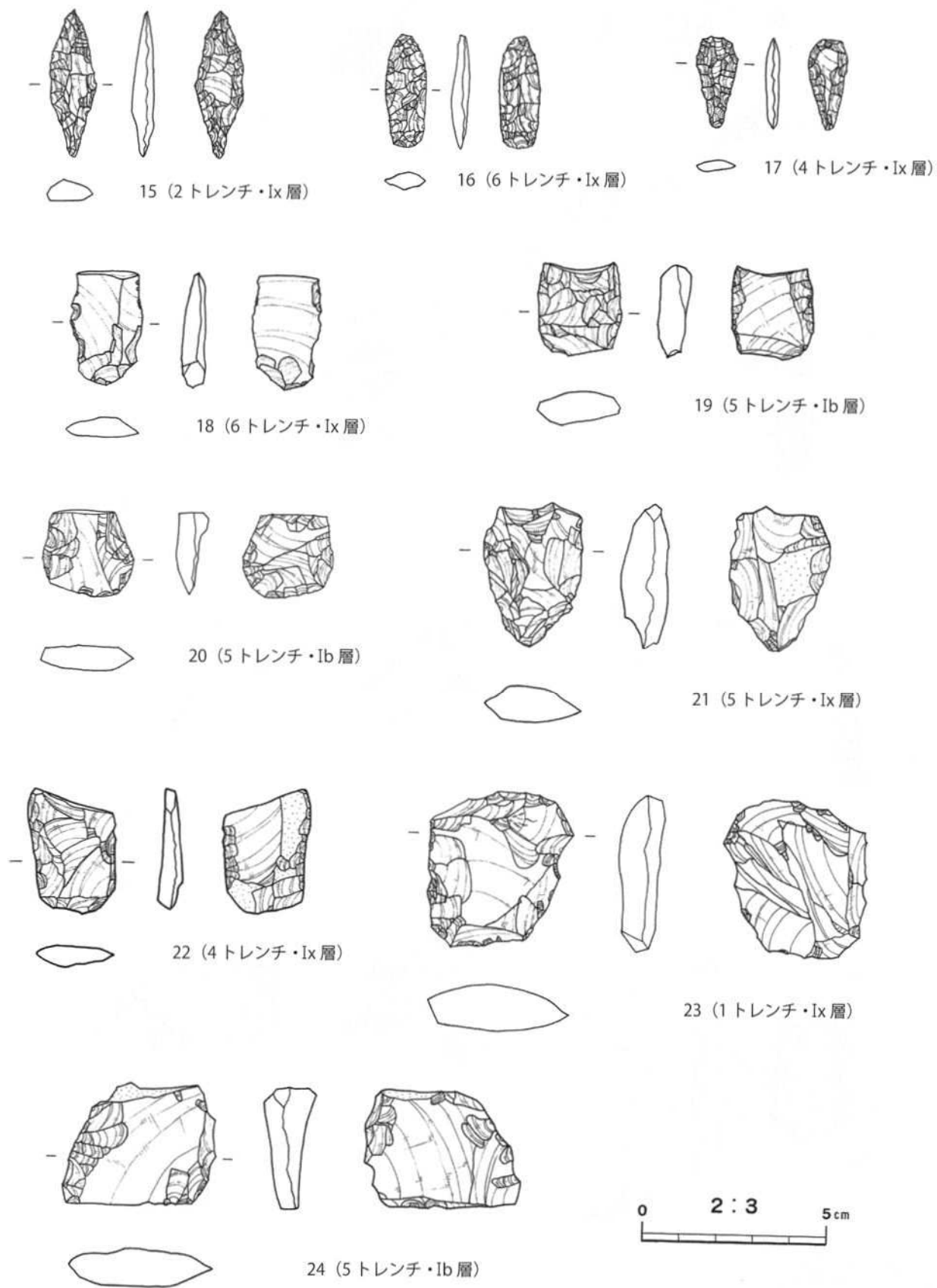
遺物包含層は内容確認調査区の中でもB区の西側からA区の試掘トレンチにかけて広範囲に確認された。B区における堆積状況の確認は第50図の調査区北部の東西トレンチ断面で行っている。

B区における遺物包含層の堆積土はB 1 層～B 5 層に細別される。調査区の西側に向かって次第に層厚が厚くなっていく傾向がみられた。さらに、B 2 層に縄文時代前期及び中期前半代の土器が集中して出土している。

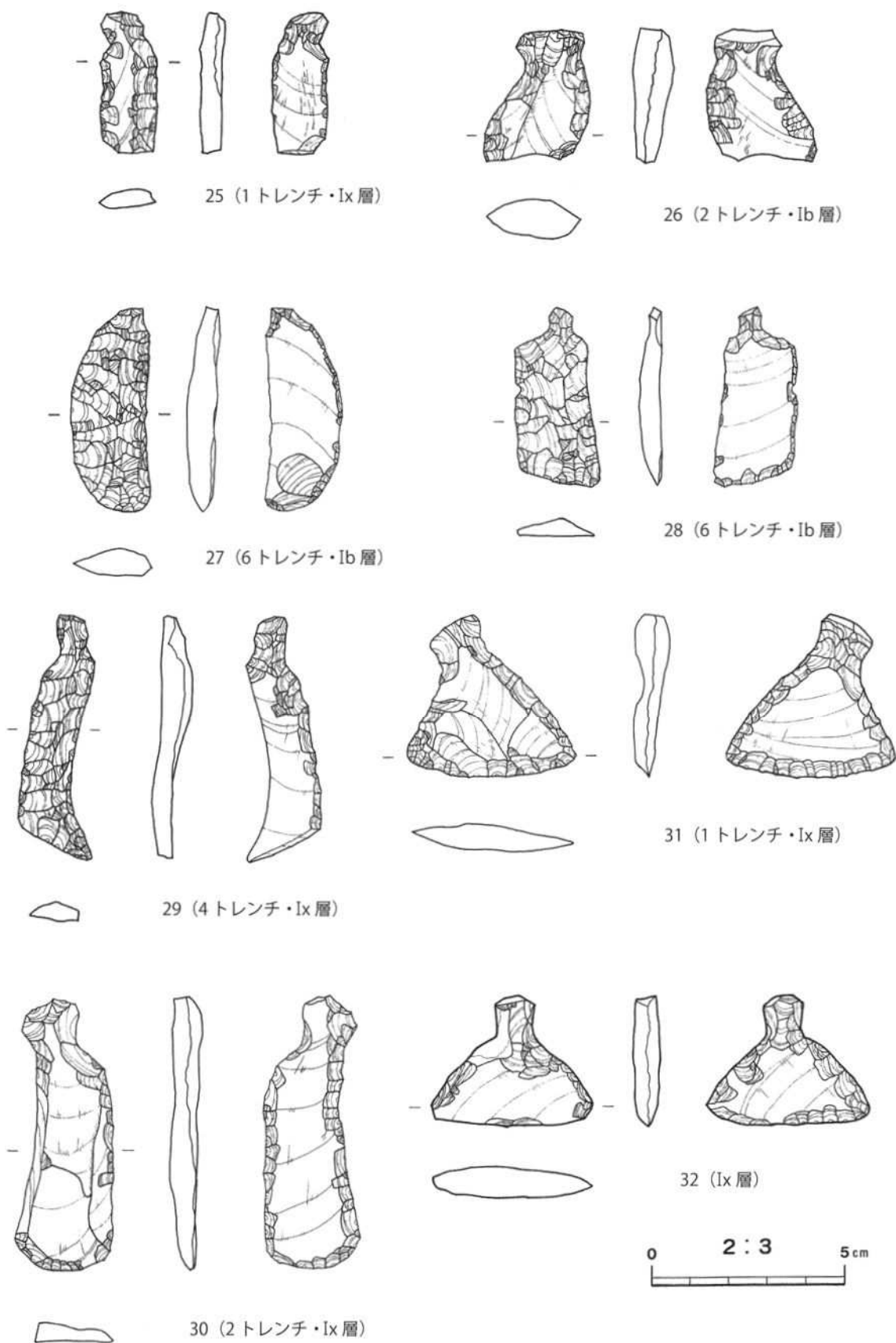
遺物は縄文土器・石器が出土しているが、ここでは遺物包含層出土の土器に含めて内容確認調査区(B区)から出土した竪穴住居跡に伴わない遺物も合わせて掲載している。第63図3から第65図14ま



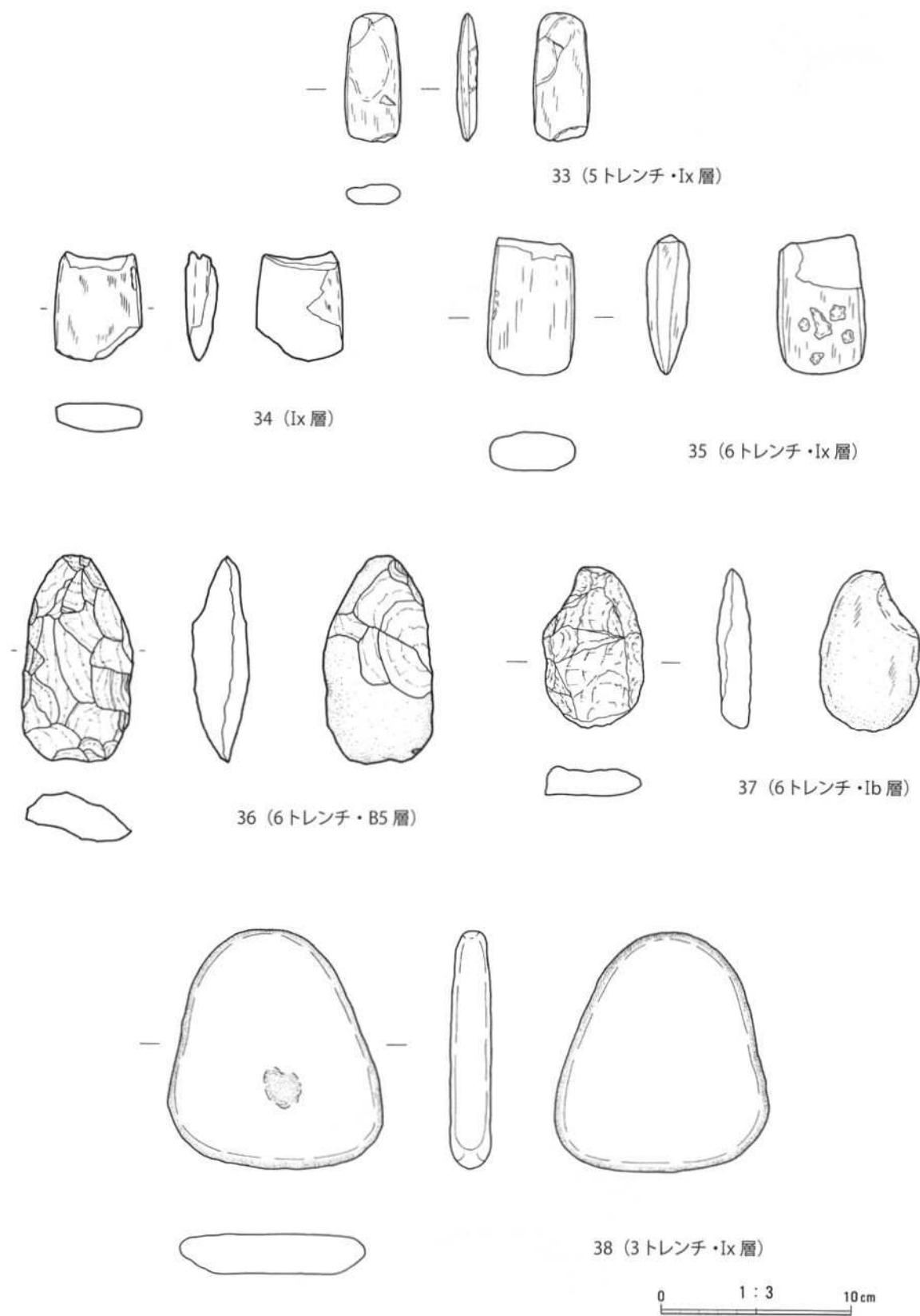
第65図 B区 出土遺物(3)



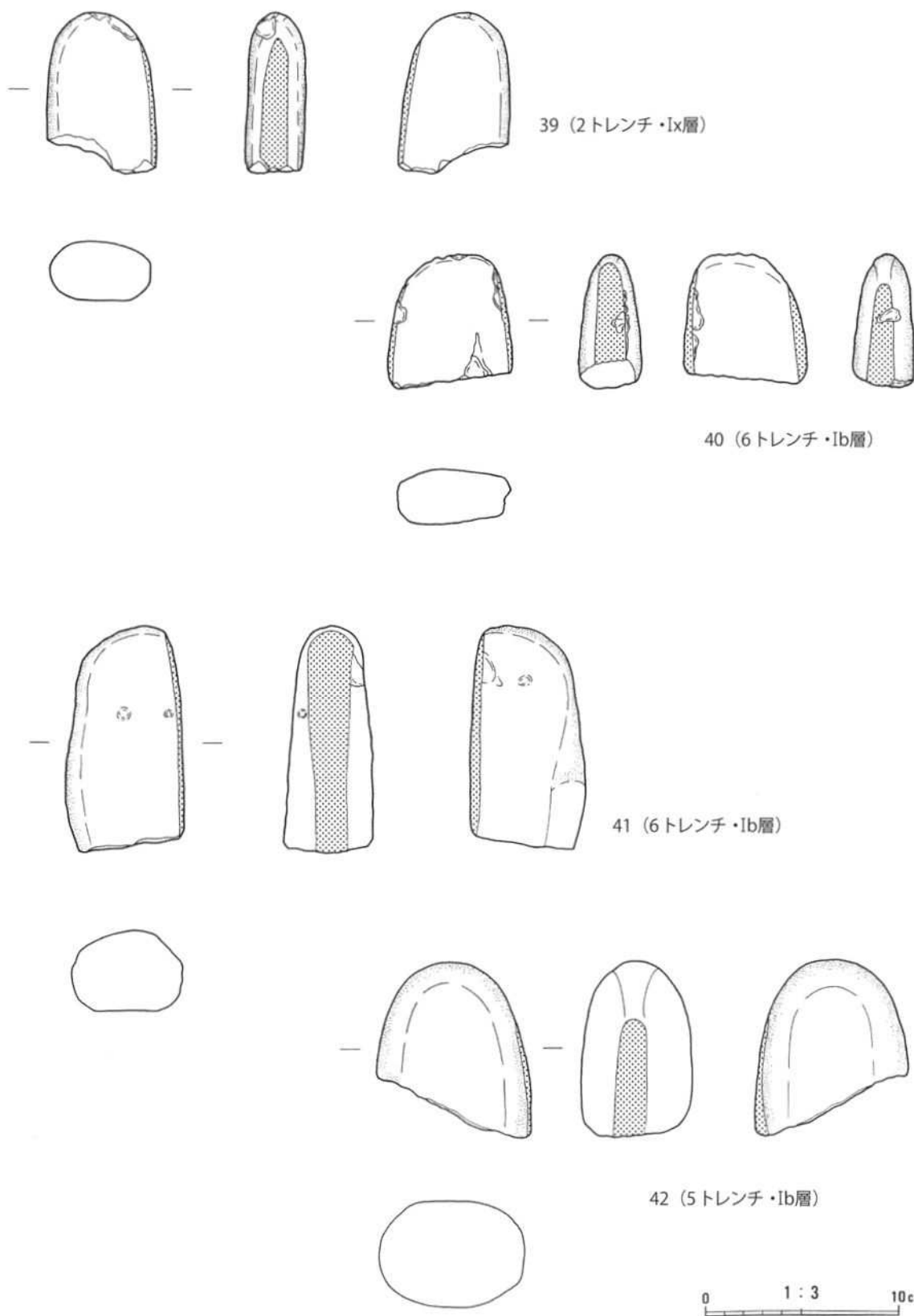
第 66 図 B区 出土遺物 (4)



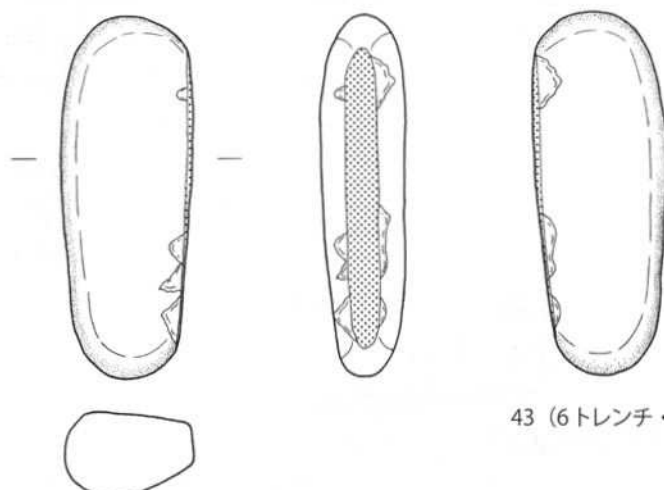
第 67 図 B区 出土遺物 (5)



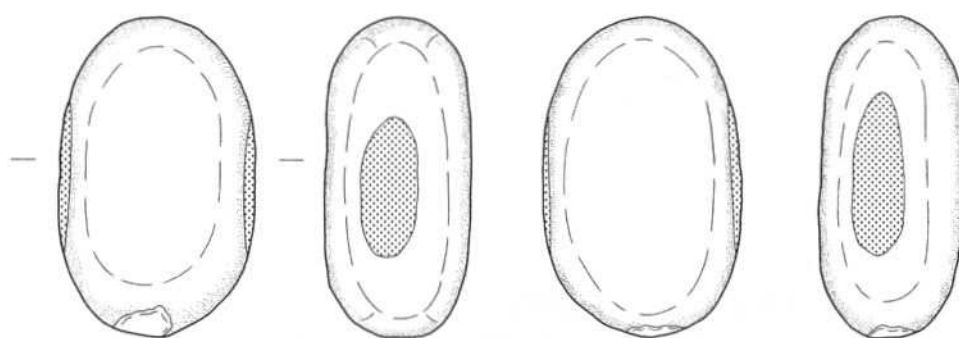
第 68 図 B区 出土遺物 (6)



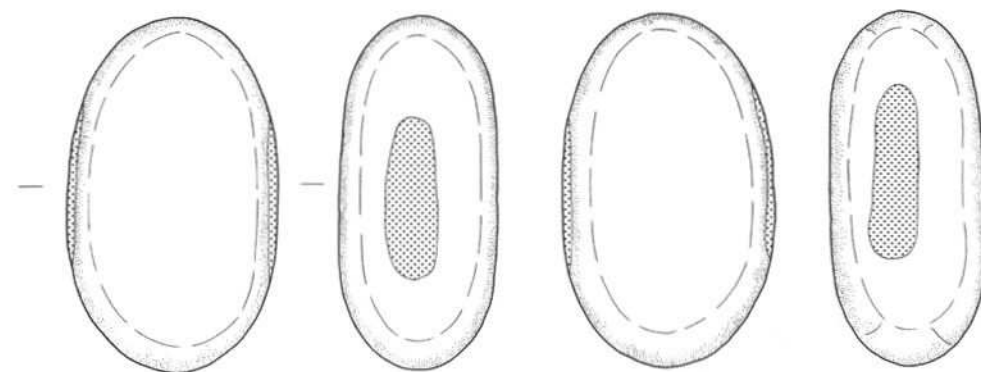
第 69 図 B区 出土遺物 (7)



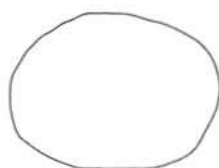
43 (6トレンチ・1b層)



44 (5トレンチ・1b層)



45 (1トレンチ・1x層)

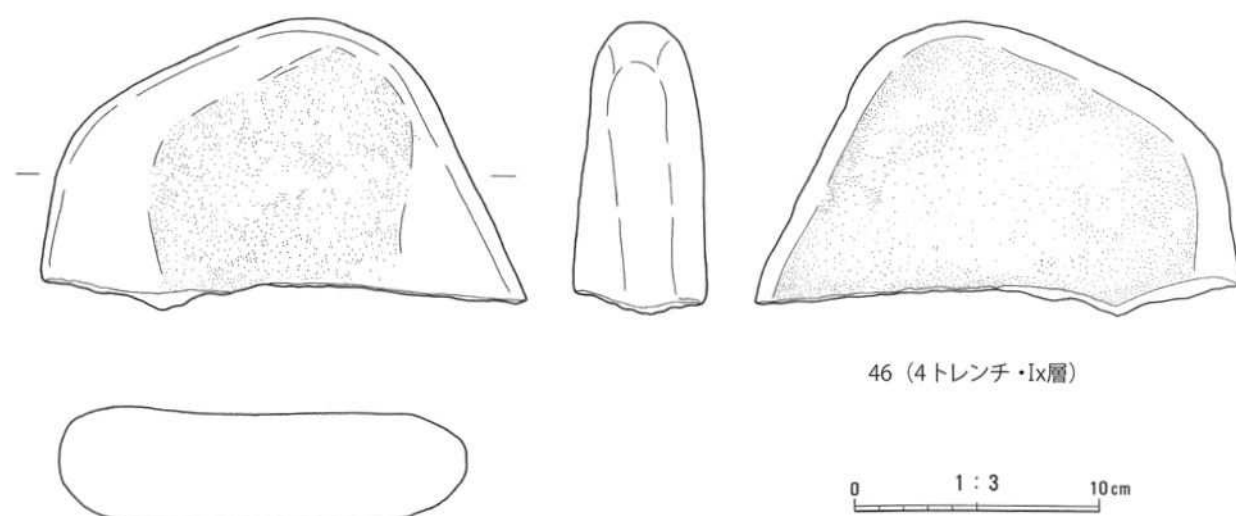


第70図 B区 出土遺物 (8)

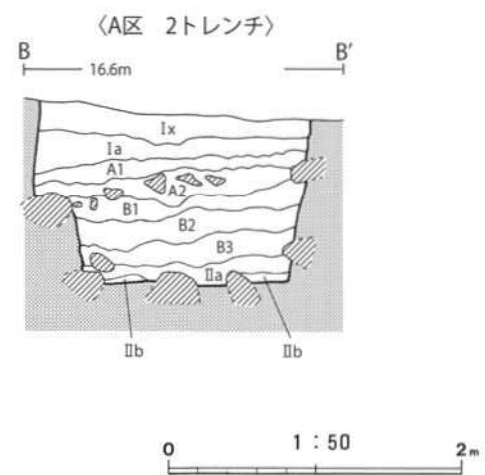
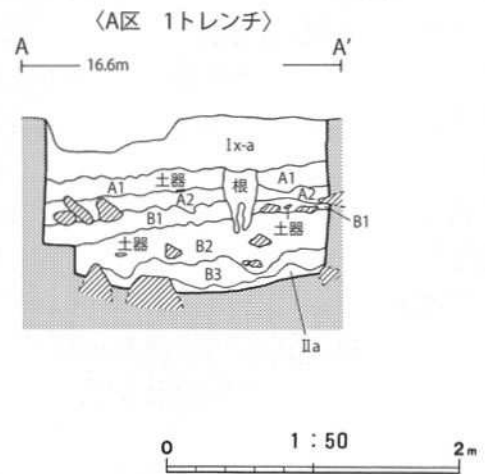
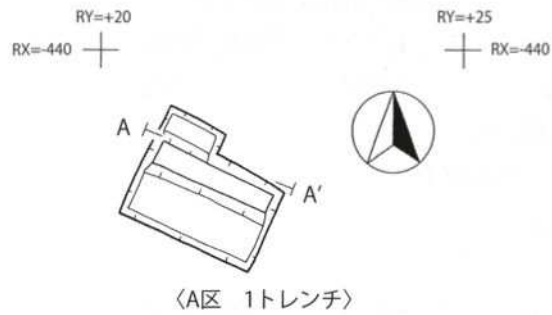
でが遺物包含層からの出土である。第63図1は口縁部破片で、隆帯による渦巻き文様がみられる。第63図2は口縁部から胴部にかけての破片で、R L単節縄文が施文されている。第63図3は底部破片で、L R単節縄文が施文されている。底部はナデ調整されている。第63図4は口縁部から胴部にかけて残存し、口縁部には波状の沈線が4条みられ、地文にはL R単節縄文が施文されている。第63図5・6は口縁部破片で、沈線や刺突による文様が施されている。第63図7・8は胴部破片で、半円状の沈線や横方向の沈線が地文の上に施文されている。第63図9・10は口縁部破片と胴部破片で、羽状縄文が施文され、繊維は含まれていない。第63図4～10は縄文時代前期に属すると考えられる。第63図11は円形の土製品で、表裏面に粒の細かい縄文が多方向にみられる。用途は不明である。第64図12・13は口縁部から胴部にかけての大型の破片で、R L単節縄文及び撚糸文の地文の上に縄文の圧痕や沈線で文様が施文されている。第65図14は口縁部から胴部の破片で、キャリパー形を呈している。R L単節縄文の地文の上に隆帯で渦巻き文が施されている。

第66～71図は石器である。第66図15・16は石鏃で、両面に細かい調整剥離がみられる。第66図17は石錐で、先端部が欠損していると思われる。第66図18～24は削器および搔器で、一部もしくは両面の縁辺部に刃部を作り出すための調整剥離がみられる。第67図25～32は石匙で、25～30は縦型、31・32は横型である。腹面だけでなく、両面の縁辺部に調整剥離を行うものが多い。第68図33は小型の磨製石斧である。刃部の一部が欠損している。第68図34・35は磨製石斧である。欠損部が多い。第68図36・37は打製石斧で、背面に自然面を大きく残しているのが特徴である。第68図38はくぼみ石で平坦な面に1箇所くぼみがみられる。第69～70図39～45は磨石で、1面もしくは2面に機能面が観察される。第71図46は石皿で、表裏面ともに擦痕の残る機能面がみられる。

A区トレンチは内容確認調査区のうち取り付け道路部分において設定している。工事では掘削を伴わないため、遺構・遺物の広がりを確認するために間隔を開けてトレンチを設定し、掘り下げを行っている。1トレンチ～3トレンチを設定し、さらに一段下がった地点は重機で掘り下げを行い、試掘トレンチと呼称した。1トレンチはB区北端の6トレンチから南へ約6mの位置に設定し、規模は2m×1.5mである。深さは1.2mまで掘り下げ、表土層の下層には、A1層・A2層、B1層～B3層の遺物包含層が堆積している。自然礫も多数含まれている。2トレンチは1トレンチからさらに南へ



第71図 B区 出土遺物 (9)



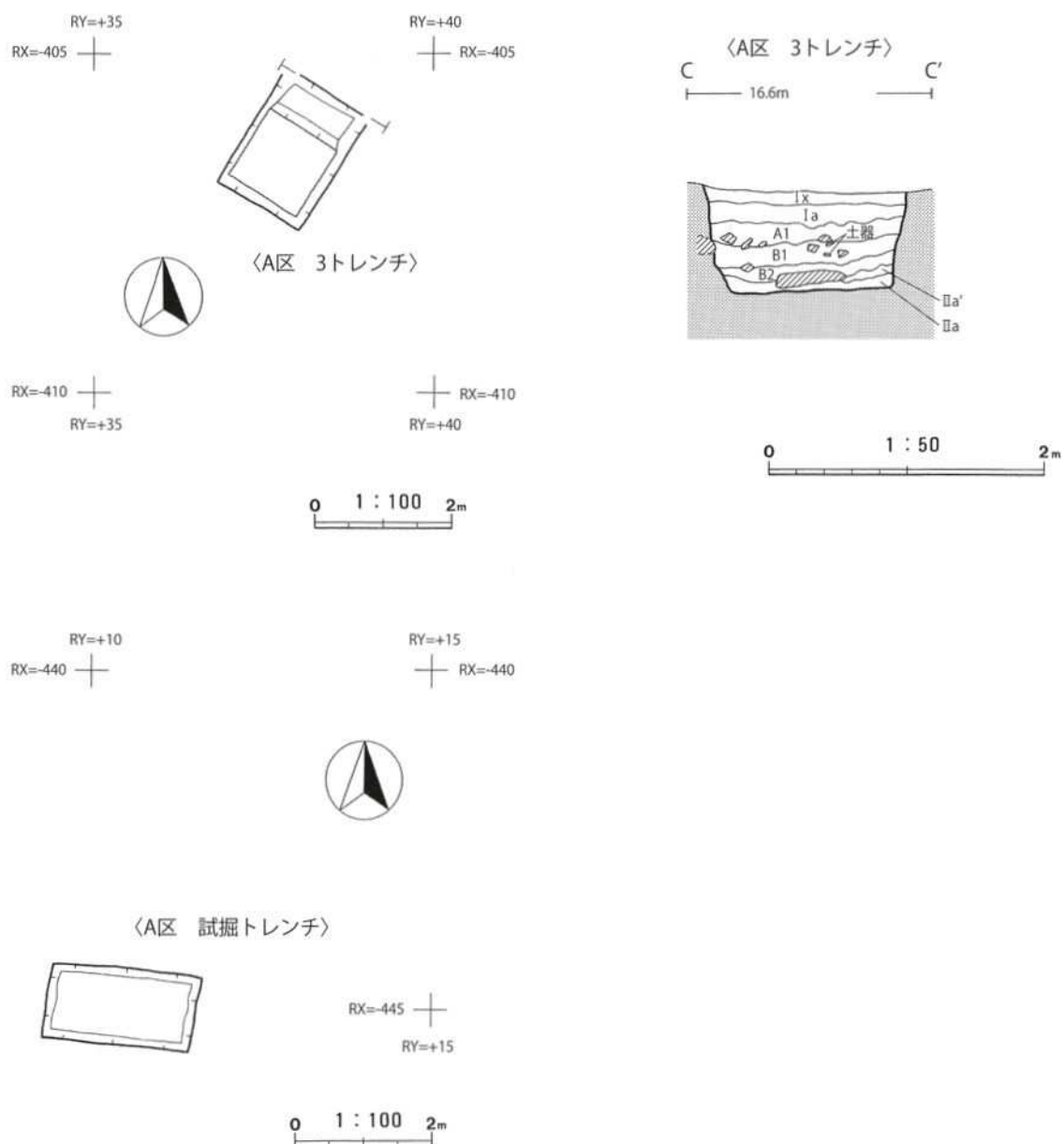
A区 1～3トレンチ 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
遺物 包含層	A1 10YR2/1 黒色シルト質堆填土	—	—
	A2 10YR2/1 黒色シルト質堆填土	—	やや暗い土色
	B1 10YR2/2 黒褐色シルト質堆填土	—	—
	B2 10YR2/2 黒褐色シルト質堆填土	—	やや暗い土色 マゼンタ粒含まれる
	B3 10YR2/3 黒褐色シルト質堆填土	—	スコリア粒や多く含まれる
地山 漸移層	II a 10YR3/4 暗褐色砂壤土	—	—
地山	II b 7.5YR4/6 褐色砂壤土	—	—

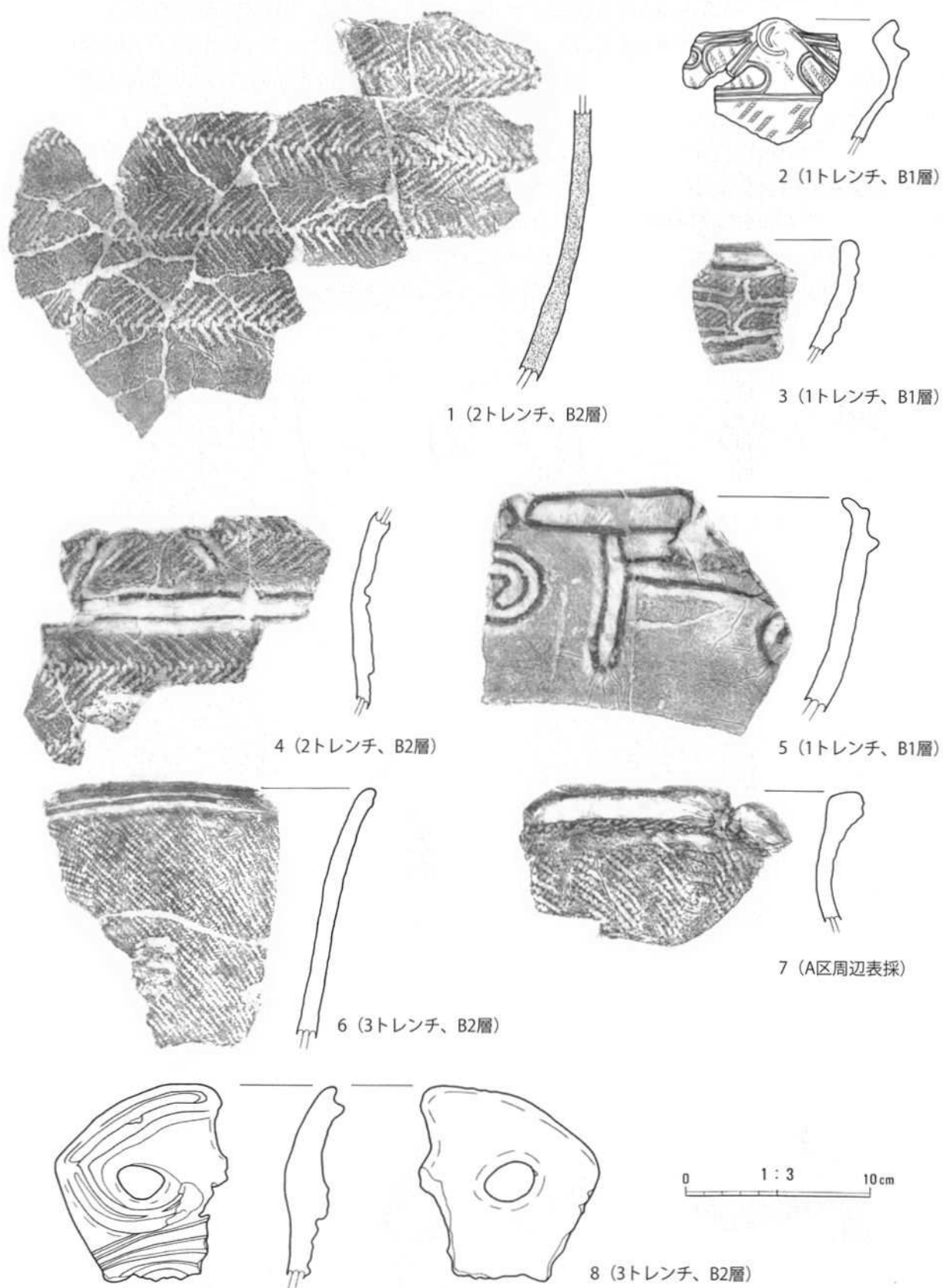
第 72 図 A区 トレンチ平面図・断面図 (1)

約14mの位置に設定し、規模は2m×2mである。深さは約1.2mまで掘り下げ、表土層の下層には、A1層・A2層、B1層～B3層の遺物包含層が堆積している。1トレンチ同様、自然礫が多数含まれている。3トレンチは2トレンチからさらに南へ約22mの位置に設定し、規模は2m×1.5mである。深さは約0.8mまで掘り下げ、表土層の下層には、A1層、B1層・B2層の遺物包含層が堆積している。A1層からは径11cmの球状の軽石が出土している（写真図版110）。試掘トレンチは3トレンチから西へ約10mの位置に設定し、規模は2.2m×1.1mである。本調査区までの作業員通路にもあたるため、断面を確認した後にすぐ埋め戻しを行っている。

内容確認調査区（A区・B区）の遺構外出土遺物はA区トレンチからの出土遺物と表採遺物を掲載している。第74図1～8は縄文土器である。第74図1は胴部破片で、結束をもつ羽状縄文が施文されている。第74図2は口縁部破片で、RL単節縄文の地文の上に隆帯による文様が施されている。第74



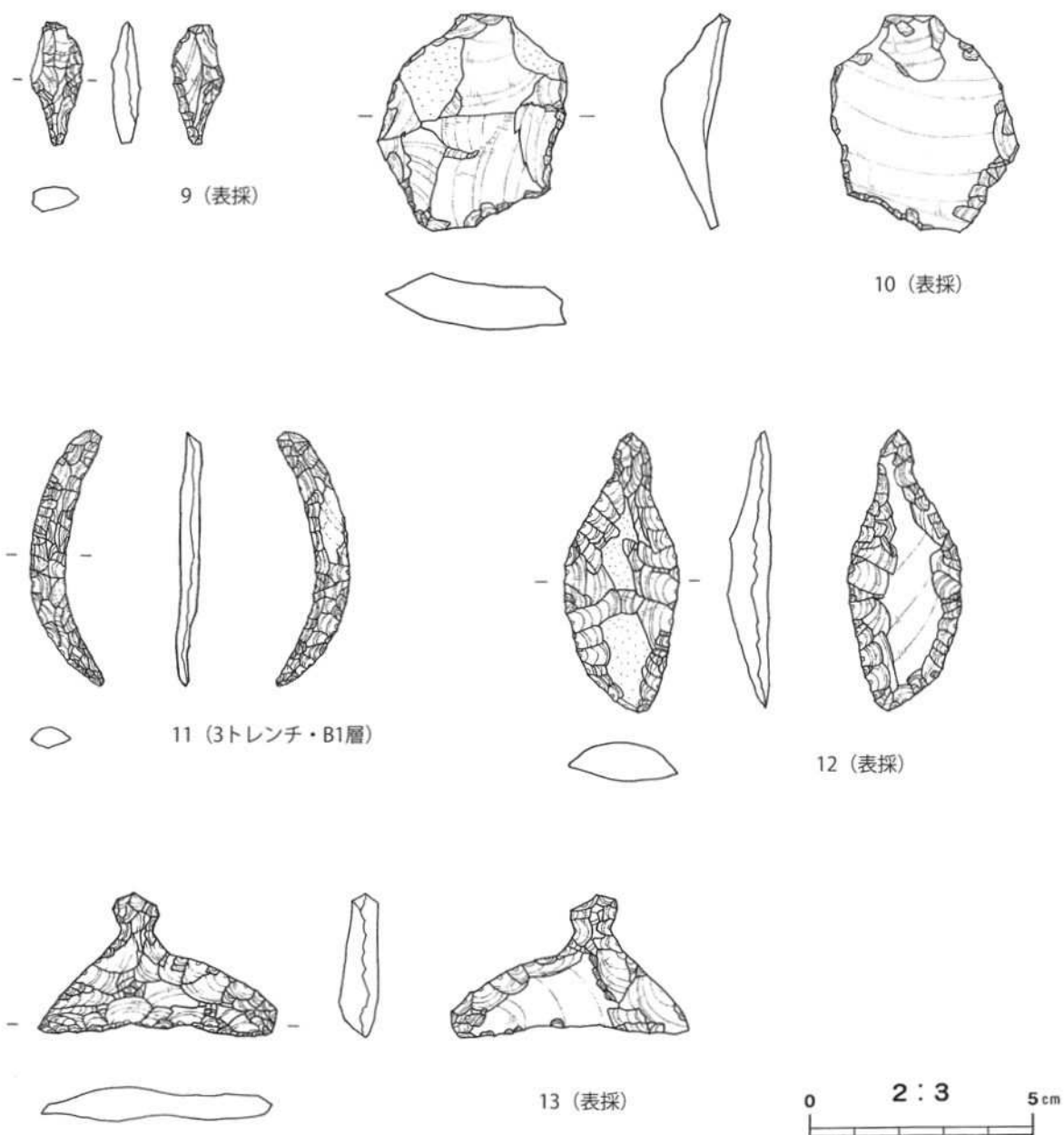
第73図 A区 トレンチ平面図・断面図 (2)



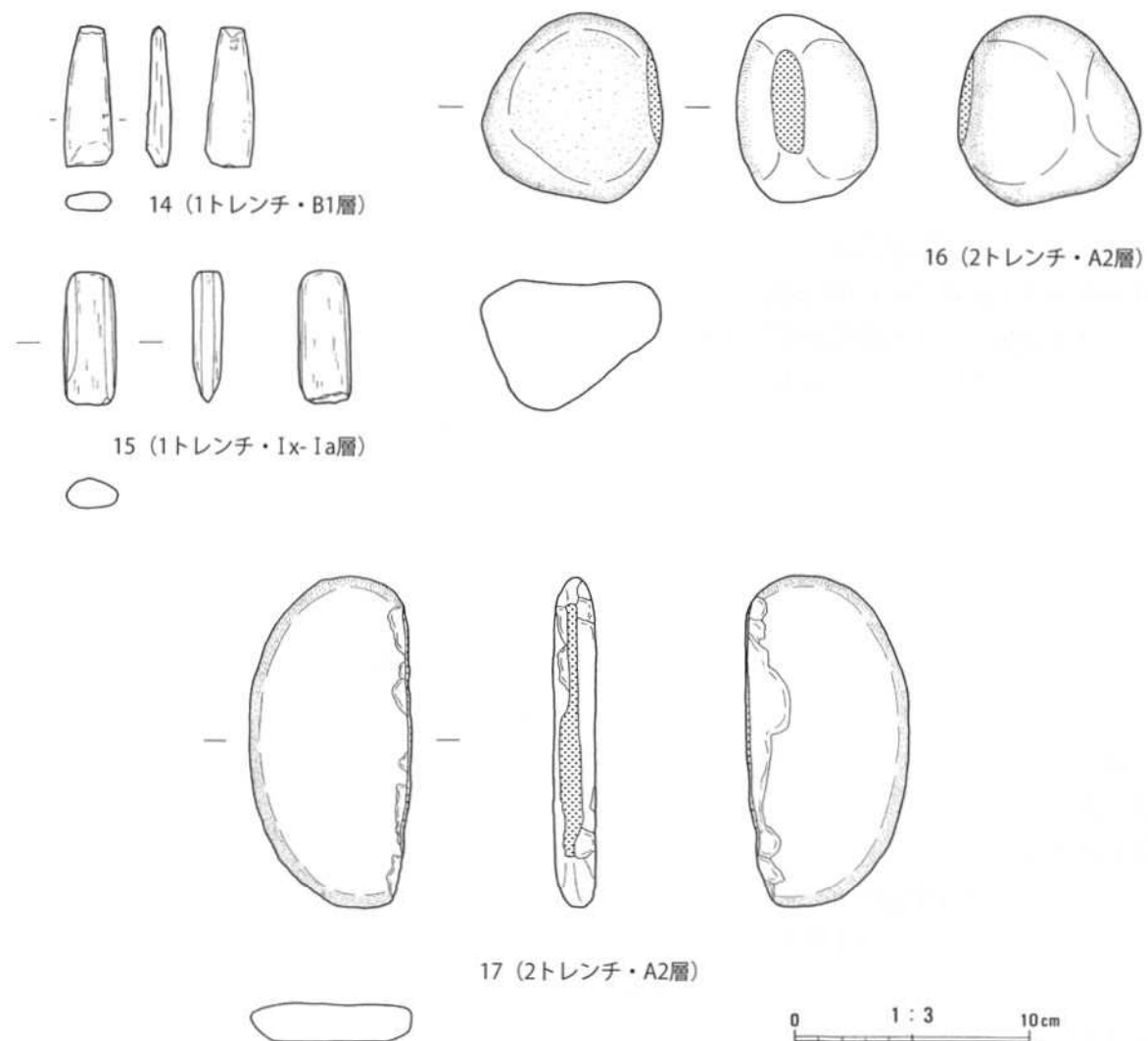
第74図 A区・表採 出土遺物 (1)

図3は口縁部破片で、地文の上から沈線により文様が施されている。第74図4は胴部破片で、羽状縄文がみられる。第74図5は隆帯による渦巻き文がみられる。第74図6・7は口縁部から胴部の破片で、口唇部周辺に横方向の文様が施され、地文はL R単節縄文である。第74図8は口縁部の突起破片で、中央には孔を作り出している。

第75～76図9～17は石器である。第75図9は石錐である。先端部は欠損している。第75図10は搔器で、部分的に刃部を作り出すための調整剥離がみられる。第75図11は「C」字形に屈曲した形態をもつ石器で、両面に細かな調整剥離がみられるが、用途は不明である。第75図12・13は石匙で、12は縦型、13は横型である。両面の縁辺部に調整剥離がみられる。第76図14・15は小型の磨製石斧である。刃部に一部欠損が観察される。第76図16・17は磨石で、1面にのみ機能面がみられる。



第75図 A区・表採 出土遺物(2)



第76図 A区・表採 出土遺物(3)

第6章 自然科学分析

1 炭化材樹種同定

吉川純子(古代の森研究舎)

1. 試料

赤前牛子沢遺跡は宮古市の宮古湾最奥部赤前地区の標高約 16m の緩斜面に位置する縄文時代から中世にかけて住居跡が確認されている遺跡である。炭化材が出土した 4 号竪穴住居は出土した土師器から奈良時代の焼失住居とされ床面直上の埋土 5 層では炭化材が床面全域に分布していた。炭化材の多くは建築材とみられることから当時の建築材における木材利用状況を解明するため、9 試料の樹種同定をおこなった。炭化材試料は自然乾燥させた後、剃刀で横断面、放射断面、接線断面の 3 断面を割り、実体顕微鏡及び反射光式顕微鏡で観察・同定をおこなった。

2. 同定結果

同定結果を表 1 に示した。試料のうち破片が複数個あるものは状態の良い 1 破片のみ同定した。同定された炭化材の樹種は 1 分類群で、すべてコナラ属コナラ節であった。以下に同定された樹種の細胞構造学的記載をおこなう。

コナラ属コナラ節(*Quercus* sect. *Prinus*) : 年輪のはじめに大きな道管が 1-2 列配列し、その後急に径を減じて薄壁で角張った小さな管孔が波状に配列する環孔材で、横断面で数ミリおきに広放射組織が確認される。道管の穿孔板は単一で放射組織は同性で、単列と 20-30 細胞幅の大きな広放射組織がある。

表1 赤前牛子沢遺跡出土炭化材

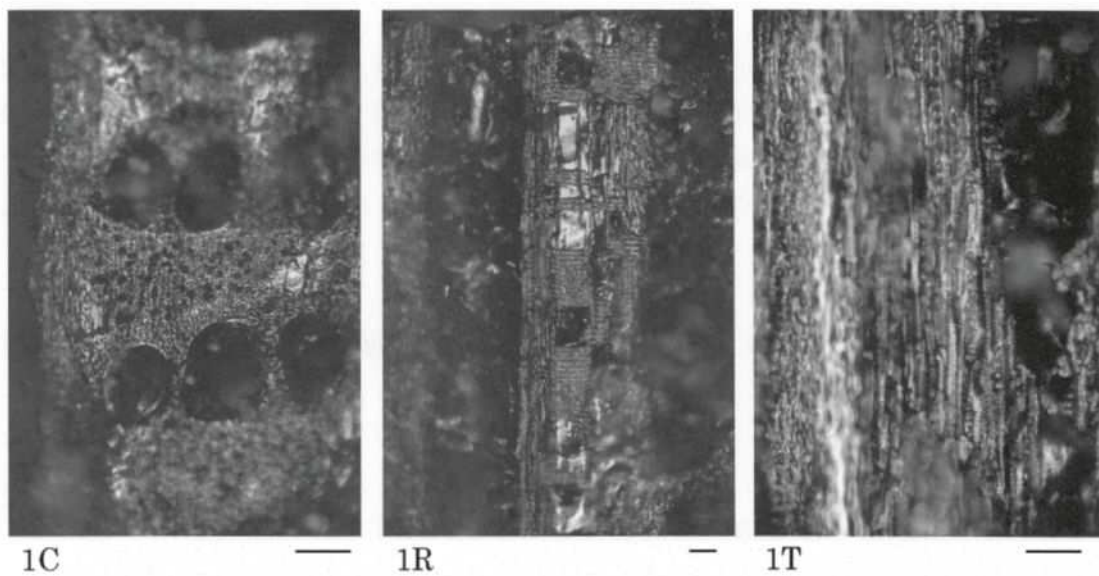
炭番号	樹種
①	コナラ属コナラ節
②	コナラ属コナラ節
③	コナラ属コナラ節
④	コナラ属コナラ節
⑤	コナラ属コナラ節
⑥	コナラ属コナラ節
⑦	コナラ属コナラ節
⑧	コナラ属コナラ節
⑨	コナラ属コナラ節

3. 考察

本遺跡では同定に供した炭化材がすべてコナラ属コナラ節で、建築材として極めて選択的にコナラ属コナラ節を利用していたと考えられる。住居構築材であっても焼失住居の出土炭化材は単一樹種のみ出土はなかなか見られないが、今回の報告では 9 試料と分析数がやや少なく主要な構築材である柱材や垂木などと思われる部分から採取したため単一樹種になったと考えられる。東北地方の 8-10 世紀頃の住居建築材にはスギ、クリ、コナラ属コナラ節などが多く用いられる傾向にあり、本遺跡で出土した炭化材もこうした傾向に類似する。宮古市の乙部Ⅱ遺跡の奈良時代の住居内炭化材では 70 試料を同定しておりコナラ属コナラ節が 80% を占める。また 8 世紀頃の一戸町上野 D 遺跡や田中 4 遺跡でもコナラ節が 8~9 割を占めるなどコナラ節の多用傾向がある(山田 1993)。

引用文献

山田昌久. 1993. 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究特別第 1 号. 植生史研究会. 1-244.



図版 1 赤前牛子沢遺跡 4 号竪穴住居出土炭化材の顕微鏡写真
 1. コナラ属コナラ節(炭③) C:横断面、R:放射断面、T:接線断面、スケールは 0.1mm

2 放射性炭素年代測定 (AMS測定)

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県宮古市赤前第3地割地内に所在する赤前I牛子沢遺跡では、これまでの発掘調査において縄文時代・奈良時代・中世の住居跡などが確認されている。本分析調査では、奈良時代とされる竪穴住居跡(SI4)から出土した炭化材を対象に、放射性炭素年代測定を実施し、遺構の年代に関わる情報を得る。また、年代測定を行う炭化材については樹種同定を併せて実施し、木材利用についての情報を得る。

1.試料

分析試料は、奈良時代とされる4号竪穴住居跡(C区 SI4)出土の炭化材3点(炭 No.③、炭 No.⑥、炭 No.⑨)である。

2.分析方法

適当量切り出した後、さらに土壌のついた周辺部を切り落として分析用試料とする。塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lである。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラフアイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラフアイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置(NEC社製)を用いて、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1)の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach 1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.3(Bronk,2009)、較正曲線はIntcal13(Reimer et al.,2013)である。

3.結果・考察

結果は表1、図1に示す。また、樹種同定の結果も合わせて表1に示した。

いずれの試料も状態が良く、定法での処理を行った(AAAと記載)。いずれも加速器質量分析装置を用いた年代測定に必要な炭素量が回収できている。測定の結果、炭 No.③が $2,420 \pm 20\text{BP}$ 、炭 No.⑥が $1,250 \pm 20\text{BP}$ 、炭 No.⑨が $1,270 \pm 20\text{BP}$ である。

暦年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期(^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正用データセットは、Intcal13(Reimer et al.,2013)を用いる。2 σ の値は、炭 No.③がcalBC731~406、炭 No.⑥がcalAD678~863、炭 No.⑨がcalAD679~770である。

炭 No.⑥と炭 No.⑨の結果は、現地調査所見で得られた時代観と近い。また樹種もクリであり、当時の住居構築材よくみられる種類である。一方、炭 No.③は年代値が古く、樹種もヤナギ属で他の2点とは異なることから、再堆積などの可能性も考えられる。覆土の堆積状況なども合わせ、慎重に検討することが望まれる。

表1. 放射性炭素年代測定・炭化材同定結果

試料	性状/ 樹種	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代						Code No.			
					年代値					確率%				
					σ	cal BC 513	- cal BC 414	2462 - 2363	calBP	68.2				
C区 S14 炭No. ③	炭化材 ヤナギ属	AAA (1M)	2420±20 (2419±21)	-27.74 ±0.61	2σ	cal BC 731	- cal BC 692	2680 - 2641	calBP	8.8	YU- 8750	pal- 11598		
						cal BC 659	- cal BC 651	2608 - 2600	calBP	1.4				
						cal BC 544	- cal BC 406	2493 - 2355	calBP	85.2				
						cal AD 695	- cal AD 702	1256 - 1248	calBP	7.3				
C区 S14 炭No. ⑤	炭化材 クリ	AAA (1M)	1250±20 (1250±21)	-29.66 ±0.64	σ	cal AD 708	- cal AD 746	1242 - 1204	calBP	50.8	YU- 8751	pal- 11599		
						cal AD 764	- cal AD 772	1187 - 1178	calBP	10.1				
						cal AD 678	- cal AD 779	1272 - 1172	calBP	87.7				
					2σ	cal AD 791	- cal AD 805	1159 - 1146	calBP	2.4				
						cal AD 812	- cal AD 826	1139 - 1124	calBP	1.8				
						cal AD 840	- cal AD 863	1111 - 1088	calBP	3.4				
						cal AD 689	- cal AD 722	1261 - 1229	calBP	40.5			YU- 8752	pal- 11600
						cal AD 740	- cal AD 767	1210 - 1184	calBP	27.7				
C区 S14 炭No. ⑨	炭化材 クリ	AAA (1M)	1270±20 (1271±20)	-29.20 ±0.50	2σ	cal AD 679	- cal AD 770	1271 - 1180	calBP	95.4				

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68.2%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 4) AAAは、酸・アルカリ・酸処理を示す。
- 5) 暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用
- 6) 暦年の計算には1桁目まで示した年代値を使用
- 7) 較正データセットはIntcal13を使用。
- 8) 較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

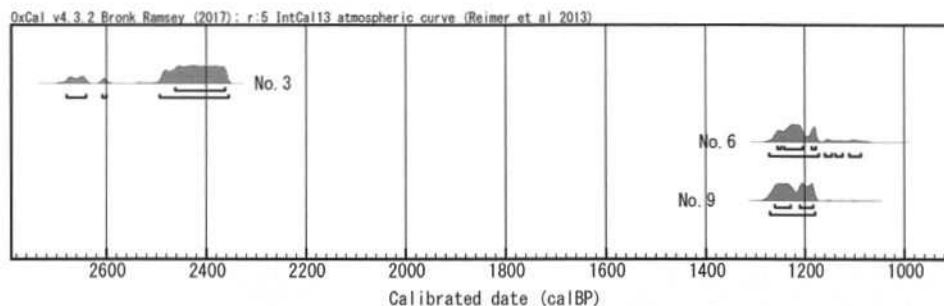


図1. 暦年較正結果

引用文献

- Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.
- Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Hafliadason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869–1887.
- Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of ^{14}C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

第1表 赤前I牛子沢遺跡 土器・土製品観察表

探検番号	番号	調査区	出土地点	層位	種別	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
12	1	C区	1号竪穴住居跡	床面	土師器杯	口縁部～底部	横ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	砂粒含む	黒色処理、有段丸底
12	2	C区	1号竪穴住居跡	床面	土師器杯	口縁部～底部	横ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	砂粒含む	黒色処理、有段丸底
12	3	C区	1号竪穴住居跡	1層	須恵器甕	胴部	ロクロ調整	ロクロ調整	砂粒含む	
21	1	C区	3号竪穴住居跡	9層	土師器杯	口縁部～底部	横ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	砂粒含む	黒色処理、有段丸底
21	2	C区	3号竪穴住居跡	5層	土師器杯	口縁部	横ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	砂粒含む	黒色処理、有段丸底
21	3	C区	3号竪穴住居跡	9層	土師器甕	口縁部	横ナデ、ハケメ	ヘラナデ	砂粒含む	内面スス付着
21	4	C区	3号竪穴住居跡	5層	土師器甕	口縁部	横ナデ、ハケメ	ヘラナデ	砂粒含む	内面スス付着
21	5	C区	3号竪穴住居跡	5層	土師器甕	口縁部～胴部	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ハケメ	砂粒含む	輪積み痕
21	6	C区	3号竪穴住居跡	9層	土師器甕	胴部～底部	ハケメ	ハケメ	砂粒含む	輪積み痕
27	1	C区	4号竪穴住居跡	床面	土師器碗	口縁部～底部	横ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	砂粒含む	黒色処理
27	2	C区	4号竪穴住居跡	床面	土師器甕	胴部	横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ	砂粒含む	輪積み痕
27	3	C区	4号竪穴住居跡	6層	土師器甕	口縁部～底部	横ナデ、ハケメ	ヘラナデ	砂粒含む	輪積み痕、底部木葉痕
27	4	C区	4号竪穴住居跡	6層	土師器杯	口縁部～底部	横ナデ、ヘラミガキ ヘラミガキ	ヘラミガキ	砂粒含む	黒色処理、有段丸底
27	5	C区	4号竪穴住居跡	6層	土師器小型甕	胴部～底部	ナデ	ナデ	砂粒含む	底部ナデ
31	1	C区	5号竪穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部～胴部	撫糸文、沈線	ナデ	砂粒含む	2と同一個体
31	2	C区	5号竪穴住居跡	床面	縄文深鉢	胴部～底部	撫糸文、沈線	ナデ	砂粒含む	1と同一個体
31	3	C区	5号竪穴住居跡	床面	縄文深鉢	口縁部～胴部	R.L.半節縄文 渦巻文・隆帯	ナデ	砂粒含む	
32	4	C区	5号竪穴住居跡	床面	縄文深鉢	胴部	複節縄文 (結束)	ナデ	繊維含む	羽状縄文
32	5	C区	5号竪穴住居跡	1層	ミニチュア土器	口縁部～胴部	L.R.半節縄文	ナデ	砂粒含む	
32	6	C区	5号竪穴住居跡	1層	ミニチュア土器	胴部～底部	L.R.半節縄文	ナデ	砂粒含む	底部ナデ
32	7	C区	5号竪穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部	R.L.半節縄文 渦巻文・隆帯、沈線	ナデ	砂粒含む	キャリバー形
36	1	C区	6号竪穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L.R.半節縄文	ナデ	砂粒含む	
36	2	C区	6号竪穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部	L.R.半節縄文	ナデ	砂粒含む	内面スス付着
36	3	C区	6号竪穴住居跡	1層	縄文深鉢	口縁部	L.R.半節縄文	ナデ	砂粒含む	
36	4	C区	6号竪穴住居跡	p1・1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R.L.半節縄文 渦巻文・隆帯、沈線	ナデ	砂粒含む	内外面スス付着 キャリバー形
36	5	C区	6号竪穴住居跡	p1・1層	縄文深鉢	胴部	R.L.半節縄文、沈線	ナデ	砂粒含む	内面スス付着 キャリバー形
41	1	C区	2号土坑	1層	縄文深鉢	胴部	R.L.半節縄文	ナデ	砂粒含む	
41	2	C区	3号土坑	1層	縄文深鉢	口縁部	L.R.半節縄文、隆帯	ナデ	砂粒含む	外面スス付着
41	3	C区	3号土坑	1層	縄文深鉢	口縁部	沈線、磨滅不明	ナデ	砂粒含む	
41	4	C区	6号土坑	1層	縄文深鉢	胴部	R.L.半節縄文、沈線	ナデ	砂粒含む	
41	5	C区	5号土坑	1・4層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R.L.半節縄文、沈線	ナデ	砂粒含む	外面スス付着
41	6	C区	5号土坑	1層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L.R.半節縄文、隆帯	ナデ	砂粒含む	
41	7	C区	5号土坑	7層	縄文深鉢	口縁部	隆帯、ナデ	ナデ	砂粒含む	
41	8	C区	5号土坑	7層	縄文深鉢	口縁部	L.R.半節縄文、沈線	ナデ	砂粒含む	キャリバー形
41	9	C区	7号土坑	3層	土師器甕	口縁部～胴部	横ナデ、ハケメ	横ナデ、ハケメ	砂粒含む	
41	10	C区	7号土坑	3層	土師器甕	口縁部	横ナデ、ハケメ	横ナデ	砂粒含む	
41	11	C区	8号土坑	1層	土師器甕	胴部	ハケメ	ヘラナデ	砂粒含む	
41	12	C区	9号土坑	1層	縄文深鉢	口縁部	縄文圧痕文、沈線	ナデ	砂粒含む	
41	13	C区	9号土坑	1層	縄文深鉢	胴部	R.L.半節縄文 渦巻文・隆帯	ナデ	砂粒含む	
41	14	C区	9号土坑	1層	縄文深鉢	胴部～底部	R.L.半節縄文、沈線	ナデ	砂粒含む	
42	15	C区	P11	1層	縄文深鉢	口縁部	L.R.L.複節縄文 沈線	ナデ	砂粒含む	外面スス付着
42	16	C区	P14	1層	縄文深鉢	胴部	R.L.半節縄文	ナデ	砂粒含む	
42	17	C区	P33	—	縄文深鉢	胴部	R.L.半節縄文、沈線	ナデ	砂粒含む	
42	18	C区	SX1	1層	縄文深鉢	口縁部	L.R.半節縄文 沈線、隆帯	ナデ	砂粒含む	キャリバー形
42	19	C区	SX1	1層	縄文深鉢	胴部	L.R.半節縄文、隆帯	ナデ	砂粒含む	
42	20	C区	SX1	—	縄文深鉢	胴部	L.R.半節縄文	ナデ	砂粒含む	輪積み痕
42	21	C区	SX1	—	縄文深鉢	口縁部	L.R.半節縄文、沈線	ナデ	砂粒含む	キャリバー形
45	1	C区	遺構外	Ia層	縄文深鉢	口縁部～胴部	撫糸文	ナデ	砂粒含む	
45	2	C区	遺構外	Ia層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L.R.半節縄文、隆帯	ナデ	砂粒含む	
45	3	C区	遺構外	Ia層	縄文深鉢	口縁部	R.L.半節縄文 渦巻文・隆帯	ナデ	砂粒含む	

押出番号	番号	調査区	出土地点	層位	種別	部位	文 様 (外面)	内面調整	胎 土	備 考
45	4	C区	造構外	I a 層	縄文深鉢	口縁部	R L 単節縄文 渦巻き文隆帯	ナデ	砂粒 含む	キャリバー形
46	5	C区	造構外	I a 層	縄文深鉢	口縁部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	キャリバー形
46	6	C区	造構外	I a 層	縄文深鉢	口縁部	L R 単節縄文、沈線 隆帯	ナデ	砂粒 含む	キャリバー形
46	7	C区	造構外	I a 層	縄文深鉢	口縁部	隆帯	ナデ	砂粒 含む	突起のみ残存
46	8	C区	造構外	I a 層	縄文深鉢	口縁部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	キャリバー形
46	9	C区	造構外	III 層	縄文深鉢	胴部	L R 単節縄文 渦巻き文隆帯	ナデ	砂粒 含む	
46	10	C区	造構外	III 層	縄文深鉢	胴部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	
57	1	B区	B 4 号竪穴住居跡	A 1 層	縄文深鉢	口縁部～底部	L R 単節縄文、隆帯	ナデ	砂粒 含む	底部ナデ
58	2	B区	B 4 号竪穴住居跡	A 1 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 単節縄文、隆帯	ナデ	砂粒 含む	外面スス付着
58	3	B区	B 4 号竪穴住居跡	A 2 層	縄文深鉢	口縁部	L R L 複節縄文 渦巻き文隆帯	ナデ	砂粒 含む	キャリバー形
58	4	B区	B 4 号竪穴住居跡	A 2 層	縄文深鉢	口縁部	L R 単節縄文、隆帯	ナデ	砂粒 含む	
58	5	B区	B 4 号竪穴住居跡	A 2 層	縄文深鉢	口縁部	R L R 複節縄文 渦巻き文突起	ナデ	砂粒 含む	
58	6	B区	B 4 号竪穴住居跡	A 2 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 単節縄文	ナデ	砂粒 含む	波状口縁
58	7	B区	B 4 号竪穴住居跡	A 2 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	外面スス付着
59	8	B区	B 4 号竪穴住居跡	A 1 層	縄文小型鉢	口縁部～底部	R L 単節縄文 渦巻き文隆帯	ナデ	砂粒 含む	底部ナデ
59	9	B区	B 4 号竪穴住居跡	A 2 層	縄文深鉢	胴部～底部	撫糸文、沈線	ナデ	砂粒 含む	
63	1	B区	2 トレンチ	I x - u 層	縄文深鉢	口縁部	沈線、渦巻き文隆帯	ナデ	砂粒 含む	キャリバー形
63	2	B区	8 トレンチ	I b 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R L 単節縄文	ナデ	砂粒 含む	
63	3	B区	6 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	胴部～底部	L R 単節縄文	ナデ	砂粒 含む	底部ナデ
63	4	B区	6 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	
63	5	B区	6 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	口縁部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	
63	6	B区	6 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	口縁部	L R 単節縄文、隆帯 刺突	ナデ	砂粒 含む	
63	7	B区	6 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	胴部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	
63	8	B区	6 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	胴部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	
63	9	B区	6 トレンチ	B 4・B 5 層	縄文深鉢	口縁部	R L 単節縄文 (結束)	ナデ	砂粒 含む	羽状縄文 10 と同一個体
63	10	B区	6 トレンチ	B 4・B 5 層	縄文深鉢	胴部	R L 単節縄文 (結束)	ナデ	砂粒 含む	羽状縄文 9 と同一個体
63	11	B区	6 トレンチ	B 2 層	土製品	完形	L 無節縄文	L 無節縄文	砂粒 含む	
64	12	B区	6 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R L 単節縄文 縄文圧痕	ナデ	砂粒 含む	波状突起
64	13	B区	6 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	撫糸文、沈線、刺突	ナデ	砂粒 含む	
65	14	B区	6 トレンチ	B 4・B 5 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	R L 単節縄文 渦巻き文隆帯	ナデ	砂粒 含む	キャリバー形
74	1	A区	2 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	胴部	R L 単節縄文 (結束)	ナデ	砂粒 含む	羽状縄文
74	2	A区	1 トレンチ	B 1 層	縄文深鉢	口縁部	R L 単節縄文 渦巻き文隆帯	ナデ	砂粒 含む	キャリバー形
74	3	A区	1 トレンチ	B 1 層	縄文深鉢	口縁部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	
74	4	A区	2 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	胴部	L R 単節縄文 (結束) 隆帯	ナデ	砂粒 含む	羽状縄文
74	5	A区	1 トレンチ	B 1 層	縄文深鉢	口縁部	渦巻き文隆帯	ナデ	砂粒 含む	
74	6	A区	3 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	口縁部～胴部	L R 単節縄文、沈線	ナデ	砂粒 含む	
74	7	—	表掘	—	縄文深鉢	口縁部	L R 単節縄文、突起	ナデ	砂粒 含む	
74	8	A区	3 トレンチ	B 2 層	縄文深鉢	口縁部突起	隆帯	ナデ	砂粒 含む	突起のみ残存

第2表 赤前I 牛子沢遺跡 石器観察表

神岡 番号	番 号	調査区	出土地点	層 位	器 種	現存する大きさ				備 考
						最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	
13	4	C区	1号竪穴住居跡	1層	石鏃	2.2	1.9	0.5	2	平基無基
13	5	C区	1号竪穴住居跡	1層	撚器	3.8	4.1	0.8	16	
14	6	C区	1号竪穴住居跡	1層	砥石	18.4	14.0	4.4	2060	4面に擦痕あり
14	7	C区	1号竪穴住居跡	1層	くぼみ石	10.5	11.1	3.7	560	1面にくぼみあり
15	8	C区	1号竪穴住居跡	1層	鉄床石	12.3	9.5	3.7	770	1面に被熱痕あり
15	9	C区	1号竪穴住居跡	カマドd層	磨石	10.8	7.3	4.6	570	2面に機能面あり
18	1	C区	2号竪穴住居跡	4層	磨石	18.6	7.6	4.5	720	
18	2	C区	2号竪穴住居跡	床面	鉄床石	21.4	15.1	5.7	2525	1面に被熱痕あり
18	3	C区	2号竪穴住居跡	床面	鉄床石	12.8	21.0	6.3	2665	2面に被熱痕あり
22	7	C区	3号竪穴住居跡	床面	石鏃	1.8	1.6	0.3	15	間基無基
22	8	C区	3号竪穴住居跡	床面	叩き石	9.7	5.7	6.1	730	
22	9	C区	3号竪穴住居跡	5層	叩き石	14.5	9.3	6.2	1265	
22	10	C区	3号竪穴住居跡	1層	円盤状石器	7.2	6.5	1.0	60	
28	6	C区	4号竪穴住居跡	床面	砥石	21.0	5.6	4.3	745	4面に擦痕あり
33	8	C区	5号竪穴住居跡	床面	叩き石	12.6	11.3	5.3	1165	
33	9	C区	5号竪穴住居跡	床面	くぼみ石	35.7	34.6	4.7	8215	1面にくぼみあり
34	10	C区	5号竪穴住居跡	床面	撚器	4.2	2.1	1.3	105	
37	6	C区	6号竪穴住居跡	1層	磨石	10.8	7.4	5.4	620	1面に機能面あり
37	7	C区	6号竪穴住居跡	1層	磨石	13.6	6.0	4.9	650	1面に機能面あり
43	22	C区	3号土坑	1層	石鏃	4.0	5.7	0.8	155	縦型
43	23	C区	p 37	1層	撚器	4.3	3.2	1.1	120	
44	24	C区	5号土坑	1層	磨製石斧	9.2	4.7	2.2	140	
47	11	C区	遺構外	1a層	撚器	3.0	2.6	1.0	70	
47	12	C区	遺構外	1a層	撚器	4.6	3.2	1.3	125	
48	13	C区	遺構外	10層	くぼみ石	12.3	18.3	5.7	1670	
48	14	C区	遺構外	1a層	磨石	7.9	4.6	5.7	305	1面に機能面あり
54	1	B区	B 1号竪穴住居跡	A 2層	石鏃	2.2	0.9	0.3	5	平基無基
54	2	B区	B 1号竪穴住居跡	A 2層	打製石斧	7.3	6.5	2.5	175	
60	10	B区	B 4号竪穴住居跡	A 2層	石皿	19.3	14.5	8.0	1580	
61	11	B区	B 4号竪穴住居跡	A 1層	撚器	4.0	2.9	1.0	90	
66	15	B区	2トレンチ	1x層	石鏃	4.0	1.2	0.6	25	凸基有基
66	16	B区	6トレンチ	1x層	石鏃	3.1	1.1	0.4	15	平基無基
66	17	B区	4トレンチ	1x層	石鏃	2.4	1.0	0.4	10	
66	18	B区	6トレンチ	1x層	削器	3.1	1.8	0.7	40	
66	19	B区	5トレンチ	1b層	削器	2.5	2.2	0.8	205	
66	20	B区	5トレンチ	1b層	撚器	2.3	0.8	2.5	50	
66	21	B区	5トレンチ	1x層	撚器	3.9	2.7	1.3	135	
66	22	B区	4トレンチ	1x層	撚器	3.4	2.3	0.6	55	
66	23	B区	1トレンチ	1x層	撚器	4.3	3.9	1.1	205	
66	24	B区	5トレンチ	1b層	撚器	3.3	4.0	1.3	15	
67	25	B区	1トレンチ	1x層	石鏃	3.7	1.5	0.6	408	縦型
67	26	B区	2トレンチ	1b層	石鏃	3.5	2.5	1.1	90	縦型
67	27	B区	6トレンチ	1b層	石鏃	5.4	1.9	1.2	80	縦型
67	28	B区	6トレンチ	1b層	石鏃	4.7	2.0	0.6	55	縦型
67	29	B区	4トレンチ	1x層	石鏃	6.4	1.5	0.8	60	縦型
67	30	B区	2トレンチ	1x層	石鏃	7.2	2.5	0.8	15	縦型
67	31	B区	1トレンチ	1x層	石鏃	4.3	4.3	0.9	10	横型
67	32	B区	—	1x層	石鏃	3.4	4.2	0.7	85	横型
68	33	B区	5トレンチ	1x層	磨製石斧	6.7	2.9	1.0	30	
68	34	B区	—	1x層	磨製石斧	5.8	4.5	1.7	575	
68	35	B区	6トレンチ	1x層	磨製石斧	7.0	4.5	2.0	115	
68	36	B区	6トレンチ	B 5層	打製石斧	10.8	5.7	2.8	295	
68	37	B区	6トレンチ	1b層	打製石斧	8.4	5.1	1.2	95	
68	38	B区	3トレンチ	1x層	くぼみ石	12.5	11.3	2.1	460	1面にくぼみあり
69	39	B区	2トレンチ	1x層	磨石	8.4	5.6	3.0	180	1面に機能面あり
69	40	B区	6トレンチ	1b層	磨石	6.8	5.9	2.8	195	2面に機能面あり
69	41	B区	6トレンチ	1b層	磨石	11.3	6.0	4.2	495	1面に機能面あり
69	42	B区	5トレンチ	1b層	磨石	9.1	7.5	5.6	520	1面に機能面あり
70	43	B区	6トレンチ	1b層	磨石	15.2	5.5	3.4	430	1面に機能面あり
70	44	B区	5トレンチ	1b層	磨石	13.4	8.1	5.9	1070	2面に機能面あり
70	45	B区	1トレンチ	1x層	磨石	14.8	8.7	6.5	1425	2面に機能面あり
71	46	B区	4トレンチ	1x層	石皿	12.3	22.0	4.8	1890	
75	9	表様	—	—	石鏃	2.8	1.2	0.6	2	
75	10	表様	—	—	撚器	4.9	4.2	1.2	21	
75	11	A区	3トレンチ	B 1層	C字形石器	5.8	0.8	0.4	25	
75	12	表様	—	—	石鏃	6.4	2.5	0.9	12	縦型
75	13	表様	—	—	石鏃	4.2	5.4	0.9	9	横型
76	14	A区	1トレンチ	B 1層	磨製石斧	6.0	2.1	1.0	16	
76	15	A区	1トレンチ	1x-1a層	磨製石斧	5.6	2.1	1.2	25	
76	16	A区	2トレンチ	A 2層	磨石	8.1	7.5	5.6	140	1面に機能面あり
76	17	A区	2トレンチ	A 2層	磨石	14.2	6.9	1.7	235	1面に機能面あり

第7章 まとめ

東日本大震災による被災者の住宅再建に伴う赤前 I 牛子沢遺跡の発掘調査は、平成24年度に試掘調査及び発掘調査・内容確認調査が行われた。発掘調査が行われた本調査区（以後、C区）からは、縄文時代中期後半の竪穴住居跡2棟、奈良時代の竪穴住居跡3棟、中世の竪穴住居跡1棟のほか、土坑9基、ピット52基が検出され、縄文土器や石器、土師器、砥石などが出土した。さらに内容確認調査区（以後、A区・B区）からは、検出のみで精査は行っていないが、縄文時代中期の竪穴住居跡7棟、縄文時代前期及び中期の遺物包含層、土坑、ピットが見つかった。ここでは、赤前 I 牛子沢遺跡から検出された遺構・遺物の概要と古代の竪穴住居跡の堆積土中にみられた大量の自然礫・炭化材について詳述し、まとめとしたい。

1. 赤前 I 牛子沢遺跡において検出された遺構・遺物の概要

今回の発掘調査では、縄文時代中期・奈良時代・中世の各時代の遺構・遺物が検出されたことが最大の特徴である。ここでは各時代の様相についてみていきたい。

まず縄文時代は、前期の土器がB区の遺物包含層中から少量出土している。該期の竪穴住居跡は検出されていないため、集落域は今回の調査区からは外れていると考えられる。実際に、奈良文化財研究所が実施した地中レーダー探査実験では、調査区外に竪穴住居らしきものが見つかった。一方、縄文時代中期になると竪穴住居は急増し、B区・C区で合わせて9棟が検出されている。精査した竪穴住居では全て円形ないし隅丸方形の石囲炉が確認され、複式炉はみられなかった。出土した土器をみても大木8b式期に属するものが多く、この時期が集落の最盛期と推測される。なお、B区では竪穴住居の重複関係が確認されており、縄文時代中期後半代の中でも若干の時期差があると考えられる。

次に竪穴住居が構築されるのは奈良時代である。C区のみから3棟検出されている。2棟は北東壁にカマドをもち中軸線を同じくするが、1棟のみ北壁にカマドをもち、軸がずれている。重複関係はないため、軸の相違が時期差を表すかどうかは不明である。1号・3号竪穴住居跡は掘り込みが浅く、カマド周辺に構築材として利用したと考えられる礫が出土しているが、使用時の状態は留めておらず、住居廃絶前に壊されていると推測される。さらに1号竪穴住居跡のカマド周辺には貼床が部分的に確認されている。また、南東壁の周辺から粘土塊の広がり2箇所検出していることが特筆される。検出状況からカマドの構築や土師器製作のために保管していたものと推測される。古代の竪穴住居の検出面は地山面であるが、C区の地山層には自然礫が大量に含まれており、竪穴住居の床面においても同様に自然礫により凹凸の激しい状態が確認された。奈良時代当時は蓆などの敷物を敷いて生活していたと想像するに難くない。

次は、中世と考えられる時期の竪穴住居跡が1棟検出されている。2号竪穴住居跡からは磨石と鉄床石と思われる石器のみ出土しており、遺物から中世と捉えることはできなかったが、竪穴住居の形態をみると、壁の一辺に掘り込みの浅い張出し部をもち、さらに周溝に壁柱穴が多数検出されるという特徴がみられた。市内では赤畑東遺跡や赤畑遺跡、熊野町 I 遺跡で同様の遺構が検出され、中世の年代が与えられている。さらに赤前 I 牛子沢遺跡の第1次調査では12～13世紀の鎌倉時代頃の陶磁器が出土しており、時期差があるが、室町時代頃とされる遺跡北側の丘陵上にある赤前館跡との関連性が指摘されている。

2. 古代の竪穴住居跡にみられた自然礫・炭化材の出土状況について

今回、奈良時代と推測される4号竪穴住居跡からは、堆積土中に自然礫や炭化材が大量に出土し、

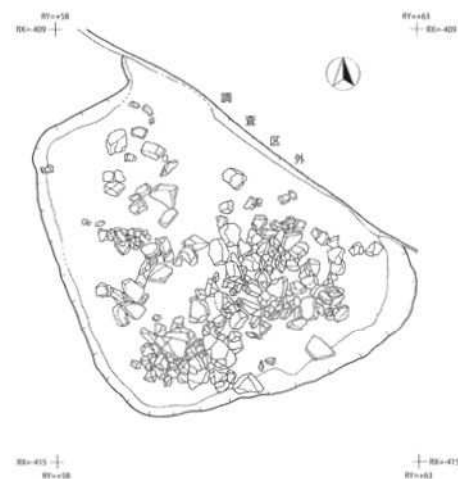
他の住居にはみられない特徴的な様相を呈していた。ここでは出土状況や分析結果を詳述し、今後の参考に資すればと思う。まず、自然礫は黒色の堆積土である3層中において住居跡の南側を中心に出土している。カマド周辺及び壁際では比較的礫が少ない状況も確認できた。さらに礫は上下に積み重なるのではなく、平面的な広がりをもって出土しており、明らかに人為的な行為が想定される。一方、炭化材はさらに下層である6層中から出土している。自然礫の分布とは反対に壁際からの出土が多く、棒状の炭化材が壁に対して直角に出土していることから垂木の可能性が考えられる。

今回これらの炭化材の自然科学分析を行った。炭化材9試料について行った樹種同定では、全てコナラ属コナラ節という結果が出た。前述のとおり、これらの炭化材は竪穴住居の建築部材と推測されるが、市内の乙部Ⅱ遺跡で検出された奈良時代の竪穴住居跡の炭化材も80%がコナラ属コナラ節であったとの結果が出ている。該期における建築部材選定の傾向がうかがえる。

さらに炭化材3試料について放射性炭素年代測定法を行った。壁際から出土した炭化材2点は出土した土師器坏・甕の形態から推測した年代（8世紀前半代）とほぼ同様の年代値が得られた。しかし床面の中央部から出土した炭化材のみ、さらに古い年代値となったため、何らかの原因、例えば自然礫と一緒に混入した可能性が高いと考えられる。

これらのことから、奈良時代において建築部材が焼けるような火災があり、その後にそれらの炭化材を埋めるように周辺で採取できる自然礫を大量に投げ込むという行為が行われたと推測される。

管見では同様の事例は市内では確認できず、その行為については単なる廃棄なのか、火災と関係があるのかなど、明確に位置付けることはできなかった。今後の復興調査の総括を待ち、再度検討を加えたい。



第 77 図 4号竪穴住居跡 礫出土状況

3. 総括

今回の赤前Ⅰ牛子沢遺跡の発掘調査は東日本大震災の被災者の住宅建築に伴い、平成24年度に実施されたものである。震災から1年経過し次第に落ち着きを取り戻してきたところで、この発掘調査以後、個人住宅の建築や高台移転に伴う公共事業などの復興調査が急増していった。宮古市においては他自治体からの派遣職員との初めての共同発掘調査であり、さらに復興調査の現地説明会としては岩手県内で初めて開催されたという点で、以後の復興調査の進め方を決定付けた遺跡といえる。

今回の発掘調査によって、縄文時代前期～中期・奈良時代・中世と各時代における竪穴住居跡が検出され、空白の時代はあるものの連綿と人の営みが続いてきた様相がうかがえる。一方、遺跡の立地をみると標高約16mと、宮古市内の他の遺跡の標高と比べると低地にある遺跡といえるが、さらに標高の低い地点に遺跡は残っているのか、もしくは低地での営みは全くなかったのか、疑問が残る。今後の復興調査の総括・考察を待ちたい。

<引用・参考文献>

1995『赤前Ⅰ牛子沢遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』宮古市埋蔵文化財調査報告書42

写真図版



1. 調査前現況 (南→)



2. 試掘調査状況 (南→)



3. 本調査区（C区） 遺構検出状況（南→）



4. 本調査区（C区） 調査区北壁 堆積状況（南→）



5. 本調査区・内容確認調査区 発掘風景（南→）



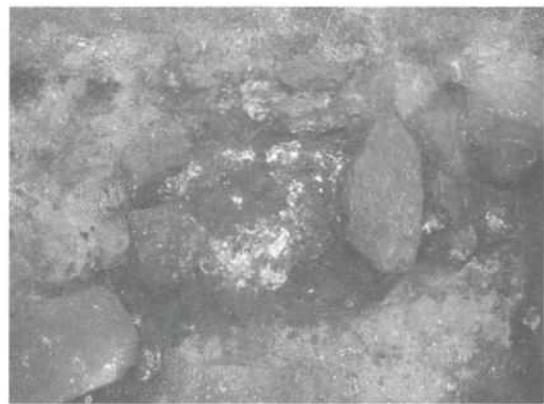
6. 地中レーダー探査 実験状況（東→）



7. 1号竪穴住居跡 検出状況 (東→)



8. 1号竪穴住居跡 堆積状況 (東→)



9. 1号竪穴住居跡 粘土塊出土状況 (東→)



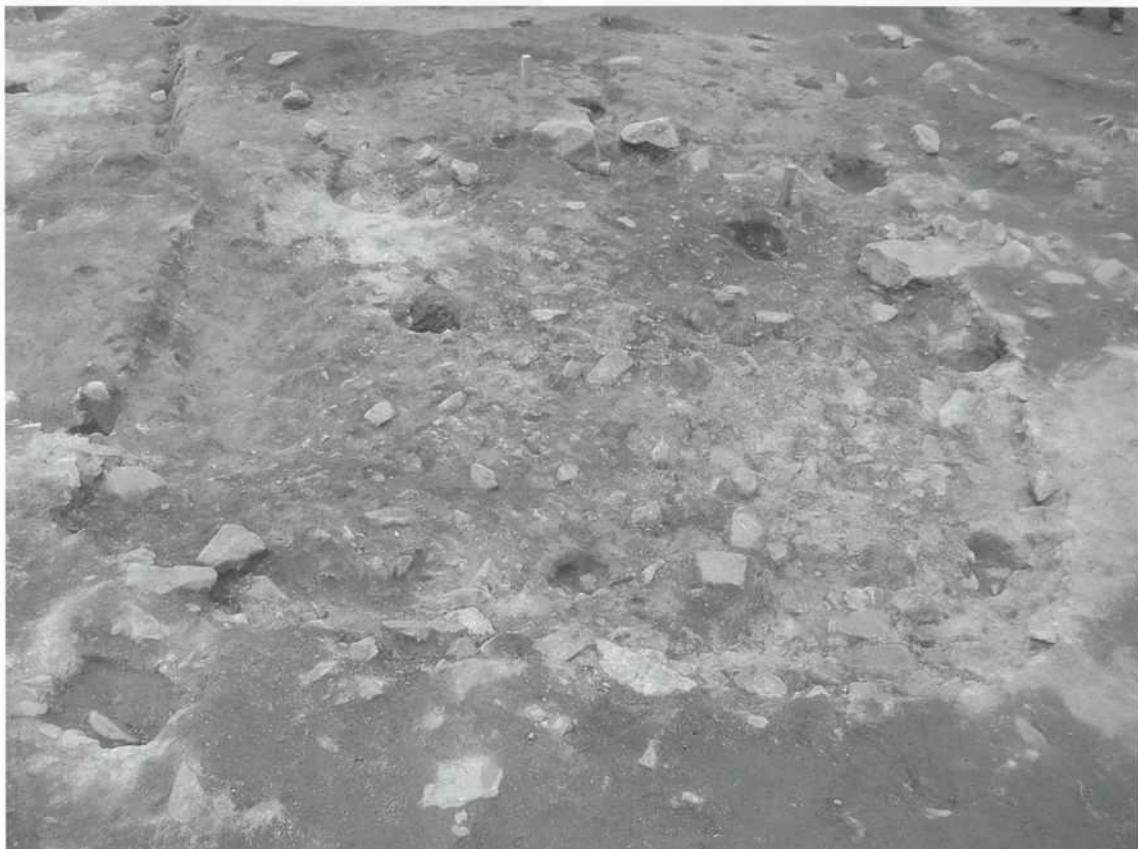
10. 1号竪穴住居跡 カマド堆積状況 (東→)



11. 1号竪穴住居跡 土師器出土状況 (東→)



12. 1号竪穴住居跡 カマド完掘状況 (東→)



13. 1号竪穴住居跡 完掘状況 (東→)



14. 2号竪穴住居跡 検出状況（東→）



15. 2号竪穴住居跡 堆積状況（東→）



16. 2号竪穴住居跡 張り出し部状況（東→）



17. 2号竪穴住居跡 床面出土状況（東→）



18. 2号竪穴住居跡 ピット堆積状況（南→）



19. 2号竪穴住居跡 壁柱穴 完掘状況 (東→)



20. 2号竪穴住居跡 完掘状況 (東→)



21. 3号竪穴住居跡 検出状況 (南→)



22. 3号竪穴住居跡 堆積状況 (東→)



23. 3号竪穴住居跡 堆積状況 (南→)



24. 3号竪穴住居跡 床面出土状況 (東→)



25. 3号竪穴住居跡 カマド堆積状況 (南→)



26. 3号竪穴住居跡 カマド完掘状況 (東→)



27. 3号竪穴住居跡 完掘状況 (東→)



28. 4号竪穴住居跡 検出状況（南西→）



29. 4号竪穴住居跡 堆積状況（南東→）



30. 4号竖穴住居跡 炭化材出土状況（南→）



31. 4号竖穴住居跡 炭化材出土状況（北西→）



32. 4号竖穴住居跡 炭化材出土状況（北→）



33. 4号竖穴住居跡 炭化材出土状況（北西→）



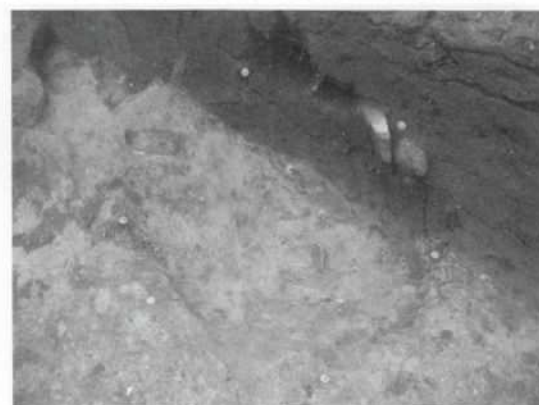
34. 4号竖穴住居跡 砥石出土状況（南→）



35. 4号竖穴住居跡 カマド堆積状況（南→）



36. 4号竖穴住居跡 カマド燃烧部状況（南→）



37. 4号竖穴住居跡 カマド掘方状況（南東→）



38. 4号竖穴住居跡 礫出土状況（南東→）



39. 4号竖穴住居跡 礫出土状況（北→）



40. 4号竪穴住居跡 カマド完掘状況 (南東→)



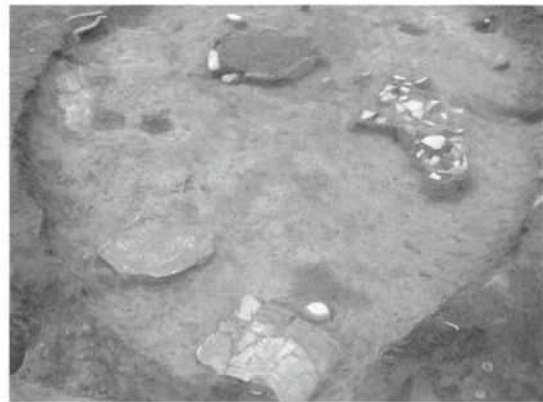
41. 4号竪穴住居跡 完掘状況 (南東→)



42. 5号竪穴住居跡 検出状況 (東→)



43. 5号竪穴住居跡 堆積状況 (南→)



44. 5号竪穴住居跡 遺物出土状況 (南→)



45. 5号竪穴住居跡 遺物出土状況 (南→)



46. 5号竪穴住居跡 炉跡堆積状況 (南→)



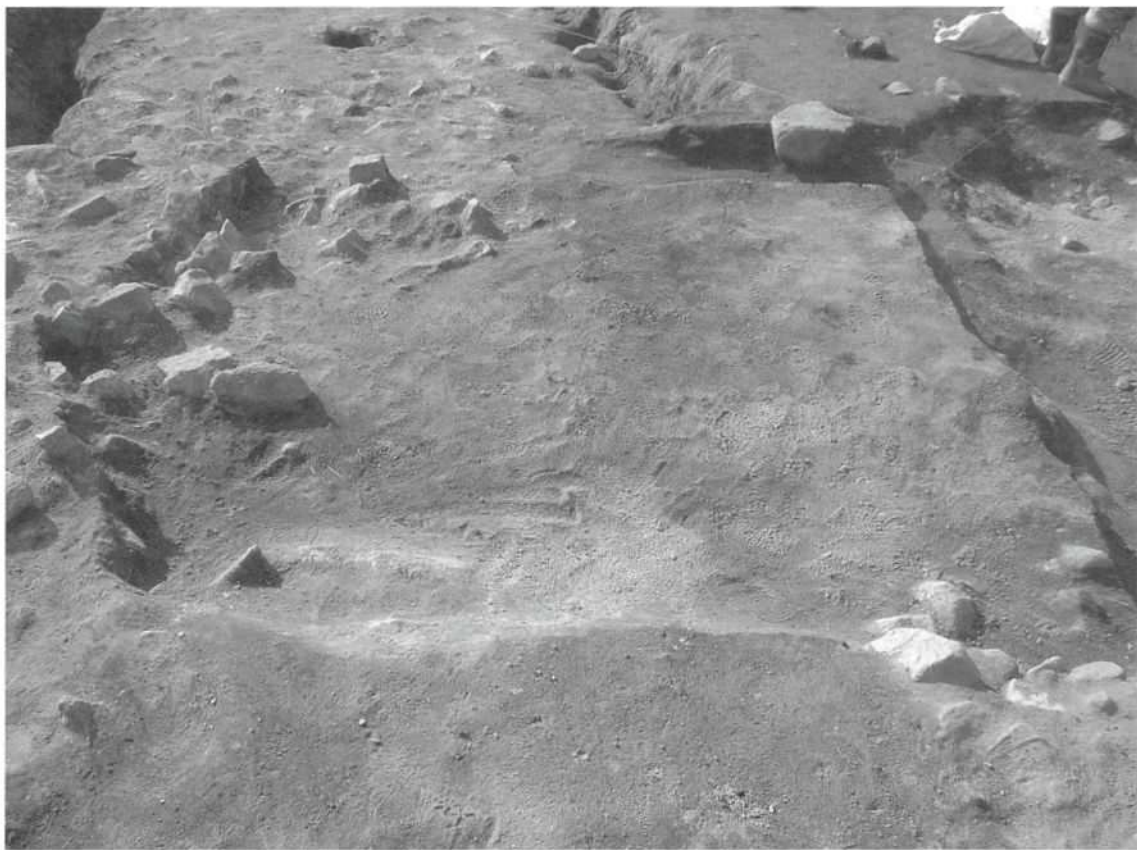
47. 5号竪穴住居跡 石囲炉 完掘状況 (南→)



48. 5号竪穴住居跡 完掘状況 (北→)



49. 6号竪穴住居跡 堆積状況 (南→)



50. 6号竪穴住居跡 完掘状況 (東→)



51. 1号土坑 完掘状況（北→）



52. 2号土坑 完掘状況（南→）



53. 3号土坑 完掘状況（南→）



54. 4号土坑 完掘状況（南→）



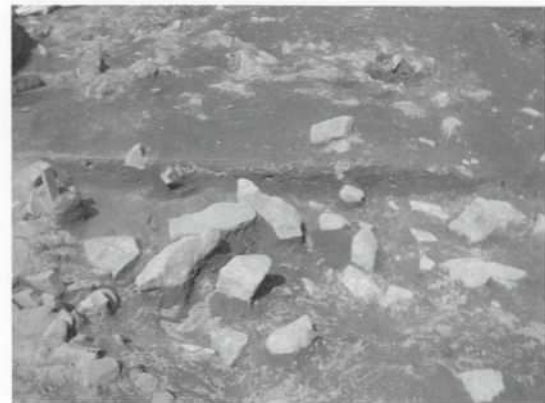
55. 5号土坑 堆積状況（南→）



56. 5号土坑 完掘状況（西→）



57. 6号土坑 堆積状況（東→）



58. 9号土坑 堆積状況（南→）



59. 本調査区（C区） 遺構完掘状況（東→）



60. 本調査区（C区） 遺構完掘状況（南→）



61. 本調査区（C区） 遺構完掘状況 （南→）



62. 本調査区（C区） 遺構完掘状況 （東→）



63. 内容確認調査区（B区） 遺構検出状況（南→）



64. 内容確認調査区（B区） 遺構検出状況（北→）



65. 内容確認調査区（B区）北部 遺構検出状況（西→）



66. 内容確認調査区（B区）北部 遺構検出状況（西→）



67. 内容確認調査区（B区） 遺構検出状況（北→）



68. 内容確認調査区（B区） B 1 号～B 4 号・B 6 号竪穴住居跡 検出状況（北→）



69. 内容確認調査区（B区） B 1 号～B 3 号竪穴住居跡 検出状況（西→）



70. B 3 号竪穴住居跡 検出状況（東→）



71. B 1 号竪穴住居跡 石囲炉 検出状況（北→）



72. B 6 号竪穴住居跡 検出状況（西→）



73. B 6 号竪穴住居跡 石囲炉 検出状況（東→）



74. B 4 号竪穴住居跡 検出状況 (東→)



75. B 4 号竪穴住居跡 縄文土器出土状況 (南→)



76. B 4号竖穴住居跡 石囲炉 検出状況 (北東→)



77. B 4号竖穴住居跡 石囲炉 検出状況 (南→)



78. B 7 号竪穴住居跡 石囲炉 検出状況 (南→)



79. 内容確認調査区 (B 区)
6 トレンチ掘り下げ状況 (東→)



80. B 区 6 トレンチ堆積状況 (南→)



81. B 区 6 トレンチ堆積状況 (南東→)



82. 内容確認調査区（B区） 埋め戻し状況（北→）



83. A区 1 トレンチ掘り下げ状況（南→）



84. A区 2 トレンチ掘り下げ状況（南→）



85. A区 3 トレンチ掘り下げ状況（南→）



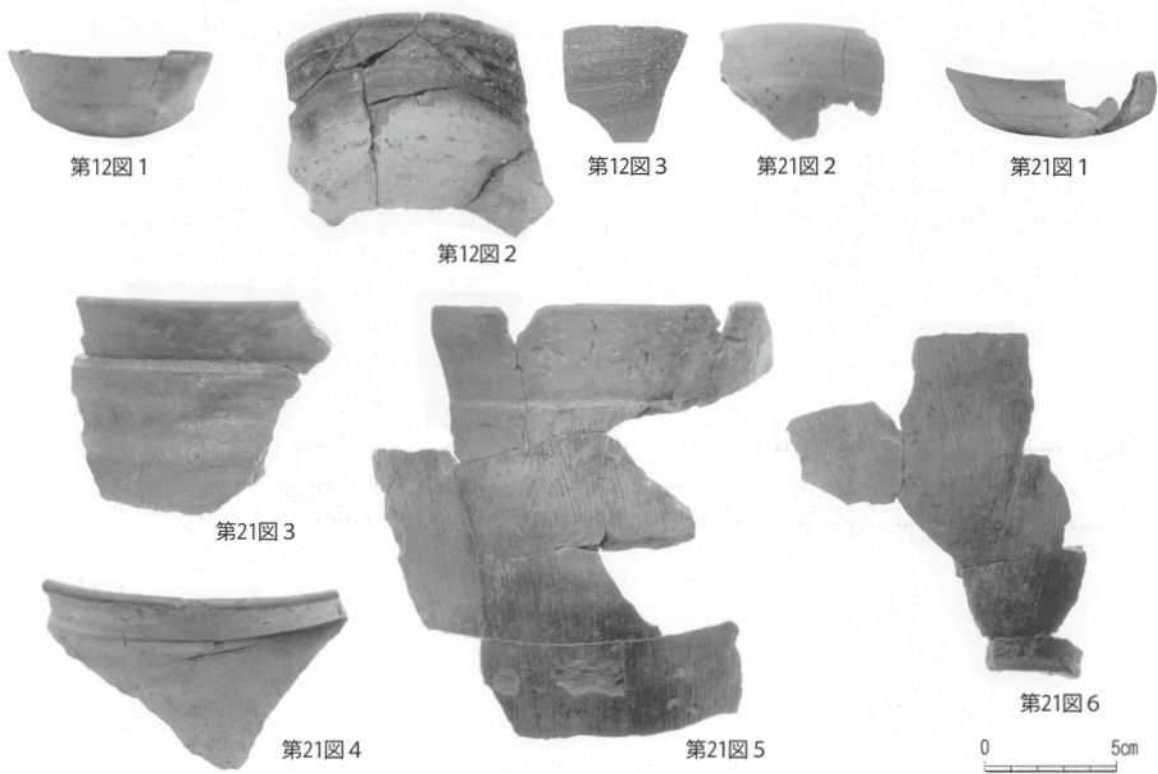
86. A区 試掘トレンチ掘り下げ状況（南→）



87. 平成24年5月27日 現地説明会 開催 (南→)



88. 平成24年5月27日 現地説明会 開催 (南→)



89. 出土土器



90. 出土土器



第31図 1



第31図 3



第31図 2

91. 出土土器



第32図 4



第32図 5



第32図 6



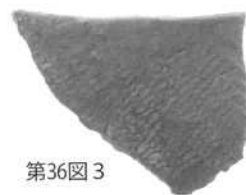
第32図 7



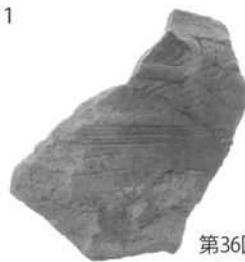
第36図 2



第36図 1



第36図 3



第36図 4



第36図 5



92. 出土土器



第41図1



第41図2



第41図3



第41図4



第41図7



第41図5



第41図6



第41図8



93. 出土土器



第41図9



第41図10



第41図12



第41図11



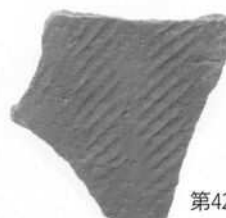
第41図13



第42図14



第42図15



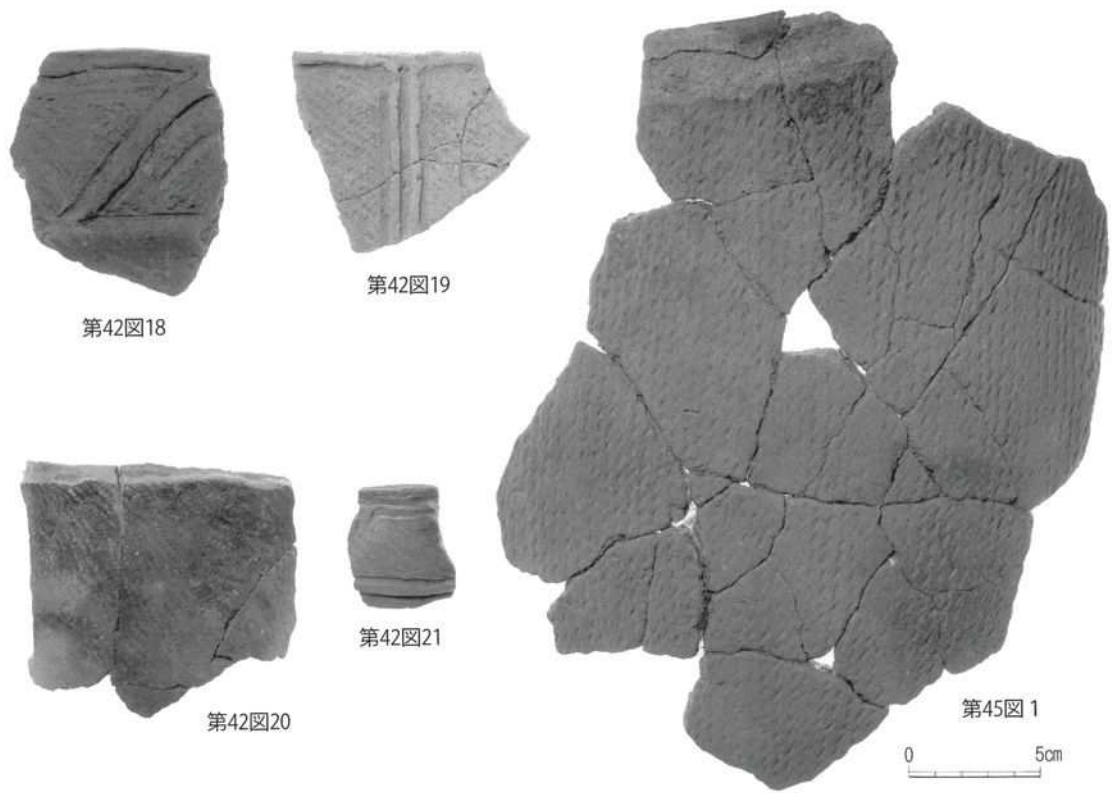
第42図16



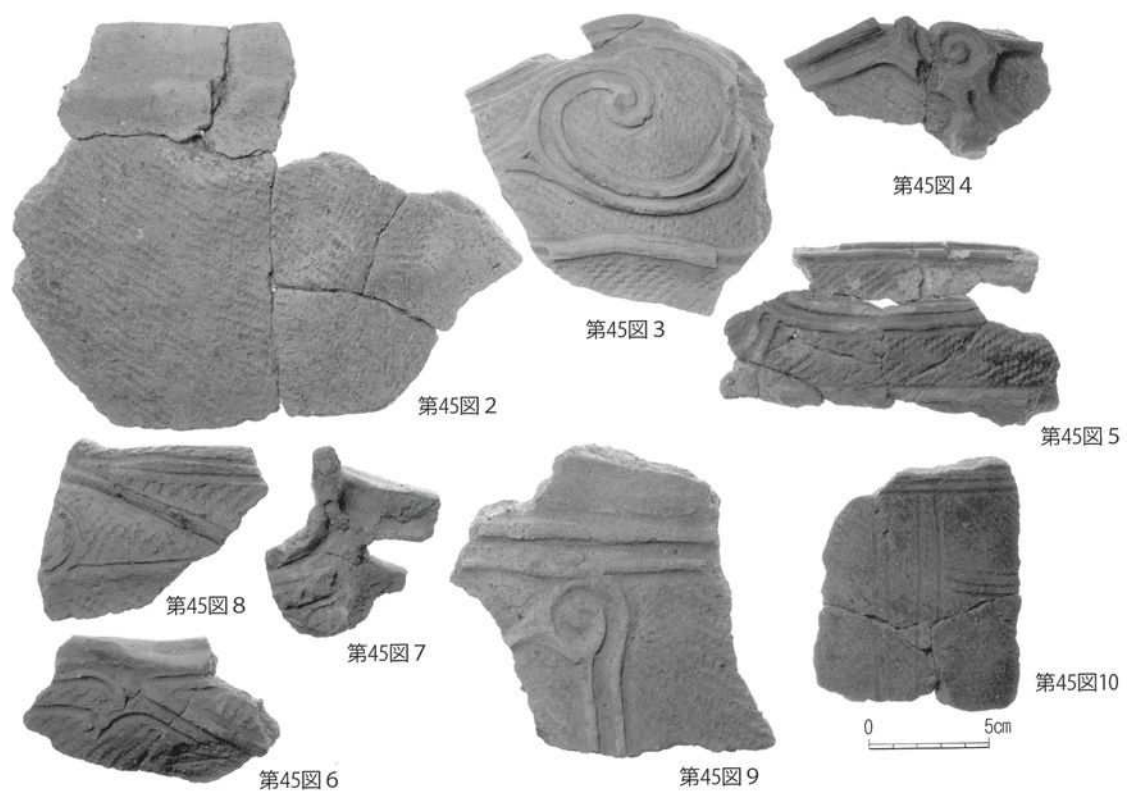
第42図17



94. 出土土器



95. 出土土器



96. 出土土器



第57図 1



第58図 2



第58図 3



97. 出土土器



第58図 4



第58図 7



第58図 5



第59図 8

98. 出土土器



第58図 6



第59図 9

99. 出土土器



第63図 2



第63図 1



第63図 5



第63図 6



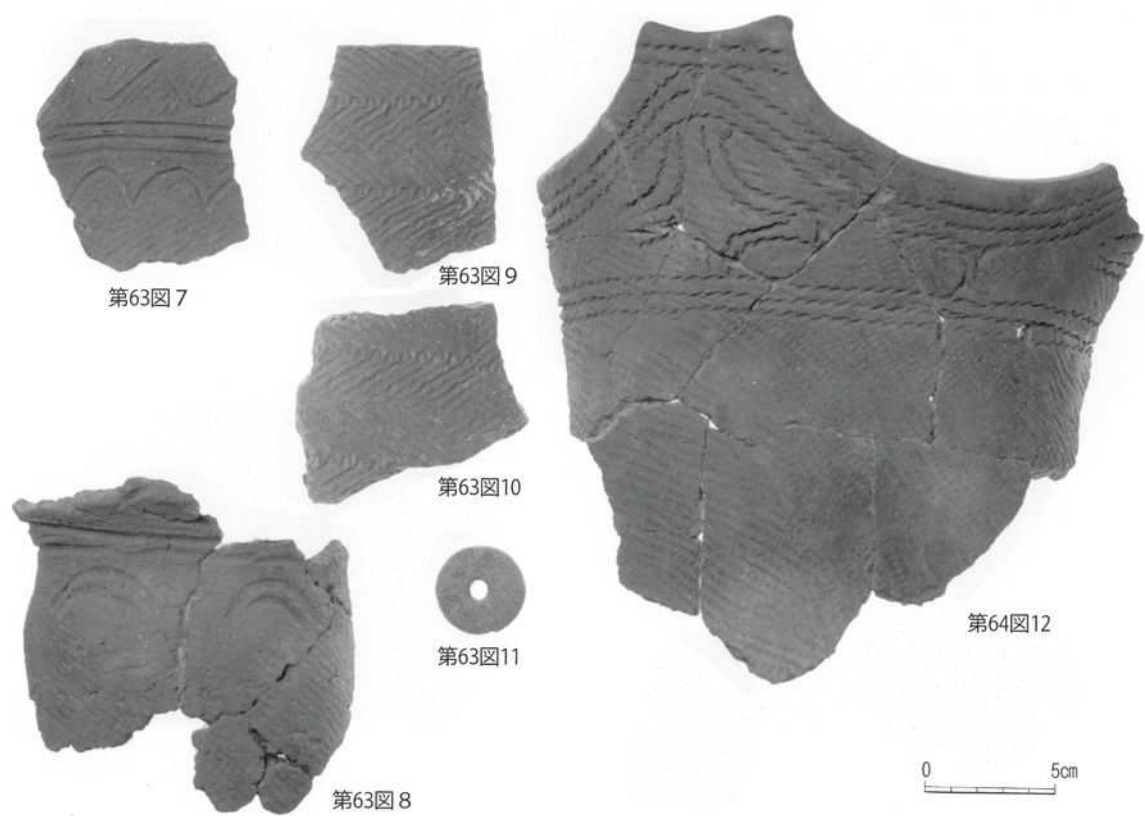
第63図 3



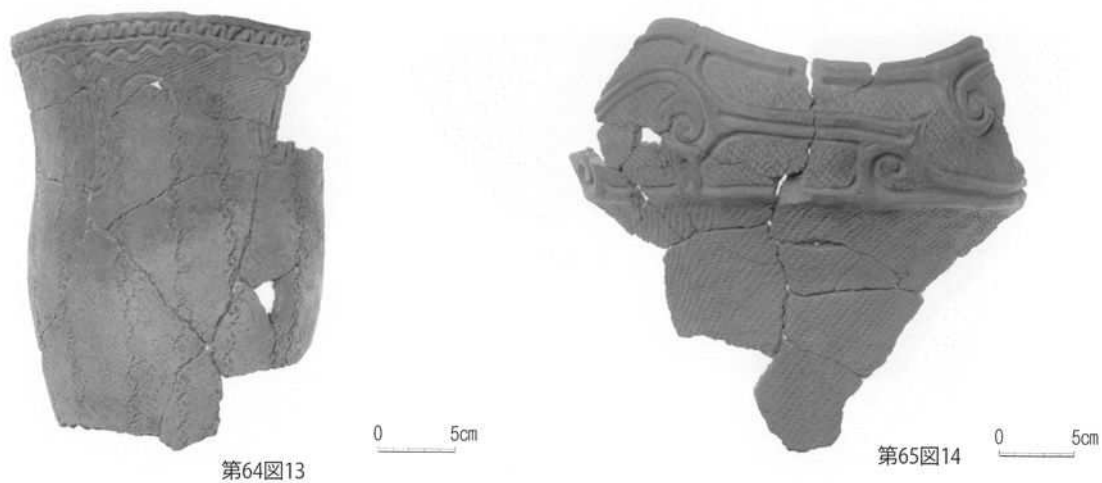
第63図 4

100. 出土土器

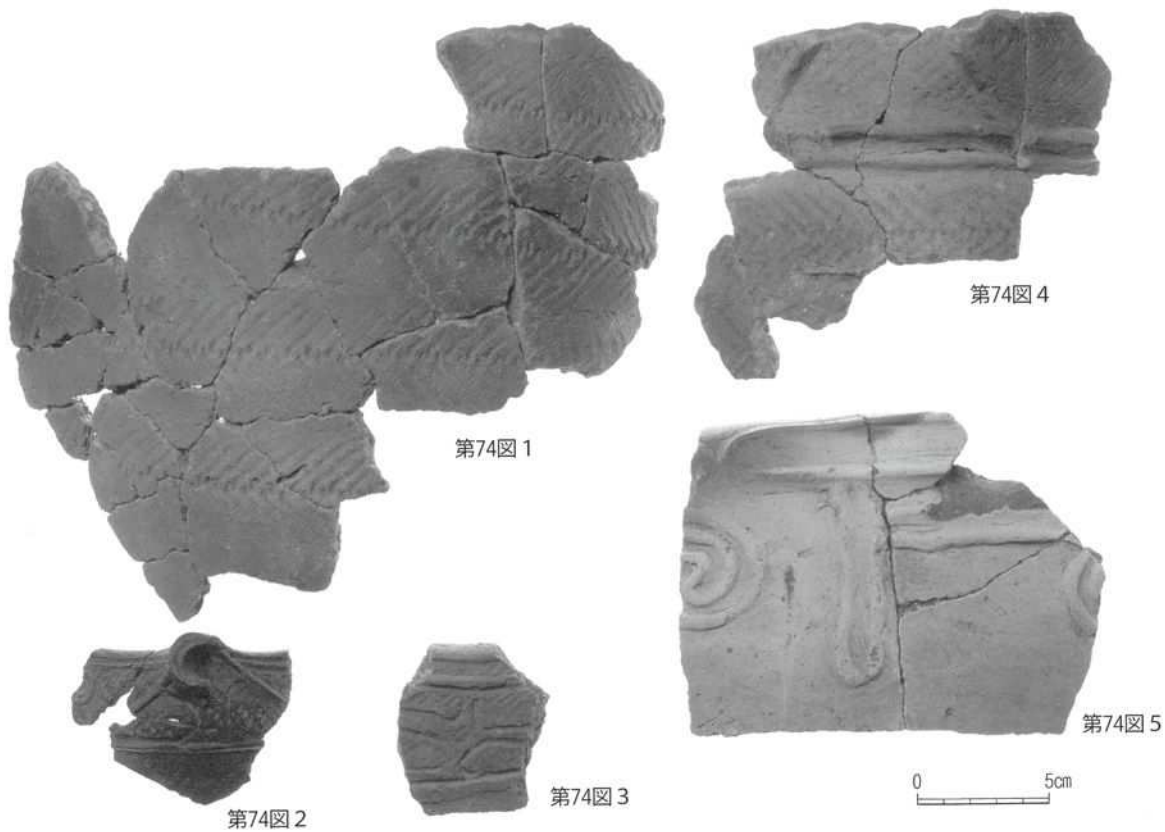




101. 出土土器



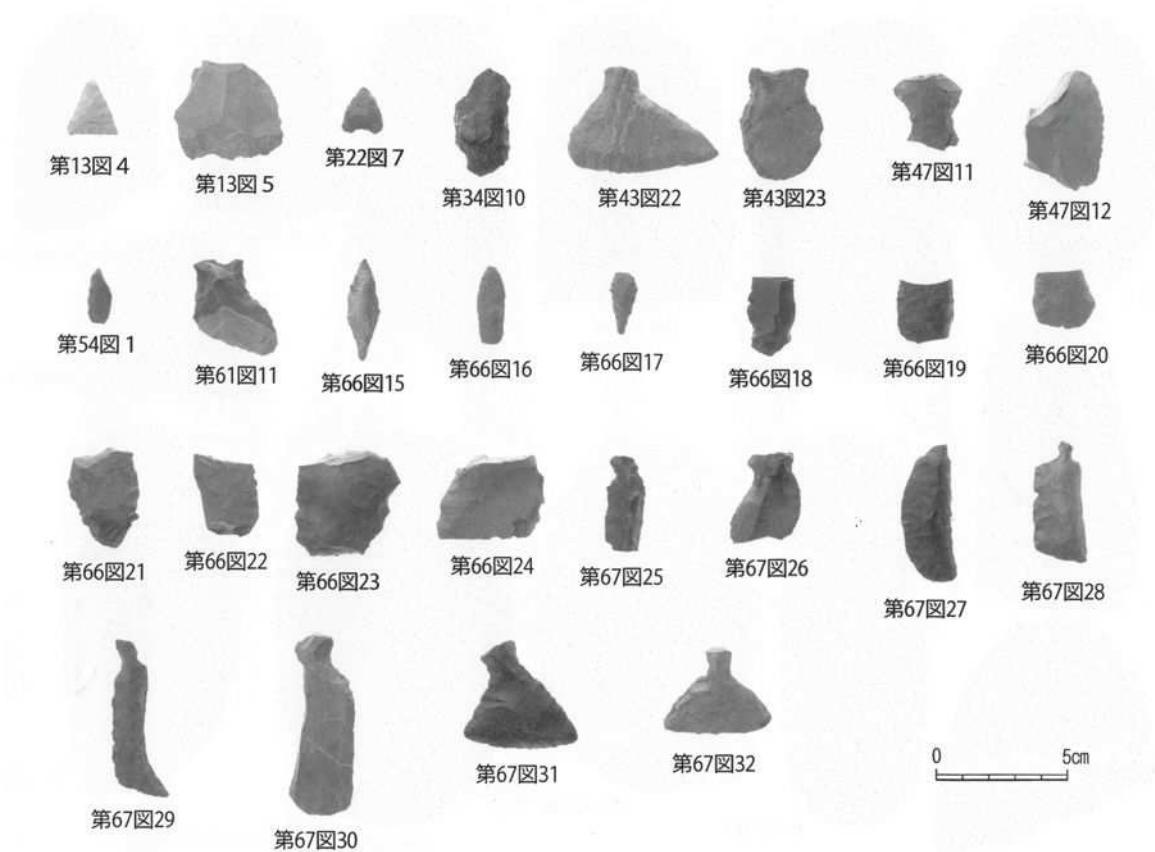
102. 出土土器



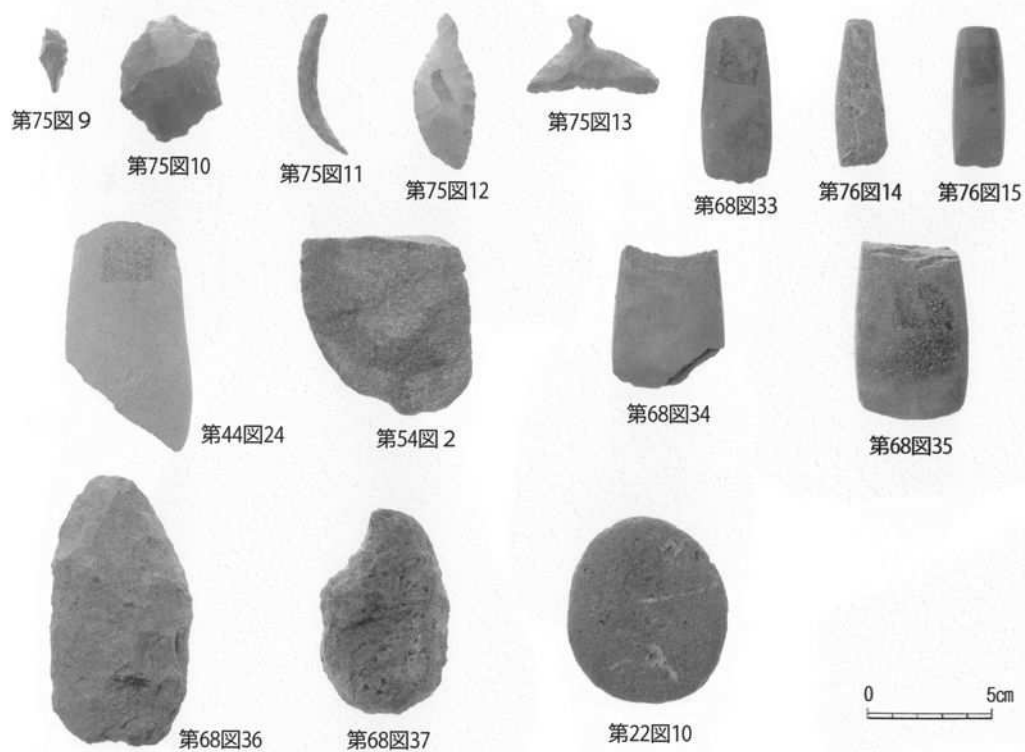
103. 出土土器



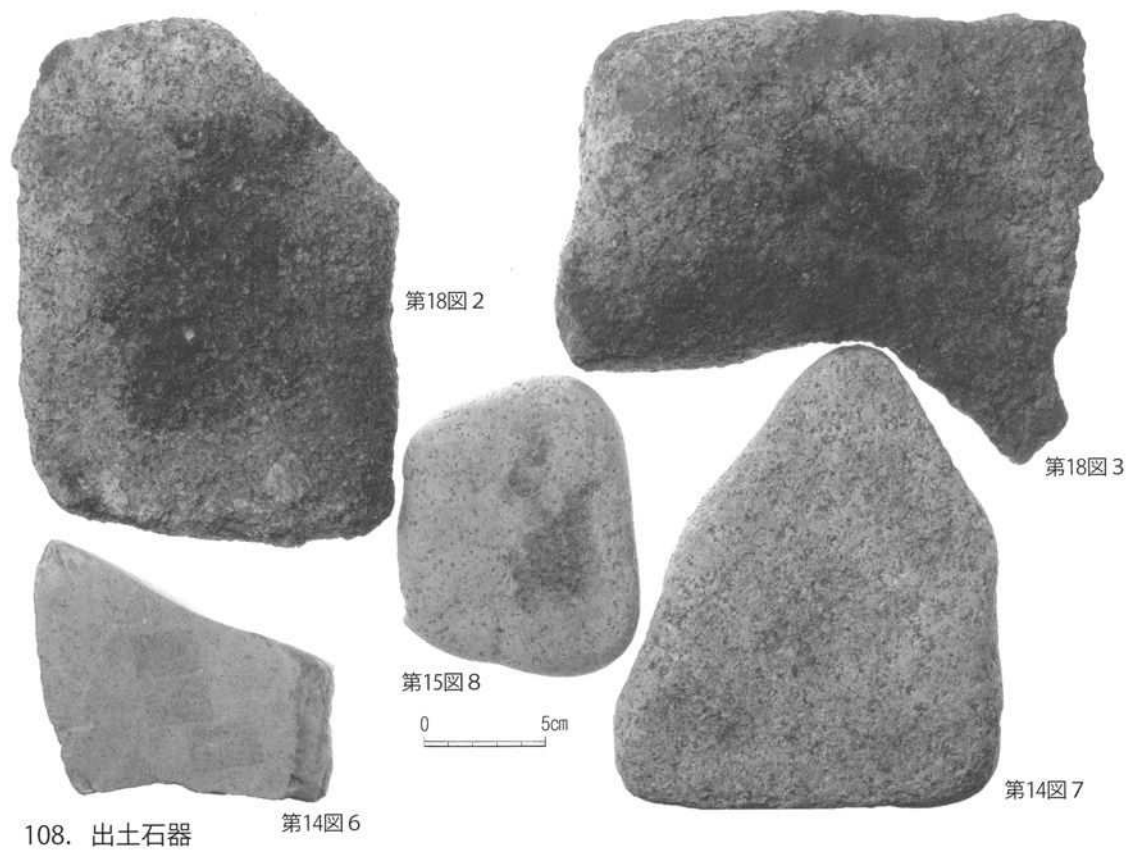
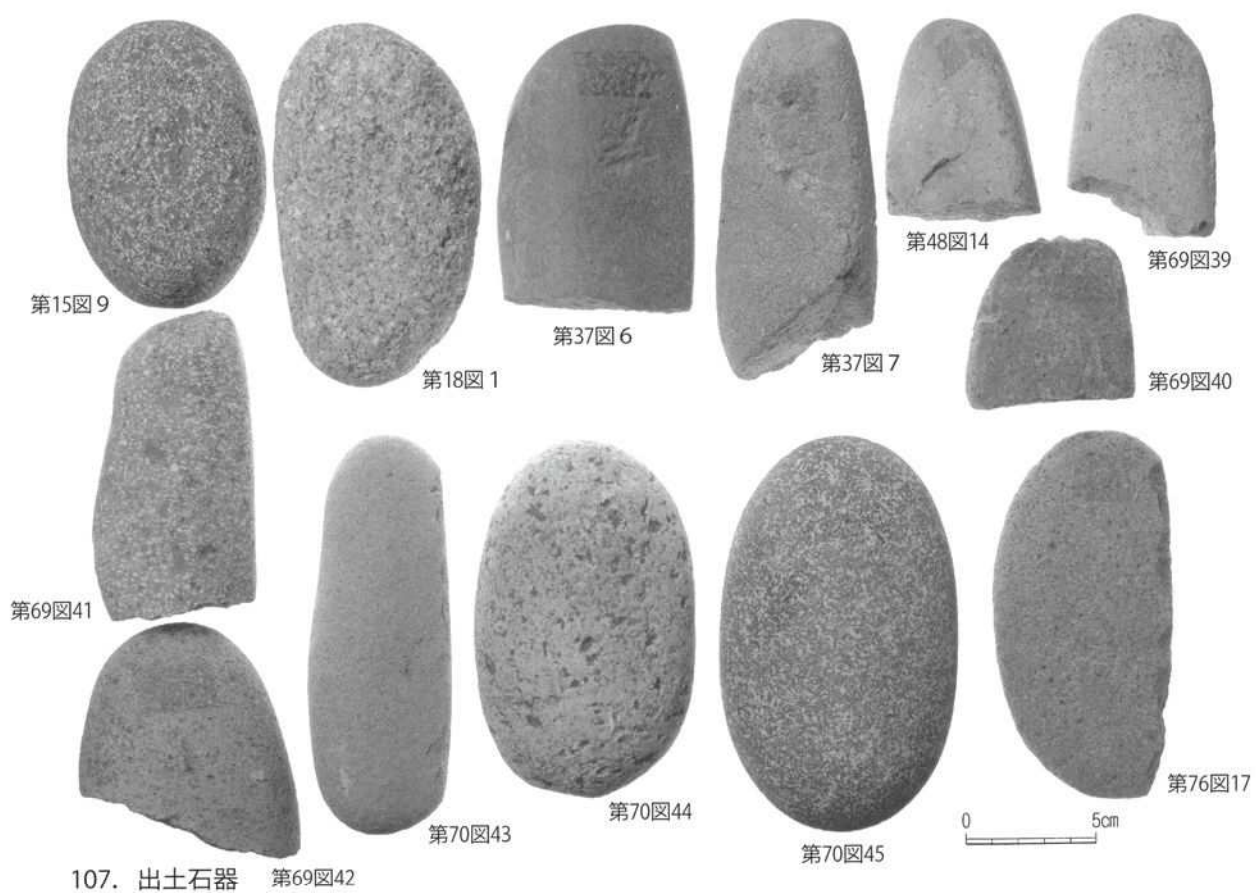
104. 出土土器

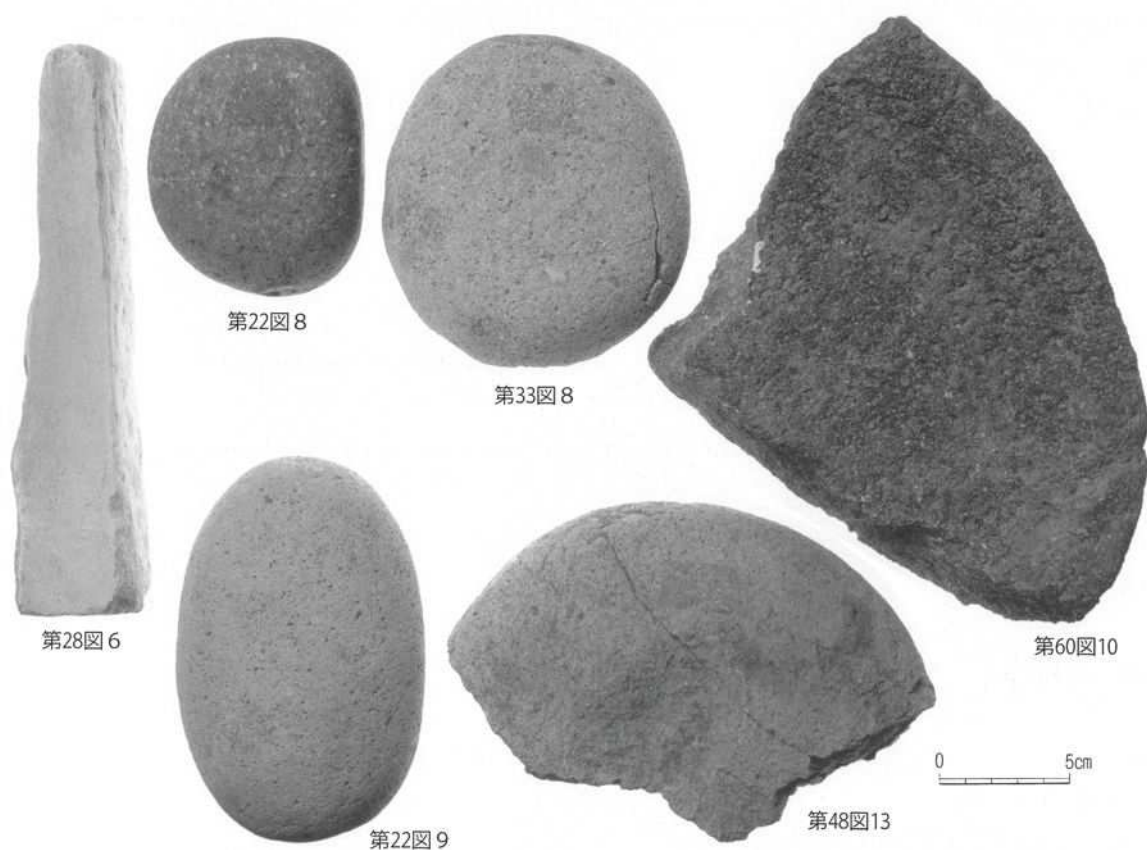


105. 出土石器

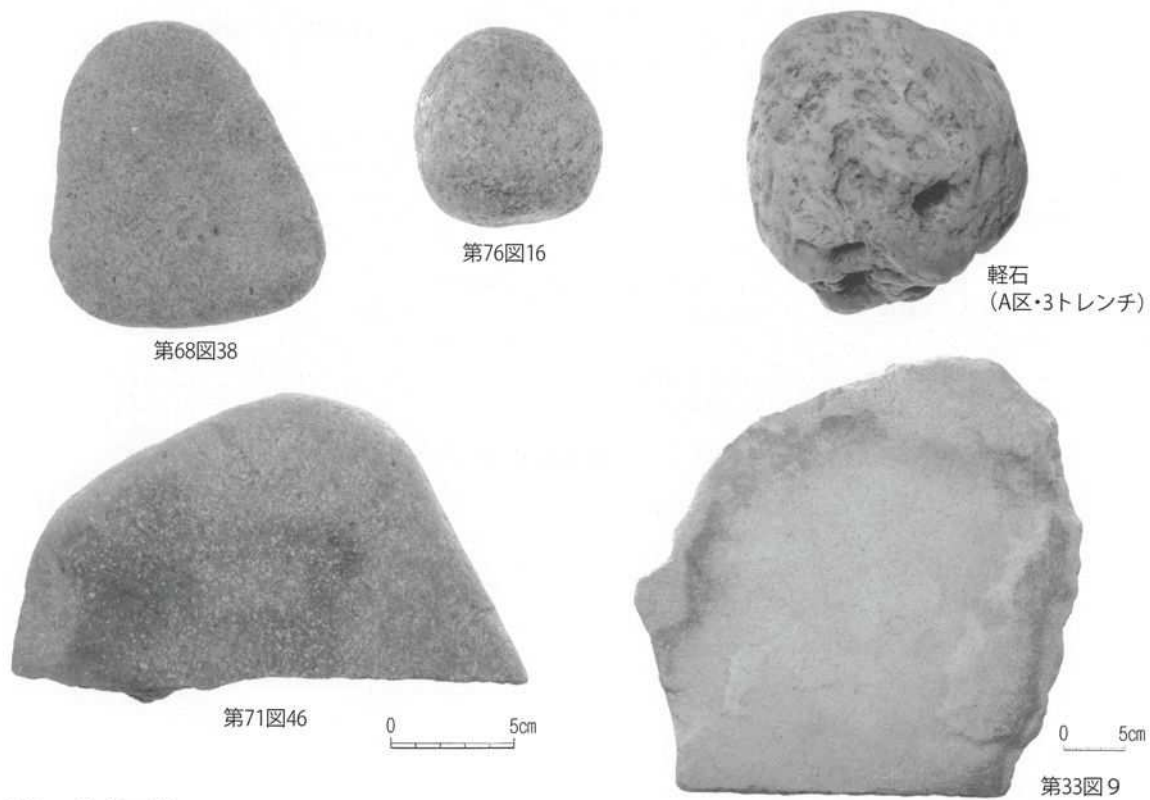


106. 出土石器





109. 出土石器



110. 出土石器

報告書抄録

ふりがな	あかまえ 1 うしこざわ							
書名	赤前 1 牛子沢遺跡							
副書名	東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書 2							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	102							
編著者名	長谷川真							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒 027 - 8501 岩手県宮古市宮町一丁目1番30号 T E L . 0193-62-2111							
発行年月日	2019 年 3 月 29 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)	(世界測地系)			
あかまえ 赤前 1 牛子沢 遺跡	いわて けんみやこし 岩手県宮古市 あかまえだ い ち わ り ち ない 赤前第3地割地内	03202	LG54-1072	39° 34' 35"	141° 57' 4"	2012.4.6 ~ 4.13(試掘) 2012.4.16 ~ 5.31(本調査・ 内容確認調査)	本調査区 約360㎡ 内容確認 調査区 約720㎡	被災者住宅再建 に伴う本調査・ 内容確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
赤前 1 牛子沢 遺跡	散布地	縄文時代	竪穴住居跡6棟(縄文 時代中期・奈良時代・ 中世) 土坑9基 ピット52基 縄文時代前期・中期 の遺物包含層	縄文土器・石器(石鏃・磨石など)・土師器・砥石など			縄文時代・奈良 時代・中世の各 時代の集落跡を 検出。 奈良時代の竪穴 住居からは礫が 大量に出土。	

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

番号	年度		番号	年度	
1	1979	『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』	60	2003	『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡―市内遺跡発掘調査報告書3―』
2	1980	『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』	61	2003	『早稲橋Ⅵ遺跡第6次調査―市内遺跡発掘調査報告書4―』
3	1983	『宮古市遺跡分布調査報告書1』	62	2003	『下在家Ⅰ遺跡―平成14年度発掘調査報告書―』
4	1984	『宮古市遺跡分布調査報告書2』	63	2004	『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡―市道開伊崎線改良工事関係発掘調査報告書―』
5	1984	『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』	64	2005	『弘川館跡―瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書―』
6	1985	『宮古市遺跡分布調査報告書3』	65	2006	『高浜Ⅵ地神遺跡―高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書―』
7	1985	『金浜館跡発掘調査報告書』	66	2006	『崎山貝塚第20次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第7次調査―市内遺跡発掘調査報告書5―』
8	1986	『宮古市遺跡分布調査報告書4』	67	2006	『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡―市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書―』
9	1986	『宮古市遺跡分布図―昭和60年度版―』	68	2006	『木戸井内Ⅳ遺跡―宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書―』
10	1986	『中谷地・島田遺跡調査報告書』	69	2006	『宮ノ沢遺跡発掘調査―市内遺跡発掘調査報告書6―』
11	1987	『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』	70	2007	『山口館跡―市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書―』
12	1987	『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書』	71	2007	『近内館跡―宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書―』
13	1987	『崎山遺跡群Ⅰ―昭和60年度発掘調査概報―』	72	2007	『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査―市内遺跡発掘調査報告書7―』
14	1988	『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群（堀合館）―昭和62年度発掘調査報告書―』	73	2007	『弘川館跡第2次調査―宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書―』
15	1988	『崎山遺跡群Ⅱ―昭和62年度発掘調査概報―』	74	2008	『荷竹日向Ⅳ遺跡―市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書―』
16	1989	『千鶴遺跡―昭和62年度発掘調査報告書―』	75	2008	『宮古市遺跡分布調査報告書5』
17	1989	『トロノ木Ⅰ遺跡―第1～7次発掘調査報告書―』	76	2009	『国指定史跡崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報（骨角器篇）』
18	1989	『崎山遺跡群Ⅲ―昭和63年度発掘調査概報―』	77	2010	『宮古市遺跡分布調査報告書6』
19	1989	『高根遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―』	78	2011	『宮古市遺跡分布調査報告書7』
20	1989	『狐崎Ⅵ遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―』	79	2012	『重茂館遺跡群・第2次発掘調査報告書―』
21	1989	『崎山トロノ木Ⅳ遺跡―昭和63年度調査報告書―』	80	2014	『八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡・市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書―』
22	1990	『狐崎遺跡―平成元年度発掘調査報告書―』	81	2014	『蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡・市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書―』
23	1990	『崎山遺跡群Ⅳ―平成元年度発掘調査概報―』	82	2014	『赤畑東遺跡―山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書―』
24	1990	『磯鶏館山遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―』	83	2015	『千徳城遺跡群―一条工務店モデルハウス建築工事関係発掘調査報告書―』
25	1990	『鎌ヶ崎館山貝塚―平成元年度発掘調査報告書―』	84	2015	『黒森町Ⅰ遺跡―宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書―』
26	1991	『崎山遺跡群Ⅴ―平成2年度発掘調査概報―』	85	2015	『宮ノ沢遺跡・棚館Ⅰ遺跡・市道長根岩船線道路改良工事関係発掘調査報告書―』
27	1991	『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群―平成元年・2年度発掘調査報告書―』	86	2016	『千徳城遺跡群・アパート建築関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
28	1990	『熊野所遺跡―昭和63年度発掘調査報告書―』	87	2016	『重茂館遺跡群・重茂小学校仮設グラウンド整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書・（第3次調査）』
29	1991	『弘川Ⅰ遺跡―平成2年度発掘調査報告書―』	88	2016	『重茂館遺跡群・重茂漁港地区漁業集落防災機能強化事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書・（第4次調査）』
30	1992	『金浜Ⅰ遺跡（昭和58年度）・大付遺跡（平成2年度）発掘調査報告書』	89	2016	『重茂館遺跡群・重茂漁業協同組合重茂給油所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書・（第5次調査）』
31	1992	『重茂館遺跡群―第1次調査報告書―』	90	2016	『下大谷地Ⅵ 大谷地Ⅰ遺跡・市道下大谷地花輪線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
32	1992	『黒森町Ⅰ遺跡―平成2年度発掘調査報告書―』	91	2016	『千鶴Ⅲ遺跡・千鶴地区漁業集落防災機能強化事業関係発掘調査報告書―』
33	1992	『高根遺跡―平成3年度発掘調査報告書―』	92	2016	『金浜館跡・市道磯鶏金浜線（金浜工区）道路整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
34	1992	『鯉沢遺跡―平成2年度発掘調査報告書―』	93	2016	『乙部Ⅱ遺跡―旧老地区防災集団移転促進事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』
35	1992	『大付遺跡―平成3年度発掘調査報告書―』	94	2018	『高浜Ⅱ今ヶ洞遺跡―災害公営住宅整備事業（高浜）関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
36	1992	『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅵ遺跡―農林課関係田地区埋蔵文化財発掘調査報告書―』	95	2018	『刈屋清水野遺跡 下刈屋Ⅰ遺跡―市道刈屋和井内線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
37	1992	『崎山遺跡群Ⅵ―平成3年度発掘調査概報―』	96	2018	『沼里館跡―都市防災総合推進事業（公園整備）関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
38	1993	『萩沢Ⅵ遺跡―平成4年度発掘調査報告書―』	97	2018	『日の出町Ⅱ遺跡―災害公営住宅整備事業（日の出町）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』
39	1993	『早稲橋Ⅶ遺跡―第1次・第2次発掘調査報告書―』	98	2018	『拝殿峠遺跡―市道北部環状線道路改良事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』
40	1993	『崎山遺跡群Ⅶ―平成4年度発掘調査概報―』	99	2018	『赤前Ⅲ遺跡・赤前Ⅳ八枚田遺跡―市道赤前上下線道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』
41	1994	『崎山遺跡群Ⅷ―平成5年度発掘調査概報―』	100	2019	『千鶴Ⅳ遺跡（第2次調査）―東日本大震災復興関連発掘事業に伴う個人住宅関係発掘調査報告書1―』
42	1995	『赤前Ⅰ牛子沢遺跡―平成4年度発掘調査報告書―』	101	2019	『折壁館・中里遺跡・弘川Ⅰ遺跡・和井内清水遺跡・重茂館遺跡群―上下水道部生活排水課水設浄化槽整備事業に伴う発掘調査報告書1―』
43	1995	『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』			
44	1995	『崎山貝塚―範囲確認調査報告書―』			
45	1995	『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ沖遺跡―市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
46	1995	『花原市遺跡―平成4年度発掘調査報告書―』			
47	1995	『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅵ遺跡・崎山貝塚』			
48	1996	『大付遺跡―平成5年・6年度発掘調査報告書―』			
49	1997	『花原市遺跡―平成8年度発掘調査報告書―』			
50	1997	『白石遺跡―第6次発掘調査報告書―』			
51	1998	『赤畑・天神山・山口館―北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書―』			
52	1998	『藤畑遺跡―平成9年度発掘調査報告書―』			
53	1999	『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡―水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
54	1999	『千鶴Ⅳ遺跡―水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
55	1999	『崎山貝塚―第12次・13次内容確認調査概報』			
56	2000	『木戸井内Ⅵ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡―特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
57	2002	『山口館跡―北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書―』			
58	2002	『小沢Ⅵ大上遺跡―市内遺跡発掘調査報告書2―』			
59	2003	『大又沢Ⅵ遺跡―東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書―』			

宮古市埋蔵文化財調査報告書 102

あ か ま え 1 う し こ ざ わ
赤前Ⅰ牛小沢遺跡

—東日本大震災復興関連発掘調査事業に伴う

個人住宅関係発掘調査報告書 2—

2019. 3

平成31年3月29日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会
〒 027-8501 宮古市宮町一丁目1番30号
TEL. 0193-62-2111

編集 宮古市教育委員会事務局 文化課
〒 027-0097 宮古市崎山第1地割16番地1
TEL. 0193-65-7526

印刷 株式会社文化印刷
〒 027-0037 岩手県宮古市松山5地割13番地6
TEL. 0193-62-4578
